

2016

授業計画

Syllabus

宝塚大学 看護学部
助産学専攻科



平成28年度授業科目・担当者一覧表

看護学部 看護学科

I 基礎分野

<科目名>	<担当者名>	<ページ>
生きた人間学	加畑公一郎	17
統計学入門	宮阪 信次	18
論理の世界	原田 淳平	19
心理学への招待	岩城 晶子	20
情報心理学	増尾 慶裕	21
ヒトと生物学	堀家なな緒	22
環境と生態	養父志乃夫	23
化学	山口 三郎	24
人間関係概論	岩城 晶子	25
情報化と社会	宮阪 信次	26
メディア社会学	北垣 博美	27
ヘルスケア・マーケティング	川島 隆志	28
生活の中の法律	岡田 康志	29
文芸論	河内 厚郎	30
文章表現法 I	加畑／北垣	31
ファッションアートサーヴェイ	横越谷勝雄	32
マスコミと報道	加畑公一郎	33
西洋美術の源流	森口まどか	34
伝統芸術表現研究 I (茶道と香道の理論と表現)	飯島 照仁	35
伝統芸術表現研究 II (生け花の理論と表現)	小林 秀加	36
伝統芸術表現研究 III (書芸術の理論と表現)	池田 方彩	37
英語 I (Reading 1)	毛利 郁子	38
英会話 I (Listening & Speaking 1)	池田美智子	39
フランス語 I	渋谷 直樹	40
中国語会話 I	潘 建秀	41
ビジネス中国語	潘 建秀	42
イタリア語 I	中川 光	43
ドイツ語 I	溝邊 敬一	44
教育学概論	伊佐 夏実	45
発達心理学	小川 詩乃	46
ジェンダー論	木村 千尋	47
民俗学	鈴木 洋昭	48
医療ジャーナリズム論	朝野 富三	49
英語 II (Writing 1)	毛利 郁子	50
英語 II (Writing 1)	池田美智子	51
英語 II (Writing 1)	永田 祥子	52
英会話 II (Listening & Speaking 2)	永田 祥子	53
英語 III (Reading 2)	永田 祥子	54
英語 IV (Writing 2)	池田美智子	55
フランス語 II	渋谷 直樹	56

中国語会話 II	潘 山海	57
イタリア語 II	小松 寛明	58
ドイツ語 II	溝邊 敬一	59
文章表現法 II	加畑公一郎	60

II 専門基礎分野

医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	61
医療行動科学	日高 庸晴	62
栄養と健康	坂元 美子	63
人体構造機能論 I (人体の構造と機能)	巽 圭太	64
人体構造機能論 II (人体の機能と生理)	山口 三郎	65
病態治療学 I (総論と主な疾患)	高原 史郎	66
生化学	堀家なな緒	67
感染と免疫	入江 章子	68
情報処理 I (入門編)	林 勇気	69
情報処理 II (応用編)	吉田 浩	70
癒しと芸術	中村 貞夫	71
病態治療学 II (内科系)	巽 圭太	72
病態治療学 III (外科系)	高原 史郎	73
薬理学	内海 美保	74
疫学	日高 庸晴	75
福祉情報技術	宮阪 信次	76
カウンセリング	増田 千景	77
社会保障と福祉	長谷川章子	78
医療と情報 (保健統計)	日高 庸晴	79
医療と経済	川島 隆志	80
生涯教育論	伊佐 夏実	81
運動と健康	今村ふみ子	82

III 専門分野

基礎看護学 I (概論)	峯岸由紀子	83
基礎看護学 II (コミュニケーション技術)	澤田 京子	84
基礎看護学 III (健康教育)	峯岸／澤田／假谷／大内	85
基礎看護学 IV-1 (基礎看護技術)	澤田／假谷	86
基礎看護学 IV-2 (基礎看護技術)	澤田／假谷	87
基礎看護学 V (フィジカルアセスメント)	澤田／假谷	88
基礎看護学 VI (看護過程)	峯岸由紀子	89
成人看護学 I (概論)	瀬川 睦子	90
成人看護学 II (急性期・回復期援助論)	片山 康子	91
成人看護学 III (慢性期・終末期援助論)	山口／岩下	92
成人看護学 IV (援助方法論)	岩下／佐藤／成人看護学領域教員	93
老年看護学 I (概論)	原田 俊子	94
老年看護学 II (疾病と障害)	原田 俊子	95
老年看護学 III (理論とアセスメント)	原田 俊子	96

老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	原田 俊子	97
小児看護学Ⅰ（概論と保健）	合田 友美	98
小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	合田 友美	99
小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	合田／西田／福島	100
小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	西田／福島	101
母性看護学Ⅰ（概論）	溝口 全子	102
母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	溝口 全子	103
母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	上山 直美	104
母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	上山／堀	105
精神看護学Ⅰ（精神保健）	八田 勘司	106
精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	八田 勘司	107
精神看護学Ⅲ（施設における援助）	高橋 篤信	108
精神看護学Ⅳ（地域における援助）	美王 真紀	109
在宅看護論Ⅰ（概論）	上田 裕子	110
在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	藤田／寺田	111
在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	藤田／寺田	112
在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	上田 裕子	113
看護と芸術Ⅰ－①（絵画療法）	木村 千尋	114
看護と芸術Ⅰ－②（音楽療法）	武田倫衣子	115
看護と芸術Ⅰ－③（笑い療法）	八田 勘司	116
看護と芸術Ⅰ－④（セラピーメイク）	中井美賀子	117
看護と芸術Ⅰ－⑤（陶芸療法）	上田 順平	118
看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	植松／木村／北澤／炭釜	119
看護教育学	峯岸由紀子	120
看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	石田紀代美	121
看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	嶋田／峯岸	122
地域リハビリテーション論	三好 弘之	123
移植コーディネーション論	高原 史郎	124
看護研究の方法	日高／上山／合田／藤田／岩下／片山	125
看護の探究（看護の統合）	看護系教員	126
海外看護活動論	天野／吉井	127

Ⅳ 専門分野（臨地実習科目）

基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	峯岸／澤田／假谷	129
基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	峯岸／澤田／假谷／大内	130
成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	瀬川／山口／岩下真／片山／佐藤	131
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	瀬川／山口／岩下真／片山／佐藤	132
老年看護学実習	原田 俊子	133
小児看護学実習	合田／西田／福島	134
母性看護学実習	溝口／上山／堀	135
精神看護学実習	八田／美王／高橋	136
在宅看護論実習	藤田／上田／寺田	137
総合実習	看護系教員	138

助産学専攻科

Ⅰ 基礎助産学

<科目名>	<担当者名>	<ページ>
助産学概論	小神野雅子	151
周産期の生理と病態Ⅰ	前原 将男	152
周産期の生理と病態Ⅱ	奥 正孝	153
母子の心理社会学	安達圭一郎	154

Ⅱ 助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	小神野雅子	155
助産診断・技術学Ⅱ	小神野雅子	156
助産診断・技術学Ⅲ	松田 佳子	157
助産診断・技術学Ⅳ	松田 佳子	158
助産診断・技術学演習Ⅰ	小神野／松田／中尾	159
助産診断・技術学演習Ⅱ	小神野／松田／中尾	160

Ⅲ 地域母子保健論

地域母子保健論	徳永 羊子	161
---------	-------	-----

Ⅳ 助産管理

助産管理学	小神野雅子	163
-------	-------	-----

Ⅴ 助産学実習

助産学実習Ⅰ	小神野／松田／中尾	165
助産学実習Ⅱ	小神野／松田／中尾	166
助産学実習Ⅲ	小神野／松田／中尾	167
地域母子保健実習	小神野／松田／中尾	168

Ⅵ 助産学実践関連

助産学研究	松田／小神野	169
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	170
アートとグリーフケア	坂下 裕子	171
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	172
アタッチメント・ベビーマッサージ	松田／小神野	173

看護学部

看護学科

2016年度（平成28年度） 授業計画（SYLLABUS）

目 次

看護学部

平成28年度授業科目・担当者一覧表	1
卒業要件	10
教育課程（2012年度以降入学生）	11
教育課程（2011年度入学生）	13
授業科目（授業要項と授業内容）、凡例	15
Ⅰ 基礎分野	17
Ⅱ 専門基礎分野	61
Ⅲ 専門分野	83
Ⅳ 専門分野（臨地実習科目）	129

看護学部教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

アドミッションポリシー

1. 人間の生命と健康に関心を持ち、社会に貢献したいという意欲のある人
2. 豊かな感性と誠実な心で、人と接することのできる人
3. 科学的思考を身につけ、看護専門職として、心と体のトータルケアを学ぶ意欲のある人
4. 幅広く学問を学ぼうとする、向上心・探求心・創造性を持っている人

カリキュラムポリシー

教育研究上の目的である「看護・保健の職務の実践に必要な知識、技術及び能力と幅広い教養を修得し、看護・保健・医療の向上に寄与する人材を育成すること」を達成するために、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に区分し、それぞれの教育が有機的に連携し、体系的に学習できるように編成する。

- (1) 「基礎分野」は、将来看護職として活躍していく上で、その基盤となる人間や社会、文化に対する知識と技能を修得し、人間形成の根幹となる主体的な自己を確立し、豊かな人間性の涵養とさまざまな看護の場面に適応できる幅広い思考力・判断能力の基礎を培い多様な視点を得ることを目的とする科目群を設定する。特に芸術に関する科目を多く

取り入れる。また、看護と言葉では、国際理解をするために、外国語によるコミュニケーション能力を養う科目を設定する。

- (2) 「専門基礎分野」は、専門分野を学ぶための基礎と位置づけし、看護をダイナミックに、かつ多面的に捉える基礎的な能力を育成するために、人間の健康と環境と関係を理解する科目群を設定する。特に、生命の尊重や生命倫理について考える科目や、人体を系統立てて理解し、健康・疾病に関する理解に基づいた観察力、判断能力を培うとともに、情報や人々の社会資源活用に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識、地域における関係機関などとの調整能力を発揮するための基礎となる科目群を設定する。また、癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を設定する。
- (3) 「専門分野」は、＜看護の基盤となる領域＞＜看護を発展させる領域＞＜看護を応用する領域＞＜看護の技を習得する領域＞とし、看護の対象となる人々を理解し、必要な看護を科学的根拠に基づいて創造し、実践するための科目群を設定する。また、「看護を応用する領域」では、将来看護の指導者や管理者、リーダーとして活躍するための基礎を培う科目を設定する。また、芸術の持つ癒しやアートを看護に応用する科目や、癒しや創造性を養う科目を設定する。

ディプロマポリシー

1. 幅広い教養を身につけ、豊かな人間性と倫理観を備え、十分なコミュニケーション能力を有していると認められること。
2. 看護師としての十分な専門的知識や技術・技能を有すると認められること。
3. 医療現場において常に自己研鑽に努める姿勢とともに、地域住民の健康生活を支援する能力・意欲を有していると認められること。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。「Student Guide Book 2016」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け目標を掲げていることでしょう。それぞれの進路に合わせ、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2016年4月1日

宝塚大学
看護学部

2016年度（平成28年度）学年暦

宝塚大学 看護学部（大阪梅田キャンパス）

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
H 28 ・ 4 月						1	2	4/1・2・4 オリエンテーション・ガイダンス・前期履修登録（4/5まで）	10 月							1	10/3～5 履修登録修正期間 領域別実習（10月～3月）
	③	4	5	6	7	8	9	4/5 入学式		②	3	4	5	6	7	(8)	10/8・9 宝翔祭・10/8 特別休業日
	⑩	11	12	13	14	15	16	4/6 前期授業開始		⑨	⑩	11	12	13	14	15	10/10 平常授業実施
	⑬	18	19	20	21	22	23	4/11～4/13 履修登録修正期間		⑬	17	18	19	20	21	22	
	⑭	25	26	27	28	⑲	30	4/29 平常授業実施		⑭	24	25	26	27	28	29	
										⑳	31						
5 月	①	(2)	③	④	⑤	6	7	5/2月 創立記念日振替休業日	11 月			1	2	③	4	5	11/3 平常授業実施
	⑧	9	10	11	12	13	14	領域別実習（5月～7月）		⑥	7	8	9	10	11	12	
	⑮	16	17	18	19	20	21			⑬	14	15	16	17	18	19	
	⑳	23	24	25	26	27	28	5/23月 創立記念日（5/2に振替）		⑳	21	22	㉓	24	25	26	11/23 平常授業実施
	㉑	30	31							㉑	28	29	30				
6 月				1	2	3	4		12 月					1	2	3	
	⑤	6	7	8	9	10	11			④	5	6	7	8	9	10	
	⑫	13	14	15	16	17	18			⑪	12	13	14	15	16	17	
	⑬	20	21	22	23	24	25			⑱	19	20	21	22	㉓	24	
	㉔	27	28	29	30					㉕	26	27	(28)	(29)	(30)	(31)	年末年始休業（12/28～1/5）
7 月						1	2	総合実習（7月～8月・2週間）	H 29 ・ 1 月	①	②	(3)	(4)	(5)	6	7	
	③	4	5	6	7	8	9			⑧	⑨	10	11	12	13	14	
	⑩	11	12	13	14	15	16			⑮	16	17	18	19	20	21	1/21・24・25 補講期間
	⑬	⑬	19	20	21	22	23	7/18 平常授業実施		㉑	23	24	25	26	27	28	1/24・25 4年次生定期試験
	㉒	25	26	27	28	29	30	7/22・23・27 補講期間		㉒	30	31					1/23 後期授業終了
	㉓							7/26 前期授業終了									1/26～2/1 後期定期試験
8 月		1	2	3	4	5		8/4～8/10及び8/22～8/27宝塚キャンパス集中講義	H 29 ・ 2 月				1	2	3	4	2/2・3 4年次生 追・再試験
	⑦	8	9	10	⑪	(12)	(13)			⑤	6	7	8	9	10	⑪	
	⑭	(15)	(16)	(17)	18	19	20	夏季休業(8/12～17)		⑫	13	14	15	16	17	18	2/13～2/15 1・2年次生 追・再試験
	㉑	22	23	24	25	26	27	8/19～8/23 前期追再試験		⑱	20	21	22	23	24	25	2/17～3/13 基礎看護学実習Ⅱ（2年次生）
	㉒	29	30	31				8/29～9/9 基礎看護学実習Ⅰ（1年次生）		㉑	27	28					
9 月					1	2	3		H 29 ・ 3 月				1	2	3	4	
	④	5	6	7	8	9	10			⑤	6	7	8	9	10	11	3/11 学位記授与式（予定）
	⑪	12	13	14	15	16	17			⑫	13	14	15	16	17	18	
	⑬	⑬	20	21	㉒	23	24	9/21 9月卒業者学位記授与式（予定）		⑱	⑳	21	22	23	24	25	
	㉔	26	27	28	29	30		9/23 後期ガイダンス・後期履修登録（9/27まで）		㉑	27	28	29	30	31		
								9/24 後期授業開始									

曜日別の授業回数

	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

…授業日
…定期試験

…日曜・祝祭日（休業日）

卒業要件

本学を卒業するためには4年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

看護学部
看護学科

2012年度以降入学生

基 礎 分 野	28単位	以上
専門基礎分野	29単位	以上
専 門 分 野	71単位	以上
計	128単位	以上

2011年度入学生

基 礎 分 野	24単位	以上
専門基礎分野	29単位	以上
専 門 分 野	73単位	以上
全分野(選択科目)	2単位	以上
計	128単位	以上

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式	科目番号(連番)
KGE=基礎分野 KSB=専門基礎分野 KSP=専門分野	1=1年次レベル 2=2年次レベル 3=3年次レベル 4=4年次レベル	1=必修 2=選択必修 3=選択	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習
			01~99

看護学部 看護学科 教育課程 【2012 年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
基礎 分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1 後	2		30	必修6単位	選択10単位 以上 ※選択必修 科目群より 選択する ことも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択10単位以上 合計28単位以上
		統計学入門	KGE11201	1 後	2		30			
		論理の世界	KGE13101	1 前		2	30			
		心理学への招待	KGE13102	1 前		2	30			
		情報心理学	KGE13103	1 前		2	30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1 前	2		30			
		環境と生態	KGE13104	1 前		2	30			
		化学	KGE13105	1 前		2	30			
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1 前		2	30	—		
		教育学概論	KGE23101	2 前		2	30			
		発達心理学	KGE23102	2 前		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2 後		2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1 前		2	30			
		民俗学	KGE23104	2 後		2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1 後		2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2 前		2	30			
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1 前		2	30			
		生活の中の法律	KGE13110	1 前		2	30			
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1 後		2	30	必修2単位		
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1 前	2		30			
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3 前		2	30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1 前		2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1 前		2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1 前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1 前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1 前		2	30			
	人間と語学	伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1 前		2	30	選択必修 2単位		
		英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1 通	2		60	必修6単位		
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2 通	2		60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1 通	2		60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2 通		2	60	選択必修 2単位		
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2 通		2	60			
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2 通		2	60			
フランス語Ⅰ		KGE12301	1 通		2	60				
フランス語Ⅱ		KGE22304	2 通		2	60				
中国語会話Ⅰ		KGE12302	1 通		2	60				
中国語会話Ⅱ		KGE22305	2 通		2	60				
ビジネス中国語		KGE12303	1 通		2	60				
イタリア語Ⅰ		KGE12304	1 通		2	60				
イタリア語Ⅱ		KGE22306	2 通		2	60				
ドイツ語Ⅰ		KGE12305	1 通		2	60				
ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2 通		2	60					
専門 基礎 分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1 後	2		30	必修6単位	選択6単位 以上	必修23単位 選択6単位以上 合計29単位以上
		医療行動科学	KSB13101	1 後		2	30			
		生涯教育論	KSB23101	2 後		2	30			
		癒しと芸術	KSB21101	2 前	2		30			
		栄養と健康	KSB11102	1 後	2		30			
		人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1 前	2		60			
	人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1 後	1		30				
	病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1 後	1		30				
	病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1後2前	2		60				
	病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2 前	1		30				
	生化学	KSB11107	1 後	1		30				
	薬理学	KSB21103	2 前	1		30				
	感染と免疫	KSB11108	1 後	1		30				
	疫学	KSB21104	2 後	2		30				
	医療と情報（保健統計）	KSB31201	3 前	2		30				
	運動と健康	KSB33201	3 前		2	30	必修3単位			
	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1 前	1		30				
	情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1 後		1	30				
	福祉情報技術	KSB23201	2 前		2	30				
	医療と経済	KSB33101	3 前		2	30				
関係の発展	カウンセリング	KSB23102	2 前		1	30				
	社会保障と福祉	KSB21105	2 後	2		30				

通＝通年科目

看護学部 看護学科 教育課程 【2012 年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考				
					必修	選択		必修	選択	卒業要件		
専門分野	看護の基礎となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1 前	1		30	必修8単位	—	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上		
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1 前	1		30					
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2 後	1		30					
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1 前	1		30					
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1 後	2		60					
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2 前	1		30					
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2 前	1		30					
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1 後	1		30	必修26単位				
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2 後	2		60					
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2 後	1		30					
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3 前	2		60					
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2 前	1		30					
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2 後	1		15					
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2 前	1		30					
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3 前	1		30					
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2 前	1		30					
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2 後	1		15					
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2 後	1		30					
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3 前	1		30					
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2 前	1		30					
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2 後	1		15					
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2 後	1		30					
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3 前	1		30					
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2 前	1		30					
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2 後	1		15					
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2 後	1		30					
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3 前	1		30					
		在宅看護論Ⅰ（概論）	KSP21109	2 前	1		15					
		在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	KSP21210	2 後	1		15					
		在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	KSP31303	3 前	1		30					
		在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	KSP31203	3 前	1		30					
		看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3 前		2				30	選択必修 4単位以上
			看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3 前		2				30	
			看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3 前		2				30	
	看護と芸術Ⅰ-④（セラピーメイク）		KSP32204	3 前		2	30					
	看護と芸術Ⅰ-⑤（陶芸療法）		KSP32205	3 前		2	30					
	看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）		KSP41101	4 後	2		30	必修2単位				
	看護教育学		KSP42101	4 後		1	15	必修1単位				
	海外看護活動論		KSP42102	4 後		2	30					
	看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）		KSP31102	3 前	1		30					
	看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）		KSP42103	4 後		2	30					
	地域リハビリテーション論		KSP32101	3 前		2	30					
	移植コーディネーション論		KSP42104	4 後		2	30	選択必修 4単位以上				
	看護研究の方法		KSP31204	3 前	1		30					
看護の探究（看護の統合）	KSP41201		4 後	2		60						
必修3単位												
看護の技を修得する領域	基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1 前	1		45	必修23単位					
	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2 後	2		90						
	成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3 後4前	3		135						
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3 後4前	3		135						
	老年看護学実習	KSP31403	3 後4前	4		180						
	小児看護学実習	KSP31404	3 後4前	2		90						
	母性看護学実習	KSP31405	3 後4前	2		90						
	精神看護学実習	KSP31406	3 後4前	2		90						
	在宅看護論実習	KSP31407	3 後4前	2		90						
	総合実習	KSP41401	4 前	2		90						

看護学部 看護学科 教育課程 【2011 年度入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考			
					必修	選択		必修	選択	卒業要件	
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1 後	2		30	必修6単位	選択6単位以上 ※選択必修科目群より 選択することも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択6単位以上 合計24単位以上	
		統計学入門	KGE11201	1 後	2		30				
		論理の世界	KGE13101	1 前		2	30				
		心理学への招待	KGE13102	1 前		2	30				
		情報心理学	KGE13103	1 前		2	30				
		ヒトと生物学	KGE11102	1 前	2		30				
		環境と生態	KGE13104	1 前		2	30				
		化学	KGE13105	1 前		2	30				
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1 前		2	30	—			
		教育学概論	KGE23101	2 前		2	30				
		発達心理学	KGE23102	2 前		2	30				
		ジェンダー論	KGE23103	2 後		2	30				
		情報化と社会	KGE13107	1 前		2	30				
		民俗学	KGE23104	2 後		2	30				
		メディア社会学	KGE13108	1 後		2	30				
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2 前		2	30				
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1 前		2	30				
		ユニバーサルコンピュータシステムデザインⅠ	KGE23201	2 後		2	60				
		ユニバーサルコンピュータシステムデザインⅡ	KGE33201	3 前		2	60				
		生活の中の法律	KGE13110	1 前		2	30				
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1 後		2	30	必修2単位			
		文章表現法	KGE11104	1 前	2		30				
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1 前		2	30				
		マスコミと報道	KGE13113	1 前		2	30				
		西洋美術の源流	KGE13114	1 前		2	30	選択必修 2単位			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1 前		2	30				
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1 前		2	30				
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1 前		2	30				
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1 通	2		60	必修6単位			
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2 通	2		60				
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1 通	2		60				
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2 通		2	60	選択必修 2単位			
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2 通		2	60				
英語Ⅳ（Writing2）		KGE22303	2 通		2	60					
フランス語Ⅰ		KGE12301	1 通		2	60					
フランス語Ⅱ		KGE22304	2 通		2	60					
中国語会話Ⅰ		KGE12302	1 通		2	60					
中国語会話Ⅱ		KGE22305	2 通		2	60					
ビジネス中国語		KGE12303	1 通		2	60					
イタリア語Ⅰ		KGE12304	1 通		2	60					
イタリア語Ⅱ		KGE22306	2 通		2	60					
ドイツ語Ⅰ		KGE12305	1 通		2	60					
ドイツ語Ⅱ		KGE22307	2 通		2	60					
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1 後	2		30	必修6単位	選択2単位以上	必修27単位 選択2単位以上 合計29単位以上	
		医療行動科学	KSB13101	1 後		2	30				
		生涯教育論	KSB23101	4 後		2	30				
		癒しと芸術	KSB21101	2 前	2		30				
		栄養と健康	KSB11102	1 後	2		30				
		人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1 通	2		60				必修16単位
	人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1 前	1		30					
	病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1 後	1		30					
	病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	2 前	2		60					
	病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2 前	1		30					
	生化学	KSB11107	1 後	1		30					
	薬理学	KSB21103	2 前	1		30					
	感染と免疫	KSB11108	1 後	1		30					
	疫学	KSB21104	2 後	2		30					
	医療と情報（保健統計）	KSB31201	3 前	2		30					
	健康管理論	KSB31101	3 前	2		30					
	関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1 前	1		30	必修5単位			
		情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1 後		1	30				
		福祉情報技術	KSB23201	2 前		2	30				
		医療と経済	KSB33101	3 前		2	30				
		カウンセリング	KSB23102	2 前		1	30				
		社会保障と福祉	KSB21105	2 後	2		30				
		保健福祉行政論	KSB31202	3 前	2		30				

* 全分野より選択科目 2 単位以上の履修が必要

看護学部 看護学科 教育課程 【2011 年度入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
専門 分野	看護の基礎となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1 前	1		30	必修8単位	—	必修69単位 選択必修4単位以上 合計73単位以上 (保健師課程選択者) 必修69単位 選択必修8単位以上 合計77単位以上
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2 後	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1 後	2		60			
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2 前	1		30			
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2 前	1		30			
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1 後	1		30	必修32単位		
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2 後	2		60			
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2 後	1		30			
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3 前	2		60			
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2 後	1		15			
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3 前	1		30			
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2 前	1		30			
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2 後	1		15			
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2 後	1		30			
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3 前	1		30			
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2 前	1		30			
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2 後	1		15			
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2 後	1		30			
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3 前	1		30			
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2 前	1		30			
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2 後	1		15			
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2 後	1		30			
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3 前	1		30			
		地域看護学Ⅰ（概論）	KSP21110	2 前	2		30			
		地域看護学Ⅱ（保健活動論）	KSP21211	2 前	2		60			
		地域看護学Ⅲ（在宅看護）	KSP21301	2 後	2		30			
		地域看護学Ⅳ（学校・産業保健）	KSP31103	3 前	2		30			
		地域看護学Ⅴ（地域ケアシステム論）	KSP31104	3 前	2		60			
	看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3 前		2	30	選択必修 2単位以上		
		看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	KSP41101	4 後	2		30	必修2単位		
		看護教育学	KSP42101	4 後		1	15			
		国際看護	KSP42105	4 後		1	15	必修1単位 選択必修 2単位以上		
		看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	KSP31102	3 前	1		15			
		看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	KSP42103	4 後		1	15			
		地域リハビリテーション論	KSP32101	3 前		1	30			
		移植コーディネーション論	KSP42104	4 後		1	30			
		看護研究の方法	KSP31204	3 前	1		30	必修3単位		
		看護の探究（看護の統合）	KSP41201	4 後	2		60			
	看護の技を修得する領域	基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1 後	1		45	必修19単位		
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2 前	2		90			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3 後 4 前	3		135			
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3 後 4 前	3		135			
		老年看護学実習	KSP31403	3 後 4 前	4		180			
		小児看護学実習	KSP31404	3 後 4 前	2		90			
		母性看護学実習	KSP31405	3 後 4 前	2		90			
		精神看護学実習	KSP31406	3 後 4 前	2		90			
		地域看護学実習 ※保健師課程選択者のみ履修可	KSP42401	4 前		4	180	選択必修4単位		
		在宅看護実習	KSP31408	3 後 4 前	2		90	必修4単位		
		総合実習	KSP41401	4 前	2		90			

* 全分野より選択科目 2 単位以上の履修が必要

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2016年度（平成28年度）のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
 - IV. 専門分野（臨地実習科目）
2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目に分けて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。
3. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生きた人間学	加畑公一郎	講義	1年次 後期	必修	2	30	KGE11101

科目の概要

人間は一人ひとり違う顔をしているが、冷たい風が吹いたら首をすくめ、暑い日には額の汗を手でぬぐう。そのしぐさは似ている。顔は違っていても人間の生き方の芯には共通した何かがあるのではないか。その芯にあるものを確かめるのが、この講義である。さまざまな場所で自分や社会と格闘してきた人々の生き方を検証する。

到達目標

- ・人はどんなときに自分を見失い、どうやって自分を取り戻すのか。それを事例から学ぶことで、人間や社会への観察力が養われる。
- ・病気、孤独、障害、同調圧力など、人間の自立をはばもうとするものに立ち向かう意志が培われ、人間愛への関心が深まる。
- ・文章や映像記録などに刻まれた「情報」の背後にある人間社会の真相・深層にせまる探求心が鍛えられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	時代に向き合う① 戦時下の「隣組」「婦人会」の生き方
第2回	時代に向き合う② 「忘れられる」ことに抗い続けたシベリア帰りの詩人
第3回・AL	時代に向き合う③ 盲目の遊芸人が聞いた「本当の音」
第4回・AL	時代に向き合う④ 熱狂から離れて横を向く人間の大切さ
第5回	世間と自分① 貧困は自己責任か
第6回・AL	世間と自分② 人を裁くのは法律ではない
第7回	世間と自分③ ネット社会の病理
第8回	姿勢の取り方① キツネにだまされなくなった日本人
第9回	姿勢の取り方② ブランド信仰の落とし穴
第10回・AL	姿勢の取り方③ 身体の「身」を取り戻
第11回	姿勢の取り方④ 「リトリート」という生き方
第12回・AL	プロフェッショナルの仕事① 臆病さが生み出す見事な職人芸
第13回	プロフェッショナルの仕事② 混ぜれば分からない——偽装の真相
第14回・AL	プロフェッショナルの仕事③ 校長が児童を叩いた理由
第15回	プロフェッショナルの仕事④ 「弱さ」が持っている「強さ」

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末レポート50%、中間テスト30%、小テスト（2回）20%
教科書	使用しない
参考文献	必要に応じて授業で紹介する。
オフィスアワー	出講日の授業の前後。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	授業で強調するキーワードは複数の講義につながっているので確実に理解すること。
備考	日常的に新聞やテレビのニュースに接して、さまざまな人間の生き方について考えることを習慣づけたい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
統計学入門	宮阪 信次	講義・演習	1 年次 後期	必修	2	30	KGE11201

科目の概要

自然科学をはじめ医療・看護など様々な状況で利用されている統計学の必要性を理解したうえで、統計に対する基本的事項を習得し、看護現場で科学的に状況を把握し判断・分析ができる能力を養う。

到達目標

統計の様々な値の特性（代表値、平均値等）や相関関係など初歩的な統計について理解する。そして、標本データのまとめ方、分布の形状、母集団（観測対象の全体）について推測・検定を行う筋道が理解できるように講義を進める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	統計学の基礎(受講の手引き、Excel関数の基礎、Powerpointの基礎)
第 2 回・AL	1 次元のデータの基本統計量について学ぶ(1)(度数分布とヒストグラフ 個人課題のプレゼンテーション)
第 3 回	1 次元のデータの基本統計量について学ぶ(2)(代表値と散らばりの尺度)
第 4 回	2 次元のデータの分析(1)(散布図とクロス集計)
第 5 回・AL	2 次元のデータの分析(2) グループワーク(カーテンの色はなにがいいか)
第 6 回・AL	記述統計学の総合演習(グループワーク)
第 7 回・AL	総合演習の発表会
第 8 回	確率変数と確率分布について学ぶ(正規分布を中心に)
第 9 回	標本分布について学ぶ(母集団と標本、正規分布からの標本)
第10回	統計的推定について学ぶ(平均の区間推定)
第11回	統計的検定について学ぶ(1)
第12回	統計的検定について学ぶ(2)
第13回・AL	推測統計学の総合演習(グループワーク)
第14回・AL	発表会と分散分析法についてまなぶ
第15回	多変量解析の紹介とまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験（50%）、グループ課題（30%）、提出物（20%）
教科書	「はじめての統計学」，鳥居泰彦、日本経済新聞社出版
参考文献	「よくわかる医療・看護のための統計入門」、石村貞夫ほか、東京図書出版
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義時に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと 講義中に出す課題について個人ホルダーに作成すること
備考	講義・実習が後の講義・実習に大きく影響するので欠席がないようにしてください EXCEL, POWERPOINT は講義・実習で不可欠なツールであるので基本機能をマスターしておいてください

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
論理の世界	原田 淳平	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13101

科目の概要

論理的に思考し、論理的に適切なかたちで自分の考えを表現する力は、就職活動・社会生活を成功させるために必須のスキルです。この講義では、日常的なことばのやりとりの中に存在する論理を理解し、実践的な練習を通じて、論理的思考力と表現力を向上させます。

到達目標

- ・普段暗黙裡に理解している文と文の接続関係、および各文の全体における役割を明示化することで、それらについての知識を深める。
- ・様々な形の論証を読み解き、また自らの手で組み立てる力を養う。
- ・自分のアイデアないし主張を、論理的に構成し相手にわかりやすく伝える能力を培う。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	本講義で主題とする「日常言語の論理」と本講義では主題的には取り扱わない「形式的な論理」の違いを解説する。
第 2 回・AL	重要な接続関係のうち「解説」「根拠」「例示」を、諸事例を見ながら解説する。(グループワーク)
第 3 回	重要な接続関係のうち「解説」「根拠」「例示」を、演習問題を通じて習得する。
第 4 回・AL	重要な接続関係のうち「付加」「転換」「補足」を、事例を見ながら解説する。(グループワーク)
第 5 回	重要な接続関係のうち「付加」「転換」「補足」を、演習問題を通じて習得する。
第 6 回	文章における指示関係の機能を解説する。
第 7 回・AL	文章における指示関係の機能を、演習問題を通じて習得する。(グループワーク)
第 8 回	これまでの議論をふまえたうえで接続構造を分析する手法を導入・解説する。
第 9 回・AL	接続構造の分析手法を、演習問題を通じて習得する。(グループワーク)
第10回	主題、問題、主張という観点から議論の構造と基本形式を把握する。
第11回・AL	議論の構造と基本形式について演習問題を通じて理解を深める。(グループワーク)
第12回	論証の構造を把握するための論証図を作成する技法を導入する。
第13回・AL	論証図を作成する技法を、演習問題を通じて習得する。(グループワーク)
第14回	論証の適切さを評価する手法について解説する。
第15回	論証の適切さを評価する手法を、演習問題を通じて習得する。

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	毎授業後回収する授業に対するコメント 15 点、定期的な練習課題 35 点、筆記試験 50 点
教 科 書	特になし
参 考 文 献	『新版 論理トレーニング』野矢茂樹著 (産業図書)、『論理トレーニング 101 題』野矢茂樹著 (産業図書)
オ フィ ス ア ワ ー	講義後教室にて
事前学習 (内容・時間) 事後学習 (内容・時間)	およそ 2 回の講義に 1 回のペースで宿題を出すので、次の授業で提出すること。 筆記試験は期末試験のみなので、授業内容を復習し、試験に備えて知識の定着に務めること。
備 考	毎回の授業時に出席確認を兼ねた紙を配ります。それに授業で分からなかったことや改善して欲しい点など、授業に関するコメントを書いて下さい。また解説の回毎に、宿題として簡単な練習問題を出します。うまく解けなくてもかまいませんが、練習問題を通じて論理的に考える作業にある程度時間を費やしてもらうことになります。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
心理学への招待	岩城 晶子	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13102

科目の概要

本講義では、心理学の様々な知見を紹介する。この授業は、学問としての心理学における「心」の捉え方や研究結果を知り、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。「心」についての基本的な考え方や、その健康・不健康、社会と個人の心との関わりなどについて学び、日常生活において人がなぜそのような行動をとるのかということに対する答えを自分なりに考えたり、見つけることができるように活かしてもらいたい。

到達目標

- ・心理学の基礎、なかでも認知機能や、人間の発達過程などについて基礎的な知識を獲得すること。
- ・学んだ内容を基に、自分なりに理解した人間の「心」について、他者に伝えられるようになること。
- ・人間の「心」についての理解を、医療や看護領域においてどのように活かすか発展的に考えられるようになること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回・AL	心理学とは:こころの探求の目的や歴史について①
第 2 回・AL	心理学とは:こころの探求の目的や歴史について②
第 3 回・AL	心理学とは:研究方法と諸領域について
第 4 回・AL	感覚・知覚のメカニズムについて
第 5 回・AL	記憶:覚えること・忘れることのしくみ①
第 6 回・AL	記憶:覚えること・忘れることのしくみ②
第 7 回・AL	思考:考えることのしくみ①
第 8 回・AL	思考:考えることのしくみ②
第 9 回・AL	感情と動機づけ①
第10回・AL	感情と動機づけ②
第11回・AL	他者を知ることのしくみ
第12回・AL	パーソナリティ①
第13回・AL	パーソナリティ②
第14回・AL	発達:こころの成長と発展①
第15回・AL	発達:こころの成長と発展②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	小テスト 20%、定期試験 80%
教科書	授業中に資料を適宜配布。
参考文献	授業中に適宜提示する。
オフィスアワー	出講日の授業の前後。もしくは、事前に予約を取ること (a-iwaki@takara-univ.ac.jp)。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習:特に必要ないが、日常的に新聞やテレビのニュースなどに目を配っておくと有用である。 事後学習:その日の授業の内容を振り返り、自分なりに要点をノートにまとめること(1～2時間)、授業内で配布や提示される文献を自主的に読み内容を理解しておくこと。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
情報心理学	増尾 慶裕	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13103

科目の概要

情報に関連する認知心理学の理論を学び、身の回りにある情報を心理学的に活用する。アクティブラーニングを通して情報を活用する力（聞く力、表現する力、情報を収集する力、情報を整理する力、読む力、書く力、データを分析する力、プレゼンテーションする力）を修得する。

到達目標

- ・情報を活用するための心理学的な知識を理解する。
- ・情報を活用するための心理学的な技能を修得できる
- ・情報を活用するための意欲・態度を身につけることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	情報を活用するための心理学的な力
第 2 回・AL	アクティブラーニングのための認知心理学の構成主義学習論
第 3 回	情報活用のための認知心理学のスキーマ理論
第 4 回	学習意欲を向上するための認知心理学の期待理論
第 5 回	情報を活用するための聞く力
第 6 回・AL	情報を活用するための表現する力
第 7 回・AL	情報を活用するための情報を収集する力
第 8 回	情報を活用するための情報を整理する力
第 9 回	情報を活用するための読む力
第10回	情報を活用するための書く力
第11回	情報を活用するためのデータを分析する力
第12回・AL	情報を活用するためのプレゼンテーションする力
第13回	情報処理心理学
第14回	情報モラル
第15回	情報マナー、まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	試験 80%、提出物 20%
教 科 書	初回の講義において提示します。
参 考 文 献	なし
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義前
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	次回の教科書の学習内容を読んでおくこと。 講義で学習した教科書の内容を読んでおくこと。
備 考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
ヒトと生物学	堀家なな緒	講義	1 年次 前期	必修	2	30	KGE11102

科目の概要

生物は細胞を基本単位としている。ヒトは、1 個の受精卵という細胞から、約 60 兆個の細胞でできた個体へと発生する。前半では、細胞が自身の持つ遺伝情報に基づき、必要なタンパク質を合成し、様々な機能を発現していく基本原理を学ぶ。また、遺伝子の情報を子孫に伝達する仕組みや、栄養を吸収・代謝することでエネルギーを獲得する機構について学習し、生命活動における基本原理の理解を目指す。後半では、個体が様々な外的環境にさらされる中、内部環境を一定にする恒常性を維持するシステムについて、内分泌系、神経系、免疫系を中心に学ぶ。

到達目標

専門科目の履修に必要な生物学の基礎知識を習得する。特に、DNA に記された遺伝子の情報からどのようにしてタンパク質が合成されるのか、タンパク質がどのように働いて細胞の活動が営まれるのかを理解する。多数の分子が協調的に働くことにより生み出される情報伝達機構を把握し、生物とその諸機能や諸現象に対して興味や不思議さを感じてもらい、更なるステップへ進むための素養を培う。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	生命の定義(細胞、代謝、生殖、遺伝、調節)
第 2 回	細胞の基本構造
第 3 回	遺伝子の本体(DNAの構造、染色体)
第 4 回	遺伝情報(複製、転写、翻訳)
第 5 回	細胞増殖と体細胞分裂
第 6 回	生殖と減数分裂、ヒトの発生
第 7 回	代謝:好気呼吸(解糖系、クエン酸回路、電子伝達系)、嫌気呼吸(解糖)
第 8 回・AL	セントラルドグマ グループワークの実施
第 9 回	中間試験とまとめ(復習)
第10回	内分泌系 ホルモン1
第11回	ホルモン2
第12回	神経系(ニューロンとグリア細胞、伝導と伝達)
第13回	体液(血液、組織液、リンパ液)
第14回	免疫系(自然免疫と獲得免疫)
第15回・AL	恒常性の維持 グループワークの実施

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	アクティブラーニングの評価 (20%)・中間試験 (40%)・定期試験 (40%)
教科書	『看護系で役立つ生物の基本』西沢いずみ・有本淳一著 (化学同人)
参考文献	『Essential 細胞生物学』中村桂子・藤山秋佐夫・松原謙一監訳 (南江堂)『まるわかり基礎生物』小林秀明著 (南山堂)
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習 (教科書の授業範囲をよく読む。高校で学習した内容を確認しておく。60 分) 事後学習 (授業時の配布資料を教科書に沿って確認、要点を理解し、復習テストで知識を定着させる。90 分)
備考	専門分野に進む前に、生物学の基礎を掘り下げて解説します。日進月歩の医学の進展に対応するために、生物学的思考は必要不可欠です。大学の学習だけでなく、社会に出てからも、意欲的に学べる向上心を持った看護師になって下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
環境と生態	養父志乃夫	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13104

科目の概要

環境共生型社会を形成していくためには生態系の構造と環境及び暮らしとの関係を理解することが重要である。この授業では、日本の自然環境と生態系の概要を学び、古くから暮らしの礎となってきた里地里山における自然環境の役割とその機能について理解する。

日本の自然環境の特質について、過去から現在までの姿を学び、環境負荷の少ない、また、環境共生型の暮らしや循環型社会を作っていくための基礎学力を習得する。

到達目標

- ・日本の自然環境の基盤となっている里地里山の成り立ち、背景、構造に関する理解を持って合格（可）とする。
- ・生態系と循環型社会の暮らしとの関係を理解することによって「良」とする。
- ・里地里山での人々の営みと動植物との関係を理解することによって「優」とする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	基礎知識の習得1 1.生態系の構図、2.生態系の構造
第2回・AL	基礎知識の習得2 3.お米など食糧・食料生産構造の変貌、4.エネルギー源の変化と自然環境
第3回・AL	基礎知識の習得3 5.自然破壊など環境問題、6.生物多様性の減少
第4回・AL	暮らしと自然環境概観 循環型の暮らしを支えた土地利用
第5回・AL	エネルギーと里地里山 燃料の生産再生循環
第6回・AL	食糧と里地里山 主食生産と里地里山
第7回・AL	食料と里地里山 副食生産と里地里山
第8回・AL	習得成果プレゼンテーション 登壇者による発表と討論会
第9回・AL	里地里山と人々の暮らし 循環型の暮らしと生態系の相互関係
第10回・AL	動植物の姿 人々の暮らしと動植物の相互関係
第11回・AL	伝統的稲作と生態系 稲作と動植物の相互関係
第12回・AL	雑木林の再生と生態系 燃料や木材生産と動植物との相互関係
第13回・AL	諸外国の里地里山 米を主食にする国々での人々の暮らしと生態系
第14回・AL	習得成果プレゼンテーション 登壇者による発表と討論会
第15回・AL	到達度の確認 まとめ(試験)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	各回授業中にレポートを作成し、受講生の学習到達度を確認する(40%)。最終回に試験を実施し、合格点以上に単位を認定する(50%)。また、授業中に複数回受講生による習得成果のプレゼンテーションと討論を行う機会を設ける(10%)。積極的な登壇者には努力点を付加する。
教科書	なし
参考文献	『里山・里海暮らし図鑑』(柏書房刊)、『アジアの里山食生活図鑑』(柏書房刊)、『田んぼバイオトープ入門』(農文協刊)
オフィスアワー	出講日の講義時間の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	
備考	受講中は各自が授業内容を整理しながら筆記を行い、レポート作成に備えてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
化学	山口 三郎	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13105

科目の概要

現代生活のいたるところで様々な形で化学が溶け込んでいることから、安全で快適な生活のためには化学の知識が必要である。このことを前提に、現代化学の基礎を体系的に学ぶ。具体的には、原子や分子から始めて、物質の量的表現、化学反応、水と溶液や有機化学などを学ぶ。

到達目標

日常生活や医療の分野における化学現象や化学物質を正しく理解し、取り扱えるよう高校での化学を復習しながら講義を進める。また、これから履修する専門基礎分野の「生化学」、「栄養と健康」や「薬理学」などを学習するための化学の基礎を学ぶ。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	科学における化学
第2回	原子の構造：原子
第3回	原子の構造：元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学式、濃度の表し方
第6回	物質の状態と性質
第7回	気体の性質
第8回	化学反応と熱エネルギー
第9回	化学反応と化学平衡
第10回	水と溶液、透析と浸透圧
第11回	酸と塩基
第12回	酸化と還元
第13回	電池
第14回	有機化学(その1)
第15回	有機化学(その2)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	提出物（20％）・ペーパーテスト（80％）
教科書	『はじめて学ぶ化学』 野島高彦 著（化学同人）
参考文献	『化学 その現代的理解』 井本稔、岩本振武 著（東京化学同人）
オフィスアワー	出校日の授業の前後（各 30 分）
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	講義予定の部分の教科書を読む 教科書の章末問題をやる
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
人間関係概論	岩城 晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13106

科目の概要

人間とはさまざまな「関係」の中に生きる存在である。自分自身との関係、身近な他者との関係、友だち関係、所属する集団との関係、自分をとりまく社会との関係、そして関係の築き方など、臨床心理学の観点に基づきさまざまな「関係」について学び、考える。

到達目標

- ・心理学の基礎、なかでも人間関係の理解に必要とされる基礎的な事項を学習し、知識を得ること。
- ・心理学という科学の学習を通じて、論理的思考や批判的思考の力を養うこと。またそれを文章で伝えられるようになること。
- ・人間の心や関係性についての理解を、医療や看護領域においてどのように活かすか発展的に考えられるようになること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	臨床心理学とは:目的と歴史
第2回・AL	臨床心理学のさまざまな学派①
第3回・AL	臨床心理学のさまざまな学派②
第4回・AL	臨床心理学のさまざまな学派③
第5回・AL	人間の発達と関係性の発展(1)
第6回・AL	人間の発達と関係性の発展(2)
第7回・AL	人間の発達と関係性の発展(3)
第8回・AL	人間の発達と関係性の発展(4)
第9回・AL	人間の発達と関係性の発展(5)
第10回・AL	自己を知る①
第11回・AL	自己を知る②
第12回・AL	集団と個人との関わり①
第13回・AL	集団と個人との関わり②
第14回・AL	臨床の場における関係(1)
第15回・AL	臨床の場における関係(2)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	小テスト 20%、定期試験 80%
教科書	授業中に資料を適宜配布。
参考文献	授業中に適宜提示する。
オフィスアワー	出講日の授業の前。もしくは、事前に予約を取ること (a-iwaki@takara-univ.ac.jp)。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：特に指定しないが、日常的に新聞やテレビのニュース、自分の身の回りで起こっていることに関心を向けておくことが望ましい。 事後学習：その日の授業の内容をふり返り、自分なりに要点をノートにまとめること(1～2時間)。 授業内で紹介される文献を自主的に読み、自分なりに内容を理解しておくこと。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報化と社会	宮阪 信次	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13107

科目の概要

第4次産業革命の時代が、到来するといわれている。それは、経済や産業はもとより、私達のライフスタイルを大変革する可能性が高い。この授業では、情報技術革新の進展と社会システムの変革について最新情報を考察し、直面している少子高齢化問題などについても取組み、今度の方向について学習する。

到達目標

情報技術革新の進展が、現代の家族が抱える諸問題、社会システムをどのように変革しつつあるかを歴史的に振り返り、情報システムの歴史調査研究、SNSシステムの擬似体験、読書課題本「スローなユビキタスライフ」のグループワークを行う。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション 情報技術革新の進展について概括する
第2回	情報機器の発達を学ぶ
第3回	情報のデジタル化とマルチメディアを学ぶ オリジナル名刺のプレゼンテーション
第4回・AL	グループワーク(コンピュータの英雄たちの調査)
第5回・AL	コンピュータの英雄たちの発表会 インターネットと情報通信ネットワークを学ぶ
第6回	ビジネス・家族・社会が変わる第3の社会について考察する
第7回・AL	高度社会情報システムの進展を学ぶ グループ課題(情報システムの調査課題)
第8回・AL	情報社会の危険とSNSを学ぶ グループ課題発表会(情報システム)
第9回・AL	グループワーク(WIKIで地球環境問題を協同作業)
第10回・AL	発表会(地球環境問題)
第11回	次世代インターネット社会について学ぶ
第12回	ユビキタス社会と社会システムについて考える
第13回	ユビキタスの基盤技術を学ぶ
第14回・AL	グループワーク発表会(課題本スローなユビキタスライフ)と相互討議
第15回・AL	第3の社会で、私たちがどのように生きていきたいか討議する

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	グループ課題 (30%)、提出物 (50%)、授業中の課題 (20%)
教科書	なし
参考文献	「スローなユビキタスライフ」、関根千佳
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義時に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと 講義中に出す課題について個人ホルダーに作成すること
備考	講義・実習が後の講義・実習に大きく影響するので欠席がないようにしてください POWERPOINT は講義・実習で不可欠なツールであるので基本機能をマスターしておいてください

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
メディア社会学	北垣 博美	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13108

科目の概要

インターネットの登場、普及によって、これまでの新聞・雑誌やテレビに代わり、ネットが市民生活の主要な情報伝達手段となった。個人も情報の発信者となれるネット情報は一国の政権を揺るがす力を持つ一方で、情報の真偽が問題ともなっている。災害や戦争、事件・事故の報道の歴史的な歩みをたどりつつ、現代に生きる人間として、日々起きる社会事象を判断できる視座を養いたい。一新聞記者の経験も踏まえながら。適宜、新聞紙面やビデオも活用する。

到達目標

新聞は読まない。テレビは見ない。スマホがあれば充分……。電車の中などで、携帯に見入る若者の姿が目立つ。だが、飛び交う情報の価値は判断できるだろうか。それぞれのメディアの特性を見極めつつ、情報氾濫社会の中で一市民として「生きる」知恵と判断力を得られるようにしたい。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新聞の歩み①。近代日本の歴史と災害報道
第2回	新聞の歩み②。世論と報道。現代の領土問題
第3回	新聞の歩み③。新聞と小説。市民社会の登場
第4回	メディアとスポーツ・文化事業。宝塚と甲子園
第5回	文化財報道と展覧会。フェノロサと岡倉天心
第6回・AL	新聞の戦争責任。暗殺(テロ)による政治
第7回	テレビの時代①。一億総白痴化
第8回・AL	テレビの時代②。「あるある大事典」とその後
第9回・AL	報道と人権①。報道被害とマスコミ不信
第10回	報道と人権②。表現の自由とプライバシーの保護
第11回・AL	報道と人権③。表現の自由と名誉毀損訴訟
第12回・AL	メディアミックスの時代①。インターネットの登場と躍進
第13回	メディアミックスの時代②。ネットと新聞、ネットと出版
第14回	メディアミックスの時代③。メディア別評価
第15回	ジャーナリズムの行方。メディアリテラシーとは

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（教室）100%とする。
教科書	特になし
参考文献	授業時に適宜紹介
オフィスアワー	随時相談に応じます
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	講義中に言及された参考文献にできるだけ接する努力を。 渡されるレジュメと授業内容を基に、独自ノートを作ること。
備考	できれば新聞を読み、テレビのニュースにも接し、社会の動きに敏感になってほしい

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヘルスケア・マーケティング	川島 隆志	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13109

科目の概要

ヘルスケアとは、保健・医療・福祉すべてを網羅する言葉です。看護の対象も病気の人ばかりとは限りません。あらゆる健康レベルへの働きかけが看護の機能です。人への働きかける際に重要になるのが、マーケティングという考え方です。本講座は、マーケティングの基本的な考え方とヘルスケア産業にかかわる企業や人がどのようなマーケティング活動をしているのかを理解し、今後の皆様自身の看護活動に対する意識を形成するのに役立てるものです。

到達目標

- ・ヘルスケア産業の概要を理解する。
- ・マーケティングの基本的な考え方を理解する。
- ・医療サービス産業の従事者として、マーケティング志向で考えることができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	マーケティングの基礎
第 2 回・AL	生活者のライフスタイル、「幸せ観」を理解する(ワークショップ)
第 3 回	ヘルスケア業界の理解
第 4 回・AL	トクホ(特定保健用食品)、栄養機能食品のマーケティング(ワークショップ)
第 5 回・AL	口腔ケア商品(デンタルケア)メーカーのマーケティング(ワークショップ)
第 6 回・AL	ダイエット業界企業のマーケティング(ワークショップ)
第 7 回・AL	ベビー関連用品のマーケティング(ワークショップ)
第 8 回・AL	老人介護 福祉関連企業のマーケティング(ワークショップ)
第 9 回・AL	医療機器メーカーのマーケティング(ワークショップ)
第10回・AL	製薬メーカーのマーケティング(ワークショップ)
第11回・AL	病院のマーケティング(ワークショップ)
第12回・AL	保健指導を考える①(ワークショップ)
第13回・AL	保健指導を考える②(ワークショップ)
第14回・AL	保健指導を考える③(ワークショップ)
第15回・AL	ヘルスケア・マーケティングのまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末テスト (70%)、課題 [小レポート、小テスト、コメントカードなど] (30%)
教科書	配布資料
参考文献	看護管理学習テキスト(2刷)第1巻「看護管理概説」2015 日本看護協会出版会 看護管理学習テキスト(2刷)第6巻「看護経営・経済論」2015 日本看護協会出版会
オフィスアワー	講義前、講義後の時間で設定。事前予約をお願いします。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：事業計画の確認と専門用語の下調べ (90 分) 事後学習：レジュメおよびワークショップについて復習する (90 分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
生活の中の法律	岡田 康志	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13110

科目の概要

看護の仕事は常に法律問題と背中合わせにあると言えます。例えば、宗教の戒律に基づく輸血拒否などは、正に憲法の問題です。看護師試験にも法律に関する問題が毎回5問以上出題されています。専門的な知識の習得と同時に、法律の基礎を修得し、リーガルマインドと言われる法的思考センスのトレーニングが必要です。本科目では憲法の具体的事例を能動的に学習し、このセンスを磨いていきます。

到達目標

本科目においては、「教養科目としての日本国憲法」を初めとする、一般的に難しいとされる法律問題を、具体的な事例を通して分かりやすく解説し、受講生の皆さんが、リーガルマインドのセンスを身につけることを目標とする。受講生には、様々な法律問題について自ら考え、その考えを表現することが求められます。この繰り返しが目標達成の近道となります。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	憲法:インフォームドコンセントとリーガルマインド …法的思考とは
第2回・AL	憲法:国民主権と天皇主権
第3回・AL	憲法:平和主義(1) 戦争放棄
第4回・AL	憲法:平和主義(2) 統治行為
第5回・AL	憲法:人権(1)精神的自由権 内心の自由
第6回・AL	憲法:人権(2)精神的自由権 表現の自由
第7回・AL	憲法:人権(3)経済的自由権
第8回・AL	憲法:人権(4)人身の自由
第9回・AL	憲法:人権(5)参政権
第10回・AL	憲法:人権(6)生存権
第11回・AL	憲法:国会
第12回・AL	憲法:内閣
第13回・AL	憲法:裁判所
第14回・AL	憲法:三権分立
第15回・AL	憲法:総まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	平常点：20点 レポート試験：80点 を総合的に評価する。
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考文献	随時、講義中に紹介する。
オフィスアワー	講義前後に、随時対応します。気軽に相談してください
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習(各テーマに沿った関連事項を調べる。10分) 事後学習(1分間ペーパー・簡単なレポート)
備考	生活の中で身近な法律問題について双方向で考えていく、アクティブで楽しい講義です。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
文芸論	河内 厚郎	講義	1 年次 後期	選択	2	30	KGE13111

科目の概要

漢字の渡来→万葉仮名の成立→漢字仮名混じり文の完成と続く、日本語の成立過程から入る。さらに、能や歌舞伎、浄瑠璃などの芸能と共に普及していった中近世の文芸。そして西洋文明の受容にともなう近代文学の発生という具合に千数百年の日本文学史をたどり、最後に日本文学の現状を考察して、文芸が大衆化・国際化していく現状について考える。また、各自に「ライフヒストリー」を書かせてみる。

到達目標

村上春樹の小説が各国で読まれているように、日本文学が世界で人気が高い理由を、歴史をたどりながら考え、日本文化の魅力を語れるようになるのが目標である。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	日本語の成立(4～9 世紀)、日本文学の発祥、翻訳文化の興隆
第 2 回・AL	なぜ人は「物語」を求めるのか？ ストーリーとヒストリーの関係
第 3 回・AL	記憶再生装置としての文学 「記憶」と「時間」の関係
第 4 回	日本文学の特長(恋愛と自然…)
第 5 回	王朝文学(『源氏物語』など)
第 6 回	中世の芸能と文学(世阿弥など)
第 7 回	町人文学の誕生
第 8 回	歌舞伎と文楽(人形浄瑠璃)
第 9 回	近代文学の誕生、標準語の成立
第10回	谷崎潤一郎の『細雪』の世界 ブルジョアジイの文学
第11回	映像の登場が文学に与えた影響
第12回	手塚治虫と宝塚歌劇
第13回	村上春樹とポストモダンの文学
第14回・AL	ライフヒストリーの試み
第15回・AL	I T 社会における文学の変容

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート(60%)・小テスト(40%)
教科書	なし
参考文献	『わたしの風姿花伝』河内厚郎 著
オフィスアワー	随時(相談に応じる)
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	冬季の休暇期間中に、指定した文学作品(小説)を一冊読破する。
備考	学生は教師が配布した資料をファイルして保管しておくこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ-
文章表現法 I	加畑公一郎 北垣 博美	講義	1 年次 前期	必修	2	30	KGE11103

科目の概要

自分が体験したり考えたりしたことを心の中で整理して、事実を簡潔に伝える文章や相手の心にしみいる瑞々しい文章を書くためには、日本語の魅力を知り、言葉の選び方や組み合わせ方の技法を身につけなければならない。この講座では、受講生一人ひとりへのきめ細かい作文添削を軸にして、文章を読み、文章を書く基本を学ぶ。

到達目標

- ・ひとが書いた文章の要点をつかんで共感・批評する力と、自分の気持ちや考えを的確に表現して相手を説得する力が身につく。
- ・スマホの短文化に慣らされた、こま切れの思考様式に、論理的で情感豊かな文脈を取り戻すことができる。
- ・大学の各教科で取り組むレポートや論文、就活や社会生活に必要な文章・文書などを書くための基礎的な力が培われる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回・AL	文章表現とは何か(原稿用紙・句読点・助数詞などの使い方)、作文を書く
第 2 回	中身が大事(5W1Hの重要性、自分にしか書けないものを書く)、作文講評
第 3 回	文章の構成(段落・序論・本論・結論、起承転結)、作文講評
第 4 回・AL	事物に語らせる(事実を切り取る手法、神は細部に宿る)、作文講評
第 5 回	読む人の側に立つ(だれにでも伝わる文章の秘訣)、作文を書く
第 6 回	書き出しで勝負する、作文講評
第 7 回・AL	しめくりで文章の切れ味が決まる、作文講評
第 8 回	書くことを限定して深く掘り下げるのがコツ、作文講評
第 9 回・AL	日本語の特徴・漢語とカタカナ、作文を書く
第10回	文章の格について(ねじれた文、言葉の誤用、批評と非難)、作文講評
第11回・AL	紋切型と戦う(思考停止に陥らないための心構え)、作文講評
第12回	簡潔な文章(接続語や代名詞に頼るな、抑制の力強さ)、作文講評
第13回・AL	小論文の書き方(自問自答、テーマと論点、事実と意見)、作文を書く
第14回	視点を拡大する(ものごとの背後の本質に迫る)、作文講評
第15回	当たり前のことを、もっともらしく書くな(独り合点を避ける)、作文講評

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	授業中に 4 回書く課題作文 60%と期末作文 40%
教 科 書	使わない
参 考 文 献	『朝日新聞の用語の手引』
オ フィ ス ア ワ ー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	教材と講師が添削した文章を熟読すること
備 考	感動した新聞記事の切り抜きや、テレビ・映画などで気になった言葉を集めて、自分だけの「文章ノート」を作ることをする。知識が増え、言葉に敏感になる。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
ファッションアートサーヴェイ	横越谷勝雄	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13112

科目の概要

ファッション美的感性（ファッション感性のあいまいさ）はファッショントレンド感性分析の手法を用いて数値化する事によりデータとして明確にされる。消費者のファッション商品の購入動機には、ファッション美的感性による動機付けが最も重要視される。ファッション美的感性を中心としたファッションデザインマーケティングをファッションビジネスの変遷と輪郭、産業構造とマーチャンダイジングシステムを学習することでファッションビジネスが消費者に対し、夢と憧れを提供するビジネスであることを実証する。

到達目標

ファッションビジネスの変遷と輪郭。産業構造と、マーチャンダイジングシステム、さらにファッション IMC（インテグレートッド マーケティング コミュニケーション）によるファッションブランド構築のプロセスを理解し、将来のライフワークに役立つ事を切望する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	ファッション概説 パリ オートクチュールとプレタポルテの成立と概要
第 2 回・AL	ファッショントレンドクラスター感性分析（コレクション・感想レポート1）
第 3 回	シルエットクラスター・オケーションクラスター感性分析
第 4 回	ファッションビジネス基礎知識
第 5 回	日本におけるファッションビジネスの変遷
第 6 回	ファッションビジネスの産業構造と問題点
第 7 回	ファッション産業の機能と業務内容
第 8 回・AL	ファッショントレンド情報（パリ・ミラノ・ニューヨーク）（コレクション・感想レポート2）
第 9 回	ファッションビジネスにおけるマーケティングの重要性
第10回	ファッションデザインマーケティング戦略
第11回・AL	マーケットセグメンテーションとブランドポジショニング（コレクション・感想レポート3）
第12回	ファッション消費と消費者ニーズ
第13回	ファッションマーチャンダイジングシステムのフロー
第14回	ファッションブランド事例
第15回	ファッションブランド戦略

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	授業内レポート 20% 定期試験または最終レポート提出 80%
教科書	テキストは使用せず、プリント配付と黒板の板書にて行う。随時ビデオまたは DVD によるトレンド解説（2016～17 秋冬パリ・ミラノファッション情報など）も行う
参考文献	使用せず
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習（常に現在注目されている、トレンドを意識し、それが時間とともに、どのように変化し、それが消費者の目には、どのように映っているのか、観察眼を鍛える訓練を日常的におこなうこと。） 事後学習（毎日の生活のなかで、なにが変化しているか。政治、経済、社会、文化など幅広く、見届けるため、毎日、必ず新聞を読むこと。）
備考	コレクション・感想レポートと、ビデオによるトレンド情報を鑑賞して、小レポートを提出する。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
マスコミと報道	加畑公一郎	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13113

科目の概要

マスコミの現場で何をどのように報道するかを決めるのは、記者と編集（編成）担当者の経験知である。それは職業的な「勘」に近い。人間の勘はいつでも正しく働くとは限らないから、報道にはつねにバイアスがかかる。読者・視聴者は何の疑いも抱かずに報道を受け取るのではなく、心して事実や意味を読み取る作法を身につけなければならない。

到達目標

- ・新聞・雑誌・テレビ・ネットを批評しながら読み解く力が鍛えられる。
- ・社会が抱えている問題の真相は何か、その背後に何があるのかを考え、探求する能力が培われる。
- ・社会の出来事について、感情に飲み込まれずに事実を見分け、何が大きかを判断し、ものごとの筋道を見極める力が養われる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回・AL	新聞を読み比べ、報道とは何かを考える
第 2 回・AL	週刊誌を読み比べ、新聞との違いを考える
第 3 回・AL	ドキュメンタリー番組(VTR)を視聴して、テレビの特性を論じる
第 4 回	メディア・バイアスについて学ぶ
第 5 回・AL	情報を伝えるのは、いつでも正しいことか——グリコ・森永事件の教訓
第 6 回	虚妄の大本営発表と新聞の誤報
第 7 回	「警鐘報道」が抱える問題とは
第 8 回	「あるある大事典Ⅱ」事件を検証する
第 9 回・AL	テレビの演出・仕込み・やらせ・捏造を考える
第10回	「テレビは視聴者を外界から遮断する」ということについて
第11回・AL	群衆心理と世論
第12回	スポーツ報道と熱狂について
第13回・AL	表現・報道の自由を考える
第14回	ネット時代のマスコミ
第15回	報道の「初心」とは何のことか

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末レポート 60%、授業中の小テスト（2回） 40%
教科書	使わない。
参考文献	必要なものは授業で紹介する。
オフィスアワー	出講日の授業の前後。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	新聞を毎日読み、興味を引いた記事を切り抜く。さらにテレビのニュースや情報番組で世の中の動きを確認する。こうした地道な習慣づけが、授業に役立つだけでなく、社会に出てから生きてくる。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
西洋美術の源流	森口まどか	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13114

科目の概要

本講義では、古代ギリシャ・ローマからルネサンス後期までの西洋美術を概観する。時代ごとの代表的絵画、彫刻や建築物を中心に紹介し、作品画像、ビデオ映像などを使い、できるだけ多くの作品を視覚的に捉えることができるようにする。

到達目標

- ・古代ギリシャ・ローマから 16 世紀半ばまでの西洋美術の流れを概ね捉えることができる。
- ・各時代の代表的作品を概ね捉えることができる。
- ・各時代、各地域の文化、社会的背景を概ね捉えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	はじめに 美術用語・文献紹介など
第 2 回	古代ギリシャ・ローマ美術1 アルカイク様式、ヘレニズム様式などの彫刻 神殿建築、ローマ期建築など
第 3 回・AL	古代ギリシャ・ローマ美術2 神殿建築、ローマ期建築、彫刻など
第 4 回	ビザンティン美術1 初期キリスト教聖堂建築の変遷
第 5 回・AL	ビザンティン美術2 ハギア・ソフィア大聖堂を中心とする建造物とモザイクおよびイコン
第 6 回・AL	ロマネスク・ゴシック美術 聖堂建築の変遷とジョットを中心とする聖堂内壁画
第 7 回・AL	北方ルネサンス美術1 油彩画法の発見、北ヨーロッパ写実主義 ファン・エイク兄弟、ヒエロニムス・ボスを中心に
第 8 回	イタリア初期ルネサンス美術1 フィレンツェにはじまる芸 絵画(ピエロ・デラ・フランチェスカ、ボッティチェリ)
第 9 回・AL	イタリア初期ルネサンス美術2 フィレンツェにはじまる芸術 彫刻(ドナテッロ)
第10回	ルネサンス美術1 フィレンツェからローマ、ミラノ レオナルド・ダ・ヴィンチ
第11回	ルネサンス美術2 フィレンツェからローマ ミケランジェロ、ラファエロ
第12回	ルネサンス美術3 ヴェネツィア派 ジョルジョーネ、ティツィアーノ
第13回・AL	マニエリスム ヴェネツィアにおいて ティントレット、エル・グレコ
第14回	北方ルネサンス美術2 グリュネヴァルト、デューラー
第15回・AL	まとめ 西洋美術の歴史的変遷から現在の美術へ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート 70% 小テスト 30%
教科書	特にないが、適宜参考文献を参照する
参考文献	H. W. ジャンソン +F. ジャンソン 『西洋美術の歴史』創元社
オフィスアワー	火曜日、水曜日、木曜日の中で授業以外の時間
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義時に紹介する内容について、予め参考文献などを通して準備をすること。 講義終了時に出す課題に関するレポートを作成する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
伝統芸術表現研究Ⅰ (茶道と香道の理論と表現)	飯島 照仁	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12201

科目の概要

日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懷石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎を配布資料等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯のお菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験し、看護の分野への応用へと誘う。また日本の伝統文化の茶の湯とともに香道の基礎を学び実際に京都の老舗香木店にて体験学習し、自分の独自のお香作りを行なう。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、伝統文化の茶の湯・お香を少しでも理解することで、自国の文化と異文化へのさらに深い理解へと繋がるものと考えている。

到達目標

思いやり、もてなしの伝統文化の茶の湯・お香の歴史や実践を学ぶことで看護の分野での優しさや協調性、正確さを養うことを目的とする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	茶の湯入門
第2回・AL	同上
第3回	茶の建築入門
第4回	茶の庭園入門
第5回・AL	実習のための総論
第6回・AL	同上
第7回・AL	茶の湯の基礎・割稽古
第8回・AL	同上
第9回・AL	茶の湯の基礎・盆略点前
第10回・AL	同上
第11回・AL	独自のお菓子をデザインしてお茶会の準備をする
第12回・AL	茶の湯でもてなす
第13回・AL	同上
第14回・AL	独自のお香をつくり楽しむ
第15回・AL	同上

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 50%、レポート 50%
教科書	教科書は特に使用しない。必要に応じてプリント等の配布をする。
参考文献	茶道文化検定公式テキスト 3 級
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	配布資料の確認と実技の復習
備考	日本の伝統文化、茶の湯に関心のあること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
伝統芸術表現研究Ⅱ (生け花の理論と表現)	小林 秀加	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12202

科目の概要

生け花の伝統芸術について、他領域の伝統芸術と比較しながらその成立過程、背景、意義を講義し、実技を行う。野にある花を剪って花器に移せば、その花の生き物としてのいのちは程なく絶える。だが日本には古来、そうすることによってかえって本当に生きることになるとする立場があった。授業では、実際に花を生け、花を活かすことを知り、花の命の奥深さをも学ぶ。

到達目標

- ・実践を通して、生け花の本質を探り、伝統芸術の根底にある日本的な心を知る。
- ・季節の花に触れ、草花の命を見つめ、花の表情を捉え表現する能力を修得する。
- ・個人の表現を通して自己を知り、グループでの表現・発表を通してチームワークの大切さを修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生け花の誕生 ― 花と人との関係も踏まえ歴史的経緯を探る ―
第2回	花との対話 ― 実践を通し、花を活かす「活け花」を学ぶ ―
第3回・AL	花との調和 ― 空間を演出することを実践 ― (グループワーク)
第4回	表現原理 ― いけ花は何を表現しているのか、理論・実技から学ぶ ―
第5回・AL	技と表現様式 ― 技を知り、飾る場所や目的に応じたいけ花を実践 ― (グループワーク)
第6回	伝統行事の花 ― 暦を中心に伝統行事の花を探る ―
第7回	植物の効用 ― 鑑賞目的のみならず薬用としての植物を学ぶ ―
第8回	植物染料 ― 日本の伝統色彩から花との深い関係を捉える ―
第9回	花器との調和 ― 花器の種類や素材・焼き物について学ぶ ―
第10回	敷板との調和 ― 敷板としての塗り物・日本の漆とその効用についても学ぶ ―
第11回・AL	京都の四季の花 ― 京都の地に生まれたいけ花、花との関係を知る ― (ディスカッション)
第12回	生け花の根源Ⅰ ― 京都の伝統的な祭り「葵祭」・「時代祭」に触れ花と人との関係を知る ―
第13回・AL	生け花の根源Ⅱ ― 京都の神社・祇園祭を見学し疫病退散と花との関係を知る ― (発見学習・体験学習)
第14回	四季の花材 ― 四季における豊かな花材を知り、活ける ―
第15回・AL	芸術性の追求 ― 公の場で展示する機会を設け、いけ花の芸術性を探求 ― (グループワーク)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	作品（85％）とレポート（15％）などをあわせて総合的に評価する
教科書	なし
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業時間前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	授業時に用いた花を持ち帰り、花を生ける。
備考	花材費8,000円（花ハサミの無い人は、ハサミ代2,000円がプラスされますので10,000円になります。）

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
伝統芸術表現研究Ⅲ (書芸術の理論と表現)	池田 方彩	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12203

科目の概要

筆墨をもって文字を書くということが、どれほどの深さ（人格性）と多様な表現（芸術性）を有しているかを学習する。

到達目標

- ・講義を静粛に受けることで、「傾聴力」を身につける。（看護の基本姿勢）
- ・書（文字）の芸術的な魅力に目覚める。（鑑賞力の向上）
- ・実際に書くという行為の楽しさを知る。（自娛）

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	(講義) 書芸術概論
第2回・AL	(実技) 臨三体千字本
第3回	(講義) 写経
第4回・AL	(実技) 臨三体般若心経・臨細楷般若心経
第5回	(講義) 三筆・三蹟
第6回・AL	(実技) 臨空海・臨行成
第7回	(講義) 仮名
第8回・AL	(実技) 仮名いろは文字
第9回	(講義) 熊野懷紙
第10回・AL	(実技) 臨篆書・臨隸書
第11回	(講義) 墨蹟(禅の書)
第12回・AL	(実技) 座右の銘
第13回	(講義) 現代の書
第14回・AL	(実技) 自由創作
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	提出物（実技）50%、レポート（400字10枚）50%
教科書	なし
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業時間前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	講義で配布した資料を読むこと
備考	筆ペン（太字用）の用意 受講中は静粛に願う 言動は慎むべし

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
英語 I (Reading 1)	毛利 郁子	演習	1 年次 通年	必修	2	60	KGE11301

科目の概要

英文読解を通して看護師として心得ておくべき看護・医療英語の理解を深める。そのために不可欠な医学専門用語を習得する。読解を中心に語学学習に必要な4技能全て（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を総合的に活用して英語のコミュニケーション能力を高める。実践的な看護・医療英語および専門知識を深めながら積極的に授業に取り組めるよう毎回ペア・グループワークを組み込んだ授業を行う。

到達目標

- ・看護・医療英語の読解を通して国際化する医療現場で生かせる英語力と専門知識を深める。
- ・読解力（リーディング）をベースに他の技能（リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に高める。
- ・学習した知識を応用しながら、実際の医療現場で外国人患者に対応できる英語力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回・AL	Unit 1: First visit to a Hospital(はじめての来院)その1
第3回	First visit to a Hospital(はじめての来院)その2
第4回・AL	Unit 2: How to Fill in a Registration Form(初診受付の手順)その1
第5回・AL	How to Fill in a Registration Form(初診受付の手順)その2
第6回	Unit 3: Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities(生活習慣を聞く)
第7回・AL	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms(ブラウン氏の問診－1)その1
第8回・AL	Mr. Brown's Symptoms(ブラウン氏の問診－1)その2
第9回・AL	Unit 5: Medical Check Up1(健康診断1－脈拍、血圧、体重の測定の手順)
第10回	Unit 6: Medical Check Up2(健康診断2－採血、検尿の手順)
第11回・AL	Unit 7: Mr. Brown's diagnosis(診断－1 ブラウン氏のケース)その1
第12回	Mr. Brown's diagnosis(診断－1 ブラウン氏のケース)その2
第13回・AL	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms(ブラウン氏の問診－2)その1
第14回	Mr. Anderson's Symptoms(ブラウン氏の問診－2)その2
第15回	前期総復習1
第16回	前期総復習2
第17回	前期試験返却／前期講義振り返り
第18回・AL	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms(アンダーソン氏の症状)その1
第19回	Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms(アンダーソン氏の症状)その2
第20回・AL	Unit10: Explaining Blood Test Results(診断－2 血液検査結果の説明)その1
第21回	Explaining Blood Test Results(診断－2 血液検査結果の説明)その2
第22回・AL	Unit11: How to Take Medicine(薬の説明)その1
第23回	How to Take Medicine(薬の説明)その2
第24回・AL	Unit12: Mrs. Johnson Feels Dizzy(問診－3 ジョンソン婦人のめまい)その1
第25回	Mrs. Johnson Feels Dizzy(問診－3 ジョンソン婦人のめまい)その2
第26回・AL	Unit13: An MRI Test(MRI検査)その1
第27回・AL	An MRI Test(MRI検査)その2
第28回・AL	Unit14: Recommending an Operation (手術の薦め)
第29回	Unit15: Post-operative Care (術後のケア)
第30回	後期総復習1
	後期総復習2

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験 50%、小テスト・課題 50%
教科書	『First Aid! English for Nursing』Akihiko Higuchi & John Tremarco (金星堂)
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日（水曜日、木曜日）および授業前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	復習：毎回必須 予習：随時授業で伝える
備考	テキスト、ノート、筆記用具、配布プリント、辞書を必ず持参

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
英会話 I (Listening & Speaking 1)	池田美智子	演習	1 年次 通年	必修	2	60	KGE11302

科目の概要

病院を舞台とし、そこで患者と看護師の間でかわされる会話を中心に学習する。特に、既往歴や生活習慣についての質問形式や薬の服用についての説明や指示のための叙述や命令形を中心に学ぶ。ただし、ここで学ぶ会話は一般のコミュニケーションにおいても欠かさない、挨拶、呼びかけ、依頼、丁寧表現、確認なども含まれるため、看護以外の場においても十分に役立つものである。テキスト内の看護師と患者の会話はロールプレイとなり、異なる相手と行う。

到達目標

テキストの中に載っている役立つ表現を繰り返し練習することで、場面ごとの表現を身につける。会話だけでなく、英文を書くときの最低限のルールを学ぶので、実際の英文での用紙記入などもできるようになりたい。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	In the Lobby of the Hospital (その1)病院にて
第2回・AL	In the Lobby of the Hospital (その2)(ペアワーク)
第3回	Registration; Patient Registration (その1)受付登録
第4回・AL	Registration: Patient Registration(その2)(ペアワーク)
第5回	Checking the Registration Card (その1)診察券を確認する
第6回・AL	Checking the Registration Card (その2)(ペアワーク)
第7回	Checking the Registration Card (その3)
第8回	中間試験
第9回	Finding the Way: Hospital Map (その1)院内案内
第10回・AL	Finding the Way: Hospital Map (その2)(ペアワーク)
第11回	Personal History (その1)病歴
第12回・AL	Personal History (その2)(ペアワーク)
第13回	Daily Activities (その1)生活習慣について
第14回・AL	Daily Activities (その2)(ペアワーク)
第15回	Daily Activities (その3)
第16回	More about Daily Activities (その1)より詳しい生活習慣について
第17回・AL	More about Daily Activities (その2)(ペアワーク)
第18回	Asking about Symptoms (その1)症状について
第19回・AL	Asking about symptoms (その2)(ペアワーク)
第20回	More about Symptoms (その1)詳細な症状の説明
第21回・AL	More about Symptoms (その2)(ペアワーク)
第22回	More about Symptoms (その3)
第23回	中間試験
第24回	Checking Blood Pressure and Weight (その1)血圧と体重を測る
第25回・AL	Checking Blood Pressure and Weight (その2)(ペアワーク)
第26回	Laboratory Specimens (その1)検査用検体
第27回・AL	Laboratory Specimens (その2)(ペアワーク)
第28回	Taking Medicines (その1)薬剤投与について
第29回・AL	Taking Medicines (その2)(ペアワーク)
第30回	Taking Medicines (その3)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験 60%、提出物（課題等）40%
教科書	『How Are You Feeling Today?』（やさしい看護英語） 助川尚子編 （成美堂）
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	英会話の授業はまず授業中に集中して聞き取り、書き取りを行うため、事前にはそれほど予習は必要ないが、授業後の復習は欠かせないこと。
備考	授業後の復習は必須。テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書は必ず持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語 I	渋谷 直樹	演習	1 年次 通年	選択	2	60	KGE12301

科目の概要

旅行や日常会話において基本的なフランス語を使いこなせ、基礎的なフランス語文法も身につけますが、同時に単にフランス語だけでなく、フランス人の国民性、フランスの歴史、フランスの文化にも触れながら、フランスという国に興味・関心を抱いてもらうのもこの授業の目的です。従って授業では、教科書に載せられている会話や文法の他にも、フランス語版のアニメや、フランスの観光名所・街並みといった映像をお見せします。また授業では毎回発音と、教科書を参考しながら練習問題をしてもらい、練習問題は提出して頂きますが、翌週に添削をしてお返しします。

到達目標

- ・旅行や日常会話における基本的なフランス語表現を身につけることができる。
- ・基礎的な文法事項を習得することで、フランス語の文章の基本的な読み・書きができるようになる。
- ・フランスという国に対しての理解を深めることができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	イントロダクション:① ガイダンス ② パリの街並みとフランス語
第 2 回・AL	フランス語の音と文字:① アルファベ ② つづり字記号の規則 ③ 挨拶などの基本表現
第 3 回・AL	二人の出会い。(1):① 主語人称代名詞 ② 動詞《 être 》「～です」③ 国籍の言い方
第 4 回・AL	二人の出会い。(2):①【対話】「私は日本人です。」② さまざまな国籍 ③【コラム】「他民族社会フランス」
第 5 回・AL	自己紹介をする。(1):① 第一群規則動詞《 -er 動詞 》 ② 形容詞の性・数一致 ③ 名前の言い方
第 6 回・AL	自己紹介をする。(2):①【対話】「私の名前はユミと言います。」② さまざまな言語 ③【コラム】「フランスの日本語学習」
第 7 回・AL	好きなものを言う。(1):① 母音で始まる動詞 ② 名詞の性・数と定冠詞 ③ 疑問文
第 8 回・AL	好きなものを言う。(2):①【対話】「僕は日本が大好きだ！」②好きなもの(国・趣味)③【コラム】「日本のマンガ・アニメ」
第 9 回・AL	これは何ですか？(1):① 疑問代名詞《 que 》 ② 不定冠詞と指示代名詞 ③ 形容詞の位置
第 10 回・AL	これは何ですか？(2):①【対話】「これは何ですか？」② 日常品 I ③【コラム】「宮崎駿のアニメ」
第 11 回・AL	ここはどこ？(1):① 否定文 I ② 疑問副詞《 où 》 ③ 《 il y a ～ 》「～があります」④ 量の表現
第 12 回・AL	ここはどこ？(2):①【対話】「ここはどこなの？」② 建造物 / 場所の前置詞 ③【コラム】「パリのカルティエ(地区)」
第 13 回・AL	年齢を言う。(1):① 動詞《 avoir 》「持っている」② 職業を表す名詞 ③ 疑問形容詞《 quel 》
第 14 回・AL	年齢を言う。(2):①【対話】「君はいくつ？」② 数字・年齢 ③【コラム】「日本人は若作り？」
第 15 回	前期のまとめ
第 16 回・AL	何を選びますか？:① パリ・ディズニーランド ② 第二群規則動詞《 -ir 動詞 》
第 17 回・AL	日本料理店に行く。(1):① 部分冠詞 ② 冠詞のまとめ ③ 定冠詞の縮約
第 18 回・AL	日本料理店に行く。(2):①【対話】「お腹減ってない？」② 食べ物と飲み物 ③【コラム】「パリのレストラン」
第 19 回・AL	布団が好き。(1):① 所有形容詞 ② 人称代名詞の強勢形
第 20 回・AL	布団が好き。(2):①【対話】「妹は布団で寝ている。」② 家族 ③【コラム】「日本の生活様式」
第 21 回・AL	店で買い物をする。(1):① 指示形容詞《 ce 》 ② 指示代名詞《 celui 》 ③ 比較級 ④ 疑問副詞《 combien 》
第 22 回・AL	店で買い物をする。(2):①【対話】「私は急須が欲しいのですが。」② 日用品 II ③【コラム】「パリで出会う日本のもの」
第 23 回・AL	ジャパン・エキスポに行く。(1):① 命令形 ② 補語人称代名詞 ③ 中性代名詞《 y 》
第 24 回・AL	ジャパン・エキスポに行く。(2):①【対話】「君は行かないの？」② 曜日・月 ③【コラム】「ジャパン・エキスポ」
第 25 回・AL	天候を言う。(1):① 代名動詞 ② 非人称構文 ③ 女性形容詞の特殊な形
第 26 回・AL	天候を言う。(2):①【対話】「暑い！」② 天候・時刻 ③【コラム】「フランスの気候」
第 27 回・AL	美術館に行く。(1):① 疑問代名詞《 qui 》 ② 複合過去 I
第 28 回・AL	美術館に行く。(2):①【対話】「素晴らしい、浮世絵は！」② 衣服と色 ③【コラム】「ジャポニスムとクール・ジャパン」
第 29 回・AL	バカンスの過ごし方:① 複合過去 II ② 否定文 II ③ 疑問副詞《 comment 》
第 30 回	後期のまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	平常点 60% (発音 30% + 練習問題 30%)、試験 40%で評価します。
教科書	『Le Japon, c'est cool ! (ル・ジャポン、セ・クール!)』、藤田裕二著、朝日出版社。
参考文献	授業中に紹介します。
オフィスアワー	授業時間の前後。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通して下さい。(10 分) 次の授業で新しいことを習得するためにも、その週に学んだ項目については復習して下さい。(30 分)
備考	語学には地道な努力が必要ですが、先ずは興味を持つことが大事ですので、難しく捉えずにその国の文化を楽しみながら、少しずつ語学を学んで行って下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
中国語会話 I	潘 建秀	演習	1 年次 通年	選択	2	60	KGE12302

科目の概要

中国語の入門クラス。前期前半では、中国語の発音練習や四声及び発音表記である「ピンイン」の修得に重点をおいて授業を進め、後半から簡単な中国語の会話を通じて発音や四声を確かなものにしたい。後期前半ではより複雑な会話を練習すると同時に、読解練習を通じて語彙を増やす。

到達目標

中国語の発音、簡単な文法、基礎会話を身につけてもらう。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、中国語の特徴
第 2 回	発音の基本 ①声調 ②単母音
第 3 回	③複合母音
第 4 回	発音の基本 ①子音
第 5 回	②鼻母音
第 6 回	発音の基本 ①声調の組み合わせ
第 7 回	②発音の総合的な練習 ③中間テスト
第 8 回	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文
第 9 回・AL	③「吗」疑問詞 ④名前の言い方（協働学習）
第10回	第二課 ①動詞が述語になる文 ②指示代名詞
第11回・AL	③疑問詞を使う疑問文 ④「的」（協働学習）
第12回	第三課 ①形容詞が述語になる文 ②所有をあらわす「有」
第13回・AL	③反復疑問詞 ④副詞「也」と「都」（協働学習）
第14回	総合練習
第15回	中国文化紹介と期末試験
第16回	第四課 ①場所をあらわす代名詞 ②存在をあらわす「在」
第17回・AL	③動詞の重ね型 ④省略疑問文を作る「呢」（協働学習）
第18回	第五課 ①数詞 ②量詞
第19回・AL	③「几」と「多少」 ④語気助詞「吧」（協働学習）
第20回	第六課 ①存在をあらわす「有」 ②連動文
第21回・AL	③月日、曜日 ④時刻（協働学習）
第22回	総合練習、中国文化紹介
第23回	中間試験
第24回	第七課 ①助動詞「要」「想」 ②介詞「在」「从」
第25回・AL	③完了を表わす「了」（協働学習）
第26回	第八課 ①助動詞「能」「会」「可以」 ②経験をあらわす「过」
第27回・AL	③時間の長さの表し方（協働学習）
第28回	第九課 ①介詞「給」「对」 ②動詞の進行をあらわす「正」「在」「正在」
第29回	③動作・状態の持続を表す「着」
第30回	中国文化紹介と期末試験

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	提出物（小テスト）と中間及び期末テストで総合的に評価する。 提出物（小テスト）30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%
教科書	本間史・孟広学『中国語ポイント 42』白水社、2011 年
参考文献	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	授業前に CD を使って単語の発音を予習しておく。 毎回習った会話文を復習しておく。
備考	授業に出席するとき必ず教科書を持参しよう。発音練習時は積極的に口に出して練習しよう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
ビジネス中国語	潘 建秀	演習	1 年次 通年	選択	2	60	KGE12303

科目の概要

ビジネス中国語入門コースである。初めて中国語を学習する方やある程度中国語を学んだ人のためのコースである。中国語の基本知識や発音から始まり、基本文法と基礎会話を導入する。ビジネスに欠かせない中国語を段階的に学べる簡単な中国語会話を学習する。

到達目標

仕事で遭遇する実践的中国語の基本文法と会話を身につけてもらう。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、基本知識、発音と文法特徴
第 2 回	ピンイン紹介、母音の特徴①単母音
第 3 回	子音、軽声
第 4 回	母音の特徴②複合母音
第 5 回	母音の特徴③鼻母音
第 6 回	声調変化と発音の総合練習
第 7 回	中間試験、中国文化紹介
第 8 回	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文
第 9 回・AL	③「吗」疑問文 ④名前の言い方 (協働学習)
第10回	第二課 ①動詞述語文 ②場所代名詞
第11回・AL	③疑問詞を使う疑問文 ④「先…然后」 (協働学習)
第12回	第三課 ①形容詞述語文 ②指示代名詞
第13回・AL	③反復疑問文 ④副詞「也」 ⑤構造助詞「的」 (協働学習)
第14回	総合練習
第15回	期末試験と中国文化の紹介
第16回	第四課 ①動詞「有」 ②助数詞
第17回・AL	③動詞の重ね型 ④数字 (協働学習)
第18回	第五課 ①時刻の言い方 ②名詞述語文
第19回・AL	③「了」 ④所在を表す「在」 (協働学習)
第20回	第六課 ①前置詞「在」 ②(一)边…(一)边
第21回	③快/要…了 ④存現文 ⑤動詞+过
第22回	中間試験、中国文化紹介
第23回	第七課 ①「要」「得」+動詞 ②時間詞
第24回・AL	③「打算」「想」+動詞 ④時間量補語 ⑤選択疑問文 (協働学習)
第25回	第八課 ①方位詞 ②連動文
第26回・AL	③介詞「从」「到」「离」 ④「(是)…的」 ⑤度量衡 (協働学習)
第27回	第九課 ①「一…就」 ②(有)多+形容詞
第28回	③副詞「就」「才」 ④概数表現 ⑤比較表現
第29回	と総合練習
第30回	期末試験、中国文化の紹介

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	提出物（小テスト）と中間及び期末テストで総合的に評価する。 提出物（小テスト）30%、中間テスト30%、期末テスト40%
教科書	荘嚴・佐藤貴子『仕事のための基礎中国語』金星堂、2007年
参考文献	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく。 毎回習った会話文を復習しておく。
備考	授業に出席するとき必ず教科書を持参しよう。発音練習時は積極的に口に出して練習しよう

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
イタリア語 I	中川 光	演習	1 年次 通年	選択	2	60	KGE12304

科目の概要

イタリア語の基礎的な表現と仕組みを身につけてもらいます。毎回、文法事項と会話表現を平行して学んでいきます。授業はできるだけ発声したり、書いたりする作業をしてもらいながらすすめます。テキストとプリントを併用しながら実用表現と文法項目の学習を同時に身につけていきます。

到達目標

イタリア語を学ぶことを通して、コミュニケーションの楽しさをあじわってもらい、異文化への理解、興味を深めてもらう。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション 受講時の注意事項 イタリア語・イタリアの紹介(1)
第 2 回・AL	発音と読み方 あいさつAL
第 3 回・AL	名詞 近況をたずねる表現・自己紹介AL
第 4 回・AL	冠詞 お礼の表現・声かけAL
第 5 回・AL	形容詞(1) 状況を表すAL
第 6 回・AL	形容詞(2) お詫びAL
第 7 回・AL	動詞essere(1) 値段の尋ね方 AL
第 8 回・AL	動詞essere (2) 数字の言い方AL
第 9 回・AL	不規則動詞(1) 希望を伝えるAL
第10回・AL	不規則動詞(2) 感情を伝えるAL
第11回・AL	不規則動詞(3) 予定を伝えるAL
第12回・AL	規則動詞(1) 必要性を訴えるAL
第13回・AL	規則動詞(2) 好みを言うAL
第14回・AL	規則動詞(3) ものを尋ねる AL
第15回・AL	前期のまとめ (授業時間とは別にテスト期間に中間テストを行います) AL
第16回	前期の復習 イタリアの紹介(2)
第17回・AL	冠詞前置詞 場所を尋ねるAL
第18回・AL	副詞 有無を尋ねるAL
第19回・AL	所有形容詞 どれか尋ねる AL
第20回・AL	数詞・時間表現 手段を尋ねる AL
第21回・AL	疑問詞 所要時間を尋ねる AL
第22回・AL	不規則動詞(1) 所有を尋ねる AL
第23回・AL	不規則動詞(2) 依頼する AL
第24回・AL	不規則動詞(3) 許可を求める AL
第25回・AL	目的代名詞(1) 時間を尋ねる AL
第26回・AL	目的代名詞(2) 曜日日付を言うAL
第27回・AL	再帰動詞(1) 聞き返す AL
第28回・AL	再帰動詞(2) 励ましの表現・天候表現 AL
第29回	近過去 困ったときの表現
第30回	総復習(テスト期間中に期末テストを行います)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・期末テスト成績 50% 授業内課題実行 30% 小テスト・提出物 20%
教科書	イタリア語がびっくりするほど身につく本 鶴田真子美著 あさ出版 ￥1600+ 税
参考文献	各種伊和辞典(授業内で指示します)
オフィスアワー	授業前後の休み時間
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事後学習: 例文の音読暗唱、単語の綴り書き (20 分くらい)
備考	授業以外にもイタリア語と接する機会をつくってください(自宅復習、TV ラジオイタリア語講座、インターネットなど)。授業内の小テスト時期はその都度指示します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語 I	溝邊 敬一	演習	1 年次 通年	選択	2	60	KGE12305

科目の概要

ドイツ語の入門・初級として、必要かつ十分な文法知識を学び、ドイツ語・ドイツ文化の理解を深める。

到達目標

- ・文法知識を理解し、読解力をつける。
- ・ドイツ語の特性である論理的・倫理的な考え方や思考方法を身につける。
- ・ドイツ語（外国語）学習を通じて、他者への理解と自己（自分自身および日本語・日本文化）を見つめ直す。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	ドイツ語・ドイツ文化(圏)概説;ドイツ語のアルファベット
第 2 回	綴り字と発音;日常の挨拶と数詞
第 3 回・AL	発音の復習と応用 (グループワークおよび朗読)——ドイツ語発音の基本の習得。
第 4 回	第1課:動詞の現在人称変化(1);人称代名詞;文の基本語順
第 5 回・AL	第1課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第 6 回	第1課:読章(ドイツ文の読解)と応用篇
第 7 回	第2課:名詞の性と冠詞;名詞・人称代名詞の格と数
第 8 回	第3課:名詞の複数形・冠詞類;3格と4格
第 9 回・AL	第3課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第10回	第4課:否定文・疑問文
第11回・AL	第4課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第12回	第5課:動詞の現在人称変化(2);命令形;非人称表現
第13回・AL	第5課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第14回	第6課:前置詞と前置詞句 第7課:形容詞と比較法
第16回	第8課:話法の助動詞;未来時称
第17回・AL	第8課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第18回	第9課:過去の表現(1)現在完了時称
第19回・AL	第9課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第20回	第10課:過去の表現(2)非人称動詞
第21回	第11課:複合動詞と再帰表現
第22回・AL	第10課・第11課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第23回	第12課:従属接続詞(副文構造);zu不定詞(句)
第24回・AL	第12課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第25回	第13課:分詞形容詞・分詞構文
第26回・AL	第13課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第27回	第14課:関係代名詞(関係文)
第28回・AL	第14課:練習問題(グループワークおよび朗読)
第29回	第15課・第16課:受動文と接続法
第30回・AL	第15課・第16課:練習問題(グループワークおよび朗読)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート・成果物 (50%)、前後期 2 回の筆記試験 (30%)、および小テスト (20%)
教科書	田原・飛鳥井・井尻 (共編著)「ドイツ語プラスアルファ」(郁文堂 2016 年初版; 2500 円+税) 必携
参考文献	独和辞典 (第 1 回目の授業で紹介する) 必携
オフィスアワー	授業日の午後 1 時～2 時 (講師室)
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	予習・復習 (各 30 分) ——内容は毎回指示する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
教育学概論	伊佐 夏実	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23101

科目の概要

教育学の対象は、学校教育のような制度化された側面だけでなく、家庭や地域で行われる人間形成としての側面も含んでいる。本講義では、現代教育の諸課題について学ぶことを通して、教育学の意義や役割を概説する。その際特に、マイノリティの教育問題に焦点をあて、教育の社会的機能について検討する。

到達目標

- ・教育の機能、目的、方法等について、基本的な知識を理解し、説明することができる。
- ・日本の教育の課題を考察し、必要な対応について自ら考えることができる。
- ・グループワークを通して、共同的な学びの意義を知ることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	教育学ってなんだろう？
第2回・AL	発達と教育:遺伝か環境か？(ディスカッション:AL)
第3回・AL	子どもの成長・発達をめぐる諸問題ディスカッション:AL
第4回・AL	現代の子育てと家族をめぐる諸問題(ディスカッション:AL)
第5回・AL	学校教育の歴史と展開ディスカッション:AL
第6回・AL	教育の現代的課題:学力低下ディスカッション:AL
第7回・AL	教育の現代的課題:学力格差(ディスカッション:AL)
第8回・AL	教育の現代的課題:格差・貧困社会における子どもの教育ディスカッション:AL
第9回・AL	教育の現代的課題:階層の再生産と貧困の世代間連鎖(ディスカッション:AL)
第10回・AL	教育の現代的課題:ニューカマー外国人の教育実態
第11回・AL	教育の現代的課題:ニューカマー外国人のための教育(ディスカッション:AL)
第12回・AL	教育の現代的課題:教育のジェンダー差(ディスカッション:AL)
第13回・AL	教育の現代的課題:障がい児教育・インクルーシブ教育(ディスカッション:AL)
第14回・AL	社会的包摂を目指す学校づくり(ディスカッション:AL)
第15回・AL	教育の未来を構想する(ディスカッション:AL)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(50%)、授業中に行うグループワークや小テスト等の課題(50%)
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。
参考文献	若槻健ほか『教育社会学への招待』大阪大学出版会、2010
オフィスアワー	随時相談に応じます。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	毎時間のテーマに即した文献を提示しますので、それを事前に読んでくること。 毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること。
備考	本講義は、造形芸術学部制作力創造学科に在籍し、教員免許状の取得を希望する学生対象の授業との複式で開講します。受講生の意欲的な参加を求めるとともに、事前に提示した文献をもとにディスカッションを交えた授業を行いますので、予習ができていない場合は出席を認めません。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ-
発達心理学	小川 詩乃	講義	2 年次 前期	選択	2	30	KGE23102

科目の概要

わたしたち人間は生まれてから死ぬまで心身ともに「変化し続ける生き物」です。こうした変化を全て「発達」ととらえ、人間のこころや身体、行動などの変化を研究するのが「発達心理学」という学問です。
本講義では、人間の胎児期から高齢期までの各発達段階における特徴、および、発達障害について講義します。また本講義では、子どもの行動への対応について、受講生のみなさんと一緒に考えていきます。

到達目標

- ・人間の各発達段階における発達の特性についての知識を習得する。
- ・発達障害の特性を理解し、発達障害児者への支援・対応についての知見を広げる。
- ・子どもの行動への対応について様々な視点から考えられるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画	
第 1 回・AL	発達心理学とは	子どもの行動への対応①
第 2 回・AL	胎児期・乳児期	子どもの行動への対応②
第 3 回・AL	幼児期①	子どもの行動への対応③
第 4 回・AL	幼児期②	子どもの行動への対応④
第 5 回・AL	発達障害①	子どもの行動への対応⑤
第 6 回・AL	児童期①	子どもの行動への対応⑥
第 7 回・AL	児童期②	子どもの行動への対応⑦
第 8 回・AL	発達障害②	子どもの行動への対応⑧
第 9 回・AL	青年期	子どもの行動への対応⑨
第10回・AL	成人期①	子どもの行動への対応⑩
第11回・AL	成人期②	子どもの行動への対応⑪
第12回・AL	発達障害③	子どもの行動への対応⑫
第13回・AL	高齢期①	子どもの行動への対応⑬
第14回・AL	高齢期②	子どもの行動への対応⑭
第15回	各発達段階における発達の特性の振り返り・補足	

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート（45%）、期末試験（55%）
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考文献	入門書『手にとるように発達心理学がわかる本』小野寺敦子（かんき出版） 入門書『史上最強図解よくわかる発達心理学』林洋一（ナツメ社） 『看護のための人間発達学』舟島なをみ（医学書院）
オフィスアワー	授業終了後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	必要に応じて、情報収集や予習を行うこと。日常的に新聞やテレビのニュース等をみしておくこと。
備考	発達心理学で扱う内容は幅広く、本講義ですべてをお伝えすることはできません。このため、可能な限りみなさんの関心に沿った授業内容にしたいと考えています。毎回のレポートに、積極的に感想や質問、知りたいことなど記述するようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
ジェンダー論	木村 千尋	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23103

科目の概要

- ・心理学を基礎に男性、女性の性差を考える。
- ・性差の特徴の特徴とらえて活用する方法。
- ・看護に必要なジェンダーとは。

到達目標

ジェンダーから見えてくる社会を理解し多様な生き方を目指して、看護職を考える。ワークシートにより個人の特質を生かした、ミッション、ビジョン、バリューを設定する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション・ジェンダー論概論
第2回	ジェンダーからの考察
第3回	教育の中で伝わるメッセージ
第4回	家族変遷とジェンダーのゆくえ
第5回	主婦の存在
第6回	恋愛が持つ意味と力
第7回	母性と本能
第8回	仕事にまつわるジェンダー・ギャップ
第9回	ジェンダーとセクシュアリティ
第10回	性暴力とジェンダー
第11回	ジェンダーが強い身体の役割
第12回	フェミニズム
第13回	ジェンダー化される情報
第14回	ケーススタディ、看護とジェンダー
第15回	性別役割、自分らしく生きるために

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート（80%）、成果物（20%）
教科書	プリント
参考文献	後日配布
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前：第4回 テーマについて、家族とコミュニケーションを取る
備考	（心構え）積極的に意見を発表する、レポートに取り組む

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
民俗学	鈴木 洋昭	講義	2 年次 後期	選択	2	30	KGE23104

科目の概要

柳田国男の民俗学を中心に学問の対象・方法・課題について説明する。民俗学の対象である「民俗」とは、人々の生活習慣である。生活の中の社会・経済・宗教・芸能など諸側面における習慣と伝統であり、知識・技術・観念などの生活の知恵といえる。そうした民俗の分析を通して、具体的には恋愛と結婚をテーマに、人間とは何かを考えることにより、看護の現場においても役立てたい。

到達目標

民俗の分析を通して人間の生命活動への理解を深めるという民俗学の研究目的を達成するために、比較論的研究法や民俗誌的研究法といった民俗学的方法論を身につけ、生活文化とその歴史的解明を行う中で、日本の伝統的な社会と文化を体系的に把握する。そして、われわれの今生きている現在が、「民俗」によっていかに拘束されているかを明らかにする

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回・AL	はじめに
第 2 回	民俗学とは何か？
第 3 回	民俗とは何か？
第 4 回・AL	柳田国男と民俗学
第 5 回	動作伝承と言語伝承
第 6 回	昔話と伝説
第 7 回	民俗学の方法論（１）
第 8 回	民俗学の方法論（２）
第 9 回	民俗学の方法論（３）
第10回・AL	人生と儀礼（１） 誕生～成人
第11回・AL	人生と儀礼（２） 恋愛
第12回・AL	人生と儀礼（３） 結婚
第13回・AL	人生と儀礼（４） 死
第14回	民俗学の近代化
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	筆記試験（70％）・課題レポート（30％）
教 科 書	なし
参 考 文 献	その都度紹介する
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、30 分程度
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	講義時に紹介するテーマに関心をもたせる 講義終了時に簡単なまとめをする
備 考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
医療ジャーナリズム論	朝野 富三	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23105

科目の概要

医療に関するさまざまな報道を通して、「社会」の視点から医療をどう考えるべきかについて講義し、調査・研究を行う。

到達目標

- ・社会が医療をどう見ているのかを学ぶ。
- ・患者・家族とのコミュニケーション（人間関係）能力の必要性を学ぶ。
- ・社会の視点からあるべき医療の姿を考える。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス(医療とジャーナリズムの関係について)
第2回・AL	医療に求められるメディア・リテラシー(レポート提出)
第3回・AL	先端医療の倫理と社会(レポート提出)
第4回・AL	地域医療と報道(レポート提出)
第5回・AL	格差社会と医療(レポート提出)
第6回・AL	医療過誤や医療事故の報道(レポート提出)
第7回・AL	医療と「生死観」(レポート提出)
第8回・AL	国際貢献としての医療(レポート提出)
第9回・AL	グループ討議(グループワーク)
第10回・AL	医療テーマの選択(グループワーク)
第11回・AL	医療テーマに関する調査・研究活動①
第12回・AL	医療テーマに関する調査・研究活動②
第13回・AL	医療テーマに関する調査・研究活動③
第14回・AL	調査・研究結果の発表(プレゼンテーション)
第15回・AL	医療と社会を考える(レポート提出)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	各授業時に提出のレポート（60％）と調査・研究の発表（40％）
教科書	なし
参考文献	なし
オフィスアワー	事前予約または授業終了後30分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	できるだけ新聞を読み、特に医療に関する記事に目を通しておくこと。 講義終了時にレポートの課題を課しますので、ノートの整理をしておくこと。
備考	原則として毎回ミニレポートを提出してもらいます。後半は関心のあるテーマを選んでもらい、それに基づいて少人数のグループ分けを行い、グループごとに調査・研究をし、その結果をパワーポイントを使って全員の前で発表してもらいますので、パソコンにも習熟しておいてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ-
英語Ⅱ (Writing 1)	毛利 郁子	演習	2 年次 通年	必修	2	60	KGE21301

科目の概要

看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識など看護・医療の現場で役立つ様々な知識の基礎と応用を学びます。英作文や英会話を学習しながら、ライティングのみならず、リスニング、リーディング、スピーキングをも総合的にスキルアップし、英語コミュニケーション能力を高めます。ペアワーク、グループワーク・ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れた参加型授業です。

到達目標

- ・看護・医療英語における専門用語や言い回しを習得し、看護・医療英語の基礎を身につけることを目指します。
- ・国際的な医療従事者として心得ておくべき基本的な英作文や対話の知識の習得を目標とします。
- ・医療現場において、実際に臨機応変に英語で対応できる様、習得した知識をスムーズに運用できることを目標とします

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回・AL	Unit 1: First Visit 初診・問診票 その1
第3回	First Visit 初診・問診票 その2
第4回・AL	Unit 2: At the Examination Room 診察室での基本会話&ノロウィルス その1
第5回	At the Examination Room 診察室での基本会話&ノロウィルス その2
第6回・AL	Unit 3: Flu Symptoms インフルエンザの症状&タミフル その1
第7回	Flu Symptoms インフルエンザの症状&タミフル その2
第8回・AL	Unit 4: Pain Problems 痛みへの対処&BSE その1
第9回	Pain Problems 痛みへの対処&BSE その2
第10回・AL	Unit 5: Stomachache 胃痛&摂食障害 その1
第11回	Stomachache 胃痛&摂食障害 その2
第12回・AL	Unit 6: Abdominal Pain 腹痛&ホルモン攪乱物質 その1
第13回	Abdominal Pain 腹痛&ホルモン攪乱物質 その2
第14回・AL	Unit 7: Urinalysis 尿検査&市販薬 その1
第15回	Urinalysis 尿検査&市販薬 その2
第16回	前期総復習 前期試験返却・前期講義振り返り
第17回・AL	Unit 8: Cholesterol コレステロール&メタボリック症候群 その1
第18回	Cholesterol コレステロール&メタボリック症候群 その2
第19回・AL	Unit 9: Anemia 貧血&バランスのとれた食事 その1
第20回	Anemia 貧血&バランスのとれた食事 その2
第21回・AL	Unit10: Injury 怪我&ウォーキングの効能 その1
第22回	Injury 怪我&ウォーキングの効能 その2
第23回・AL	Unit11: Operation Period 手術の準備&入院手続き その1
第24回	Operation Period 手術の準備&入院手続き その2
第25回・AL	Unit12: Alcohol Poisoning アルコール中毒 その1
第26回	Alcohol Poisoning アルコール中毒 その2
第27回・AL	Unit13: Ultrasound Examination 超音波検査 その1
第28回	Ultrasound Examination 超音波検査 その2
第29回	Appendix II
第30回	後期総復習1 後期総復習2

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験 50%、小テスト、課題 50%
教科書	『Medical English Clinic』西村俊明、西原真弓、Tony Brown (センゲージ ラーニング株式会社)
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日（水曜日、木曜日）の授業前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	復習：必須 予習：随時授業で伝える
備考	テキスト、ノート、辞書、筆記用具、配布プリント 各 Unit その1 で学んだ内容をその2 で実演できるようにする

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
英語Ⅱ (Writing 1)	池田美智子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21302

科目の概要

比較的平易な英文で書かれた英字新聞やインターネットニュースの中菜から医療、健康に関する記事を読み、英語読解力や英作文能力のほかにも思考力も身につけたい。

到達目標

英語Ⅰの基礎の上にさらに応用的で高度な英語読解力や英作文能力を身につけたい。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Summer Weight Gain (その1) 夏休みにおける体重増加
第2回・AL	Summer Weight Gain (その2) (グループディスカッション)
第3回	Sugar in Danger (その1) WHOからの警告
第4回・AL	Sugar in Danger (その2) (グループディスカッション)
第5回・AL	Useful Expression 1: Making an Appointment (ペアワーク) 病院、歯科医院の予約
第6回	Adult Diapers outsell Baby Diapers (その1) 高齢化社会の影
第7回・AL	Adult Diapers Outsell Baby Diapers (その2) (グループディスカッション)
第8回	Medical Robots (その1) 医療分野におけるロボット事情
第9回・AL	Medical Robots (その2) (グループディスカッション)
第10回・AL	Useful Expressions2: Forms, Medical History and Billing (ペアワーク) 表の記入、病歴と請求書
第11回	Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide (その1) コーヒーの抗鬱効果
第12回・AL	Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide (その2) (グループディスカッション)
第13回	How Emergency Rooms Work (その1) 救急救命室の仕組み
第14回・AL	How Emergency Rooms Work (その2) (グループディスカッション)
第15回・AL	Useful Expressions 3: Emergency Room 救急救命室
第16回	Keep Your Heart Moving (その1) 脳卒中予防と運動
第17回・AL	Keep Your Heart Moving (その2) (グループディスカッション)
第18回	Teens Light Up E-Cigarettes (その1) 若者と電子たばこ
第19回・AL	Teens Light Up E-Cigarettes (その2) (グループディスカッション)
第20回・AL	Useful Expressions4: Examination language and General Exam Instructions (ペアワーク) 検査用語、健康診断における指示
第21回	Curing Peanut Allergies (その1) ピーナッツ・アレルギー治療
第22回・AL	Curing Peanut Allergies (その2) (グループディスカッション)
第23回	Cancer and Poverty (その1) 貧困とガン
第24回・AL	Cancer and Poverty (その2) (グループディスカッション)
第25回・AL	Useful Expressions 5: Pains and Sensations 痛みと感覚
第26回	AED (その1) AEDの知識
第27回・AL	AED (その2) (グループディスカッション)
第28回	Global Warming Triggers Disease (その1) 地球温暖化と病気の増加
第29回・AL	Global Warming Triggers Disease (その2)
第30回・AL	Useful Expressions 6: Medication (ペアワーク) 薬剤、投薬

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験50%と提出物（小テスト、課題など）50%
教科書	『Caregiver』 - New Edition - 近藤進（ほか2名）編 朝日出版
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習としては単語を引いてくる。事後学習はそれぞれのユニットが終わると単語試験を実施する。
備考	テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書を持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
英語Ⅱ (Writing 1)	永田 祥子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21303

科目の概要

英語Ⅰの基礎の上に、ライティングを中心にリーディング、スピーキング、及びリスニングを総合的に教授する。英語は国際社会で活躍するために必要であり、看護においても近年ますます重要になっている。本授業では、英語Ⅰで身につけた基礎的な英語力をさらに伸長することを目的として、さまざまなシチュエーションを取り上げる。

到達目標

- ・ライティングを中心とした総合的な英語力を伸ばす。
- ・看護英語の応用力を身につける。
- ・さまざまな医療用語を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回・AL	Unit 1: 医療従事者の心得ておくべき基本 Basics for Health Care Professionals(グループワーク)
第3回・AL	Unit 1: 医療従事者の心得ておくべき基本 Basics for Health Care Professionals (グループワーク)
第4回・AL	Unit 2: 消化器系:消化器系臓器の働き The Digestive System: How It Works (グループワーク)
第5回・AL	Unit 2: 消化器系:消化器系臓器の働き The Digestive System: How It Works (グループワーク)
第6回・AL	Unit 3: 循環器系:心臓病 The Cardiovascular System: The Heart, Pump for Life-giving Blood(グループワーク)
第7回・AL	Unit 3: 循環器系:心臓病 The Cardiovascular System: The Heart, Pump for Life-giving Blood(グループワーク)
第8回・AL	Unit 4: 神経系:神経障害と摂食障害 The Neurological System: Neuroscience (グループワーク)
第9回・AL	Unit 4: 神経系:神経障害と摂食障害 The Neurological System: Neuroscience (グループワーク)
第10回・AL	Unit 5: 泌尿器系:生殖技術 The Urinary System: Kidney Transplantation(グループワーク)
第11回・AL	Unit 5: 泌尿器系:生殖技術 The Urinary System: Kidney Transplantation(グループワーク)
第12回・AL	Unit 6: 生殖系:生殖技術 The Reproductive System: Infertility Treatments(グループワーク)
第13回・AL	Unit 6: 生殖系:生殖技術 The Reproductive System: Infertility Treatments(グループワーク)
第14回・AL	Unit 7: 骨格系:骨の健康 The Skeletal System: Bone Health (グループワーク)
第15回・AL	Unit 7: 骨格系:骨の健康 The Skeletal System: Bone Health(グループワーク)
第16回・AL	Unit 8: 免疫系:アレルギー The Immune System: Allergies(グループワーク)
第17回・AL	Unit 8: 免疫系:アレルギー The Immune System: Allergies(グループワーク)
第18回・AL	Unit 9: 内分泌系:糖尿病 The Endocrine System: Diabetes (グループワーク)
第19回・AL	Unit 9: 内分泌系:糖尿病 The Endocrine System: Diabetes (グループワーク)
第20回・AL	Unit 10: 感染症の予防 Preventing the Spread of Infectious Disease (グループワーク)
第21回・AL	Unit 10: 感染症の予防 Preventing the Spread of Infectious Disease (グループワーク)
第22回・AL	Unit 11: 癌検知技術 Cancer Detection(グループワーク)
第23回・AL	Unit 11: 癌検知技術 Cancer Detection (グループワーク)
第24回・AL	Unit 12: ロボット手術 Robotic Surgery (グループワーク)
第25回・AL	Unit 12: ロボット手術 Robotic Surgery (グループワーク)
第26回・AL	Unit 13: 遺伝子研究による個人化医療 From Genetic Research to Personalized Medicines(グループワーク)
第27回・AL	Unit 13: 遺伝子研究による個人化医療 From Genetic Research to Personalized Medicines(グループワーク)
第28回・AL	Unit 14: 臨床試験 Clinical Research(グループワーク)
第29回・AL	Unit 14: 臨床試験 Clinical Research (グループワーク)
第30回・AL	Unit 15: 老人看護 Health Care for Aging: Geriatric Nursing (グループワーク)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験50%、提出物・課題50%
教科書	医療の世界—基本情報と表現演習— Understanding Health Care (朝日出版社) なおプリントを随時追加する。
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	テキストに目を通し、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。 授業内容やテキストを復習し、慣用表現及び医療単語を暗記すること。
備考	テキスト、ノート、筆記用具、辞書を持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
英会話Ⅱ (Listening & Speaking 2)	永田 祥子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22301

科目の概要

本授業では、英会話力のさらなるレベルアップを目指すために、基本的な表現の練習に加え、難易度の高い内容を取り入れて教授する。また、語彙を増やし、楽しみながら英語でのコミュニケーション力を身につけるため、ペア・プラクティスやロールプレイなどのアクティビティを行う。さらに適宜、医療に関する会話表現も取り上げる。

到達目標

- ・英会話力のさらなるレベルアップを目指す。
- ・語彙力を増やし、英語によるコミュニケーション力を身につける。
- ・異文化への理解を深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回・AL	Unit 1: 困った時の英語/ 診療科名/ 患者の基本情報 Do you work on the surgical ward?(グループワーク)
第3回・AL	Unit 1: 困った時の英語/ 診療科名/ 患者の基本情報 Do you work on the surgical ward?(グループワーク)
第4回・AL	Unit 2: 診療手続き/ 症状 What's your problem today?(グループワーク)
第5回・AL	Unit 2: 診療手続き/ 症状 What's your problem today?(グループワーク)
第6回・AL	Unit 2: 診療手続き/ 症状 What's your problem today?(グループワーク)
第7回・AL	Unit 3: 入院時オリエンテーション This is the nurses' station. (グループワーク)
第8回・AL	Unit 3: 入院時オリエンテーション This is the nurses' station. (グループワーク)
第9回・AL	Unit 3: 入院時オリエンテーション This is the nurses' station. (グループワーク)
第10回・AL	Unit 4: 病歴の聴取/ 病名 Are you suffering from any illnesses?(グループワーク)
第11回・AL	Unit 4: 病歴の聴取/ 病名 Are you suffering from any illnesses?(グループワーク)
第12回・AL	Unit 4: 病歴の聴取/ 病名 Are you suffering from any illnesses?(グループワーク)
第13回・AL	Unit 5: 検査 You need to have an MRI. (グループワーク)
第14回・AL	Unit 5: 検査 You need to have an MRI. (グループワーク)
第15回・AL	Unit 5: 検査 You need to have an MRI. (グループワーク)
第16回・AL	Unit 6: 産婦人科 You're going to have a baby! (グループワーク)
第17回・AL	Unit 6: 産婦人科 You're going to have a baby! (グループワーク)
第18回・AL	Unit 6: 産婦人科 You're going to have a baby! (グループワーク)
第19回・AL	Unit 7: 小児科/ 予防接種 My baby has a fever. (グループワーク)
第20回・AL	Unit 7: 小児科/ 予防接種 My baby has a fever. (グループワーク)
第21回・AL	Unit 7: 小児科/ 予防接種 My baby has a fever. (グループワーク)
第22回・AL	Unit 8: 手術 Your surgery will be tomorrow at 10 am. (グループワーク)
第23回・AL	Unit 8: 手術 Your surgery will be tomorrow at 10 am. (グループワーク)
第24回・AL	Unit 8: 手術 Your surgery will be tomorrow at 10 am. (グループワーク)
第25回・AL	Unit 9: 術後/ 日常看護 How are you feeling?(グループワーク)
第26回・AL	Unit 9: 術後/ 日常看護 How are you feeling?(グループワーク)
第27回・AL	Unit 9: 術後/ 日常看護 How are you feeling?(グループワーク)
第28回・AL	Unit 10: 心のケア/ 文化や宗教の違い Are you worried about anything?(グループワーク)
第29回・AL	Unit 10: 心のケア/ 文化や宗教の違い Are you worried about anything?(グループワーク)
第30回・AL	Unit 10: 心のケア/ 文化や宗教の違い Are you worried about anything?(グループワーク)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験50%、提出物・課題50%
教科書	『クリスティーナのレベルアップ看護英会話』(医学書院) 随時プリントを追加する。
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	テキストに目を通し、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。 授業内容やテキストを復習し、慣用表現及び医療単語を暗記すること。
備考	テキスト、ノート、筆記用具、辞書を持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
英語Ⅲ (Reading 2)	永田 祥子	演習	2 年次 通年	選択	2	60	KGE22302

科目の概要

本授業では、看護英語を扱った教材を用いながら、リーディングを中心に、リスニング、スピーキング、ライティングを総合的に教授する。また、看護に最低限必要と考えられる英単語は、ロールプレイなどを通して楽しみながら学び、同時に基本的な文法事項も確認していく。

到達目標

- ・リーディングを中心に、リスニング、スピーキング、ライティングなどの総合的な英語力を伸長する。
- ・看護の現場に応用できる基礎的な英語力を身につける。
- ・看護に最低限必要と考えられる英単語及び基本的な文法事項を学ぶ。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回・AL	Unit 1: 患者登録と生活習慣アンケートする Meeting Patients(グループワーク)
第3回・AL	Unit 1: 患者登録と生活習慣アンケートする Meeting Patients(グループワーク)
第4回・AL	Unit 2: 病歴および健康状態を把握する Taking a Medical History(グループワーク)
第5回・AL	Unit 2: 病歴および健康状態を把握する Taking a Medical History(グループワーク)
第6回・AL	Unit 3: 病状や症状をアセスメントする Assessing Patients' Symptoms(グループワーク)
第7回・AL	Unit 3: 病状や症状をアセスメントする Assessing Patients' Symptoms(グループワーク)
第8回・AL	Unit 3: 病状や症状をアセスメントする Assessing Patients' Symptoms(グループワーク)
第9回・AL	Unit 4: バイタルサインを確認する Taking Vital Signs(グループワーク)
第10回・AL	Unit 4: バイタルサインを確認する Taking Vital Signs(グループワーク)
第11回・AL	Unit 5: 検体を採取する Taking a Specimen(グループワーク)
第12回・AL	Unit 5: 検体を採取する Taking a Specimen(グループワーク)
第13回・AL	Unit 6: 検査の注意や指示をする Conducting Medical Examinations(グループワーク)
第14回・AL	Unit 6: 検査の注意や指示をする Conducting Medical Examinations(グループワーク)
第15回・AL	Unit 6: 検査の注意や指示をする Conducting Medical Examinations(グループワーク)
第16回・AL	Unit 7: 疾病・負傷による痛みをアセスメントする Assessing Pain(グループワーク)
第17回・AL	Unit 7: 疾病・負傷による痛みをアセスメントする Assessing Pain(グループワーク)
第18回・AL	Unit 8: 処方された投薬についてアドバイスする Advising about Medication(グループワーク)
第19回・AL	Unit 8: 処方された投薬についてアドバイスする Advising about Medication(グループワーク)
第20回・AL	Unit 9: 体の機能回復を介助・援助する Improving Patients' Mobility(グループワーク)
第21回・AL	Unit 9: 体の機能回復を介助・援助する Improving Patients' Mobility(グループワーク)
第22回・AL	Unit 9: 体の機能回復を介助・援助する Improving Patients' Mobility(グループワーク)
第23回・AL	Unit 10: 栄養と食餌についてアドバイスする Maintaining a Good Diet(グループワーク)
第24回・AL	Unit 10: 栄養と食餌についてアドバイスする Maintaining a Good Diet(グループワーク)
第25回・AL	Unit 11: 入院患者のケアをする Caring for Inpatients(グループワーク)
第26回・AL	Unit 11: 入院患者のケアをする Caring for Inpatients(グループワーク)
第27回・AL	Unit 11: 入院患者のケアをする Caring for Inpatients(グループワーク)
第28回・AL	Unit 12: 緊急事態に対処する Going with Emergencies(グループワーク)
第29回・AL	Unit 12: 緊急事態に対処する Going with Emergencies(グループワーク)
第30回・AL	Unit 12: 緊急事態に対処する Going with Emergencies(グループワーク)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験 50%、提出物・課題 50%
教科書	医療分野で働くためのコミュニケーションコース Caring for People(センゲージ ラーニング株式会社) 随時プリントを追加する。
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	テキストに目を通し、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。 授業内容やテキストを復習し、慣用表現及び医療単語を暗記すること。
備考	テキスト、ノート、筆記用具、辞書を持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
英語Ⅳ (Writing 2)	池田美智子	演習	2 年次 通年	選択	2	60	KGE22303

科目の概要

高度な医学分野に偏らず、一般的に新聞などで見受けられるような「健康」・「医療」に触れた内容で多分野にわたるトピックを読み進める。

到達目標

テキストで学んだ内容から健康とはいったいどういうことを意味するのか、そして健全さの維持、増進のために何ができるかについて考えられるようにしたい。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	What is health? Four different aspects (その1)健康の概念とは何か?
第2回	What is health? Four different aspects (その2)
第3回	Reconstructing lives: A journey from chaos to calm (その1)整形手術が少女にもたらしたもの
第4回	Reconstruction lives: A journey from chaos to calm (その2)
第5回	Mental health disaster relief not always clear cut (その1)災害後の心のケア
第6回	Mental health disaster relief not always clear cut (その2)
第7回・AL	Future Study: Four aspects of health. Medical history form (グループワーク)四つの概念
第8回	Japan needs more nurses and care-workers (その1)看護師や介護福祉士が不足する日本
第9回	Japan needs more nurses and care-workers (その2)
第10回	Yoga's spiritual balance may boost health (その1)精神的健全さと身体的健康
第11回	Yoga's spiritual balance may boost health (その2)
第12回	Do you count calories? (その1)カロリー計算してる?
第13回	Do you count calories? (その2)
第14回・AL	Future Study: The human body. Yoga and its benefit. (グループワーク)人体図
第15回	Clinical oncology: Global cancer rates expected to soar by 2030 (その1)ガン発生率の高騰
第16回	Clinical oncology: Global cancer rates expected to soar by 2030 (その2)
第17回	It's never too late to quit smoking (その1)禁煙に遅すぎることはない
第18回	It's never too late to quit smoking (その2)
第19回	Overcoming diabetes with diet and exercise (その1)生活習慣の見直しで糖尿病を克服する
第20回	Overcoming diabetes with diet and exercise (その2)
第21回・AL	Future study: Most common cancer sites worldwide by Sex, 2008 (グループワーク)世界各国の最も罹患率の高い腫瘍
第22回	Body mass index may not reflect child obesity (その1)子供の肥満率を表す最も適切な指標とは?
第23回	Body mass index may not reflect child obesity (その2)
第24回	The future of regenerative medicine and iPS cells (その1)再生医療とiPS細胞の未来
第25回	The future of regenerative medicine and iPS cells (その2)
第26回	Need a nurse? You may have to wait (その1)高度医療を支えるために、看護師の配置の重要性
第27回	Need a nurse? You may have to wait (その2)
第28回・AL	Future study: Humor (グループワーク)ユーモアで病を吹き飛ばす
第29回	Preparing for a future that includes aging parents (その1)高齢化社会の負担にどう備えるか
第30回	Preparing for a future that includes aging parents (その2)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験 50%、提出物（課題など） 50%
教科書	『A Healthy Mind, A Health Body』（今を生きるこことからだ）石川英司（他4名）編、朝日出版
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前に単語などを調べておくこと。
備考	テキスト、ノート、筆記用部と電子辞書を持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	演習	2 年次 通年	選択	2	60	KGE22304

科目の概要

パリの料理学校に留学した 20 歳の日本人女性 Aya の学校生活を舞台に、「フランスの食文化」（パン、ファーストフード、スイーツ、家庭料理など）を紹介しながら、日常生活での基本的なフランス語会話と初級文法を学びます。また食文化以外のフランスの文化にも触れることで、フランスという国に興味・関心を抱いてもらうのもこの授業の目的です。従ってこの授業では、フランス映画やパリの観光名所・街並みといった映像もお見せします。そして授業では毎回発音と、教科書を参考しながら練習問題をしてもらい、練習問題は提出して頂きますが、翌週に添削をしてお返しします。

到達目標

- ・知人・友人との日常会話や、レストランおよびマルシェ（市場）での基本的なフランス語表現を身につけることができる。
- ・基礎的な文法事項を習得することで、フランス語の文章の基本的な読み・書きができるようになる。
- ・フランスの文化を知ること、フランスという国に対しての理解を深めることができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	イントロダクション:① ガイダンス ② パリの街並みとフランス語
第 2 回・AL	フランス語の音と文字:① アルファベ ② つづり字記号の規則
第 3 回・AL	はじめまして！(1):① 主語人称代名詞 ② 国籍を表す形容詞 ③ 動詞《 être 》「～です」
第 4 回・AL	はじめまして！(2):①【対話Ⅰ】「あなたは日本人ですか？」②【対話Ⅱ】「君はフランス人？」③ 語彙と表現「挨拶」
第 5 回・AL	それは何ですか？(1):① 名詞と不定冠詞 ② 指示代名詞《 ce 》③ 形容詞の性・数の一致
第 6 回・AL	それは何ですか？(2):①【対話Ⅰ】「それはカリフラワーです。」②【対話Ⅱ】「きれいだ！」③ 語彙と表現「色」「形容詞」
第 7 回・AL	エスカルゴは好きですか？(1):① 第一群規則動詞《 -er動詞 》② 定冠詞 ③ 疑問文
第 8 回・AL	エスカルゴは好きですか？(2):①【対話Ⅰ】「私はとても好きです。」②【対話Ⅱ】「とてもおいしい！」③ 語彙と表現「動詞」
第 9 回・AL	お腹がすいた！(1):① 動詞《 avoir 》「持っている」② 形容詞の位置 ③ 否定文 ④ 人称代名詞の強勢形
第 10 回・AL	冷たいものが欲しい。(2):①【対話Ⅰ】「ごめんなさい。」②【対話Ⅱ】「タルト・タタンを下さい。」③ 語彙と表現「感情」
第 11 回・AL	平鯛のプロヴァンス風を作ります。(1):① 動詞《 aller 》「行く」② 指示形容詞 ③ 動詞《 faire 》「作る、する」
第 12 回・AL	平鯛のプロヴァンス風を作ります。(2):①【対話Ⅰ】「了解！」②【対話Ⅱ】「おいしそうだね。」③ 語彙と表現「食事」
第 13 回・AL	おすすめは何ですか？(1):① 所有形容詞 ② 疑問形容詞 ③ 動詞《 pouvoir 》「できる」
第 14 回・AL	おすすめは何ですか？(2):①【対話Ⅰ】「おいくらですか？」②【対話Ⅱ】「私は 20 歳です。」③ 語彙と表現「数字」
第 15 回	前期のまとめ
第 16 回・AL	それは誰ですか？(1):① 疑問代名詞《 qui / que 》② 《 il y a ～ 》「～があります」③ 定冠詞の縮約
第 17 回・AL	それは誰ですか？(2):①【対話Ⅰ】「明日何をするの？」②【対話Ⅱ】「それはどこにあるの？」③ 語彙と表現「疑問詞」
第 18 回・AL	冷たいものが欲しい。(1):① 動詞《 vouloir 》「欲しい、したい」/《 prendre 》「手に取る」② 部分冠詞 ③ 女性形容詞
第 19 回・AL	冷たいものが欲しい。(2):①【対話Ⅰ】「飲み物は何にする？」②【対話Ⅱ】「前菜は何を取る？」③ 語彙と表現「数量」
第 20 回・AL	手伝ってくれますか？(1):① 動詞《 venir 》「来る」② 第二群規則動詞《 -ir動詞 》③ 補語人称代名詞
第 21 回・AL	手伝ってくれますか？(2):①【対話Ⅰ】「もちろん！」②【対話Ⅱ】「レシピをくれる？」③ 語彙と表現「野菜 / 果物 / お肉」
第 22 回・AL	鴨肉のローストを作りました。(1):① 複合過去 ② 中生代名詞《 en / y 》
第 23 回・AL	鴨肉のローストを作りました。(2):①【対話Ⅰ】「日本では兎を食べる？」②【対話Ⅱ】「食べてみる？」③ 語彙と表現「時」
第 24 回・AL	とても面白かった！(1):① 半過去 ② 動詞《 savoir / connaître 》「知っている」
第 25 回・AL	とても面白かった！(2):①【対話Ⅰ】「それって本当？」②【対話Ⅱ】「その祝祭のワイン知ってる？」③ 語彙と表現「ワイン」
第 26 回・AL	急がないといけない！(1):① 非人称構文 ② 代名動詞 ③ 感嘆文《 quel / que 》
第 27 回・AL	急がないといけない！(2):①【対話Ⅰ】「何時ですか？」②【対話Ⅱ】「何て美しい風景だ！」③ 語彙と表現「時刻」
第 28 回・AL	こちらの方が小さい。(1):① 比較級 ② 最上級 ③ 指示代名詞《 celui 》
第 29 回・AL	こちらの方が小さい。(2):①【対話Ⅰ】「それにします。」②【対話Ⅱ】「それは素晴らしい！」③ 語彙と表現「お店」
第 30 回	後期のまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	平常点 60%（発音 30% + 練習問題 30%）、試験 40%で評価します。
教科書	『Tarte Tatin（タルト・タタン）』、藤田裕二、東海麻衣子著、駿河台出版社
参考文献	授業中に紹介します。
オフィスアワー	授業時間の前後。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通して置いて下さい。（10 分） 次の授業で新しいことを習得するためにも、その週に学んだ項目については復習して下さい。（30 分）
備考	語学には地道な努力が必要ですが、先ずは興味を持つことが大事ですので、難しく捉えずにその国の文化を楽しみながら、少しずつ語学を学んで行って下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
中国語会話Ⅱ	潘 山海	演習	2 年次 通年	選択	2	60	KGE22305

科目の概要

本科目は中国語会話の基礎作りを終えた初級者や基礎が未だ弱い中国語初心者に向けるものである。教員のリードの下で、学生が既習の中国語基礎知識や会話基本表現を復習しながら、場面別な実践中国語会話を習得していく。場面に合わせて中国の文化・習慣や最近事情（看護）をも紹介する。アクティブラーニングを通して学生一人一人に十分な口出し練習チャンスを与えて、場面別会話を体得して身につけていただくことを心がける。

到達目標

- ・中国語の発音能力や中国語に関する基礎知識が強化できる。
- ・場面別な中国語会話を実践しながら修得する。
- ・中国の文化・習慣や最近事情（看護）も知ることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	1. ガイダンス(你好!/学習注意事項等)；お名前を中国語で読み練習/基本挨拶復習。
第 2 回	2. 中国語基本知識(発音復習一)。
第 3 回	3. 中国語基本知識(発音復習二)。
第 4 回・AL	4. 場面別会話を始めよう(自己紹介)。(グループワーク)
第 5 回・AL	5. 是/人称代名詞/身分表現。(グループワーク)
第 6 回・AL	6. ホテルに行く実用会話(場所代名詞と行き方用語)。(グループワーク)
第 7 回	7. SV0/疑問文/日常活動用語。
第 8 回・AL	8. タクシーを待つ実用会話(指示代名詞関連用語)。(グループワーク)
第 9 回	9. 指示詞/推量助詞/数詞一。
第10回・AL	10. タクシーに乗る実用会話(依頼用語/時間用語)。(グループワーク)
第11回	11. 数詞二/時刻・時間用語一。
第12回・AL	12. 部屋を予約する実用会話(所有と存在関連用語)。(グループワーク)
第13回	13. 反復疑問文/時間用語二。
第14回・AL	14. 路を尋ねる実用会話(存在と距離関連用語)。(グループワーク)
第15回	15. 在/距離前置詞/方位詞と形容詞関連表現。
第16回・AL	16. 両替する/日中貨幣関連用語と実用会話。(グループワーク)
第17回・AL	17. 要望助動詞/比較表現/交通機関用語と実用会話。(グループワーク)
第18回・AL	18. 買い物/衣服買物用語と実用会話。(グループワーク)
第19回・AL	19. 序数詞/許可助動詞/副詞/道具関連用語と実用会話。(グループワーク)
第20回・AL	20. 電話をかける/電話関連用語と実用会話。(グループワーク)
第21回・AL	21. 進行形/完了形/年月日/活動進行用語と実用会話。(グループワーク)
第22回・AL	22. 食事用語/会/了/度量単位と実用会話。(グループワーク)
第23回	23. 選択疑問詞/前置詞「把」/結果補語など
第24回・AL	24. 依頼用語/給/能/禁止表現と実用会話。(グループワーク)
第25回	25. 友人訪問/挨拶用語/親族呼称/様態補語。
第26回・AL	26. 年齢用語/過/方向補語と実用会話。(グループワーク)
第27回・AL	27. 価格交渉用語/「得」/二重目的語構文と実用会話。(グループワーク)
第28回・AL	28. 身体用語/程度補語/条件表現と実用会話。(グループワーク)
第29回・AL	29. 紛失関連用語/受動態/「着」/強調構文と実用会話。(グループワーク)
第30回	30. お見送り用語/近未来表現/仮定形表現/使役態表現など。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	口頭試験 70%＋宿題・課題 30%で評価する。
教科書	教科書：「中国を歩こう (CD 付)」(陳淑梅・蘇明 著、金星堂 発行)。
参考文献	「DVD だからよくわかる中国語会話入門 (DVD 付)」(日中学院 監修、川上美鳥 著、榊西東社 発行)。
オフィスアワー	出講日の授業の前後と出講日の五時限目(研究室場所：宝塚キャンパス本館 5 階 505 室)
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	毎回の授業に出る前に教科書と MP3 プレーヤーで 30 ほど事前学習・復習しておくこと。 授業終了後から次の授業までの一週間の間には 1 時間以上を使って既習内容を復習し、宿題を完成すること。
備考	授業に出るとき必ず教科書とノートを持参しよう；MP3 プレーヤーを活用しよう。音声練習時は積極的に口に出して練習しよう。宿題／課題は必ず完成しよう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22306

科目の概要

発音と綴り字、イントネーション、名詞の種類・変化とその関連分野（冠詞・形容詞）、動詞の変化と用法（主に現在形と過去形）を柱として、イタリア語文法の基礎固めをします。動詞の変化は主語と時制などの情報を含んでいる点で特に重要ですので、この点を徹底的に指導します。おりにふれてイタリア諸事情（文化、政治、社会、地理など）にも触れたいと思います。

到達目標

- ・イタリア語らしい発音とイントネーションの習得（イントネーションの違いが文の意味を左右する場合があります）
- ・基本単語・基本熟語・会話の定型表現の習得
- ・基本語彙に基づいて、現在の事柄、過去の事柄。願望を表す内容を理解し、発信できるようになること

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	発音と綴り字の対応
第2回・AL	注意すべき発音と綴り字
第3回	名詞の性
第4回	名詞の数
第5回・AL	冠詞
第6回	基本動詞 <i>essere</i> の変化と用法①
第7回・AL	基本動詞 <i>essere</i> の変化と用法②
第8回	基本動詞 <i>avere</i> の変化と用法①
第9回・AL	基本動詞 <i>avere</i> の変化と用法②
第10回	一般動詞の変化と用法(現在形・規則変化)
第11回・AL	一般動詞の変化と用法(現在形・不規則変化)
第12回・AL	時刻と数字のまとめ
第13回	補助動詞の変化と用法(現在形)①
第14回・AL	補助動詞の変化と用法(現在形)②
第15回・AL	曜日と日付の表現
第16回	再帰動詞(現在形)①
第17回・AL	再帰動詞(現在形)②
第18回	近過去①
第19回・AL	近過去②
第20回・AL	疑問詞
第21回	半過去①
第22回・AL	半過去②
第23回・AL	前置詞
第24回・AL	所有形容詞
第25回	代名詞(直接目的)
第26回・AL	代名詞(間接目的)
第27回	命令法①
第28回・AL	命令法②
第29回・AL	未来形
第30回・AL	比較表現

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	前期および後期学科試験（60％）、授業内の小テスト（20％）、課題（20％）
教科書	吉富文、マッテオ・カスタンヤ『イタリアーノ・イタリアーノ』（朝日出版社、2015）2,300円（本体）ISBN 9784255553146
参考文献	『プログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）
オフィスアワー	土曜日1限目授業開始前20分、終了後30分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	次の授業の単語の下調べをしておくこと。 既習範囲を徹底して復習し、暗記すること。
備考	B5のファイルノートを用意すること。プリントを配布します。散逸しないよう綴じるためです。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	溝邊 敬一	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22307

科目の概要

ドイツ語圏各地で医学、演劇、ホテル業、スポーツなどを学ぶ6人の学生の生活と意見のドキュメンタリー。

到達目標

生きたドイツ語が描かれるさまざまなシーンをDVDで見ながら、聴取力を養い、テキストを読んで読解力・表現力を身につけ、自分の意見を述べることができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ドイツ語文法知識の復習・実力のチェック。
第2回・AL	テーマ1(ドイツ):ハンブルクの医学生Sandraの場合——内容について話し合う。
第3回	テーマ1:テキストの音読と読解(1)
第4回	テーマ1:テキストの音読と読解(2)
第5回・AL	テーマ2(ドイツ):ベルリンの演劇科専攻生Christianeの場合——内容について話し合う。
第6回	テーマ2:テキストの音読と読解(1)
第7回	テーマ2:テキストの音読と読解(2)
第8回・AL	テーマ3(オーストリア):ヴィーンのギムナジウム生Bjornの場合——内容について話し合う。
第9回	テーマ3:テキストの音読と読解(1)
第10回	テーマ3:テキストの音読と読解(2)
第11回	中間試験
第12回	ドイツ映画鑑賞
第13回・AL	テーマ4(スイス):アナウンサーをしながらダンスを学ぶギムナジウム生Ninaの場合——内容について話し合う。
第14回	テーマ4:テキストの音読と読解(1)
第15回	テーマ4:テキストの音読と読解(2)
第16回・AL	テーマ5(リーヒテンシュタイン):スポーツと音楽を目指す実業学校生Barisの場合——内容について話し合う。
第17回	テーマ5:テキストの音読と読解(1)
第18回	テーマ5:テキストの音読と読解(2)
第19回・AL	テーマ6(イタリア・南チロル):家業のホテルを継ぐための勉強をする実業学校生Peterの場合——内容について話し合う。
第20回	テーマ6:テキストの音読と読解(1)
第21回	テーマ6:テキストの音読と読解(2)
第22回	中間試験
第23回・AL	テーマ7:ドイツの中等・高等教育制度について——内容について話し合う。
第24回	テーマ7:テキストの音読と読解(1)
第25回	テーマ7:テキストの音読と読解(2)
第26回・AL	テーマ8:ドイツの冬(クリスマス)——内容について話し合う。
第27回	テーマ8:テキストの音読と読解(1)
第28回	テーマ8:テキストの音読と読解(2)
第29回・AL	ドイツ語文法知識の総まとめ
第30回	ドイツ映画鑑賞

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	ALへのアクティヴな参加(50%)、中間・期末試験(30%)、レポート提出(20%)
教科書	なし
参考文献	独和辞典
オフィスアワー	授業日の午後(1時～2時)講師室。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	予習45分、復習45分
備考	教科書はプリントで毎回配布

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	講義	3年次 前期	選択	2	30	KGE33101

科目の概要

相手の考えや思いをくみとり、自分の意見や思いを正確に伝える。そんなコミュニケーションを実践するために人間としての感性を磨き、自分を表現する能力を高めたい。苦しんでいる相手に寄り添う、迷惑をかけたことをおわびする、愛を打ち明ける、雄大な企画を語る……そうした具体的な場面を想定して説得力のある実践向きの文章を書く力を鍛える。

到達目標

- ・詩、エッセイ、新聞記事、テレビ映像、絵画などを読み解く作業を通して感性が豊かになり、観察力・思考力も鍛えられる。
- ・自分の「意見」や心の奥深くにある「思い」を言葉で論理的に組み立てて簡潔・雄弁に伝える技術が身につく。
- ・クラスみんなが書いた文章を互いに講評し合うことで、度胸がつき、意志を貫く力が養われる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新聞記事から社会を読む(ガイダンスを兼ねる)
第2回・AL	ドキュメンタリー番組を講評する(作文を書く)
第3回	目の見えない人が書いたエッセイを読み、感性について考える(作文の講評)
第4回	相手を思いやる表現力を学ぶ
第5回・AL	本当に大切なのは頭か腹か——身体と表現(作文を書く)
第6回	見えないものを見る——想像力と批評の精神(作文の講評)
第7回・AL	人間の尊厳をささえる文章とは
第8回	思考停止に陥らない言葉遣いを磨く(作文を書く)
第9回	ユーモアを身に着ける(作文の講評)
第10回	相手の心をゆさぶるお詫びの仕方
第11回・AL	自分を売り込む技術(作文を書く)
第12回	ひととは違う切り口ということ(作文の講評)
第13回	事実と意見を書き分ける
第14回・AL	深いところに隠れている思いを引き出す(作文を書く)
第15回	文は人なり——自立と自律(作文の講評)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	授業中に数回書く課題文70%、期末の課題文30%
教科書	使わない
参考文献	必要に応じて授業で紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講師が添削した文章や教材資料をじっくり読み返すことが、つぎの学習への道を開く
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	講義	1 年次 後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

患者の権利、脳死と臓器移植、生殖補助医療、終末期医療、遺伝子医療といったテーマを材料に、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題を考察する。疾病の治癒のためには医療技術の発展が望まれるべきであるが、しかしそれは人間の尊厳を侵してはならない。この講義では双方がいかにバランスをとるべきかという観点から、今日の生命倫理の問題を考える。受講者に背景知識と判断材料を提供し、主体的に問題を検討し、意見を交換することを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うことがこの講義の目標である。

到達目標

- ・倫理に関する知識を深める。
- ・倫理が問われるさまざまな医療問題について理解する。
- ・物事を倫理的に考える姿勢を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第2回	倫理学のさまざまな考えかた
第3回	インフォームド・コンセントと看護の視点
第4回	道徳的想像力
第5回	安楽死、尊厳死をめぐる
第6回	脳死と臓器移植
第7回	人工妊娠中絶をめぐる問題
第8回	出生前診断と選択的中絶
第9回	生殖補助医療 I
第10回	生殖補助医療 II
第11回	文献を読んで考えるーレポート執筆のためのワークショップ
第12回	宗教上の理由による治療拒否
第13回	最先端医療の倫理
第14回	医療とはー看護の見地からの意味
第15回	死生学の課題

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	各回の課題 40% 期末レポート 60%
教科書	「教科書」というかたちでは、特に指定しない。
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマについて紹介する。第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティー宗教なき時代に生死を語る』(京都大学学術出版会)の一読を薦める。
オフィスアワー	講義時の前30分。また講義時の配布資料に担当者のメールアドレスを記するので、Eメールを介した質問・意見は随時受け付ける。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	特別には設定しないが、講義時に紹介した文献を読み、理解を深めることを推奨する。
備考	生命倫理の問題は、自ら考え、論じ合うことによってこそ理解しうる。そのため、本講義では授業内ミニレポートやグループ・ディスカッションなど、受講者参加型の要素を大きく導入する。出席点は、こうしたワークへの積極的な参加とその成果をもって評価される。各回のワークの成果は、次回に配布する資料でフィードバックする。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
医療行動科学	日高 庸晴	講義	1 年次 後期	選択	2	30	KSB13101

科目の概要

現代医療における重要な点は、予防的保健行動の促進であり、それに相反する不健康なライフスタイルを変容するためのモデルについて、喫煙や食事、運動、性行動といった具体的事例を例に講義を展開する。講義は人間の行動を包括的にとらえるために心理学・社会学・教育学・保健学など多領域の知見と理論を統合して行う。また、視聴覚教材や疫学調査によるエビデンスを随時紹介することによって、理解度を深めることを目指す。

到達目標

健康行動に関係する大規模データの読み取り方や考え方、健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを学ぶこと、古典的な行動理論から臨床現場で実践・応用可能な理論まで幅広く学び、身に付けることを目標とする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回・AL	行動変容のためのコミュニケーション1+ALコメントシート
第3回・AL	行動変容のためのコミュニケーション2+ALコメントシート
第4回・AL	健康信念モデル+ALコメントシート
第5回・AL	オペラント条件付け・学習理論+ALコメントシート
第6回・AL	合理的行動理論・計画的行動理論・ワーク
第7回・AL	禁煙の行動科学ーどうしても煙草がやめられないー+ALコメントシート
第8回・AL	エイズパンデミックー世界・アジア・日本ー行動科学的予防アプローチ+ALコメントシート
第9回・AL	多職種チームでHIV陽性者を支えるということ+ALコメントシート
第10回・AL	セクシュアルマイノリティの健康問題+ALコメントシート
第11回・AL	医療と法+ALコメントシート
第12回・AL	アートを通じた釜ヶ崎における労働者支援の現場から+ALコメントシート
第13回・AL	タイプA行動特性ー「忙しい！忙しい！」手帳に用事がビッシリ+ALコメントシート
第14回・AL	合法？ 脱法？ アルコールとドラッグ使用の健康問題+ALコメントシート
第15回・AL	いのちは誰のものか+ALコメントシート

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験によって評価する。
教科書	適宜配付資料を用意します。
参考文献	適宜紹介します。
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	第1回オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと。 随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること。
備考	講義中の私語・携帯電話の使用等は厳禁とします。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
栄養と健康	坂元 美子	講義	1 年次 後期	必修	2	30	KSB11102

科目の概要

栄養素の基礎的な知識について身につける
 摂取した栄養素が体内でどのように利用されるかについての知識を身につける
 健康と栄養素の関連性についての知識を身につける

到達目標

- ・ 五大栄養素の種類、消化と吸収、体内動態について理解する
- ・ 健康を保持・増進するための適切な栄養素の摂取について理解する
- ・ 生活習慣病その他の疾患と栄養素摂取について理解する

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	栄養とは:栄養摂取の意義、五大栄養素の役割
第 2 回	糖質の栄養:糖質の種類、
第 3 回	糖質の栄養:消化吸収、体内動態
第 4 回	脂質の栄養:脂質の種類、
第 5 回	脂質の栄養:脂質の消化吸収、体内動態
第 6 回	たんぱく質の栄養:たんぱく質の種類、
第 7 回	たんぱく質の栄養:たんぱく質の消化吸収、体内動態
第 8 回	ビタミンの栄養:ビタミンの種類、生理作用
第 9 回	ミネラルの栄養:ミネラルの種類、生理作用
第10回	健康と栄養:日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド
第11回	健康と栄養:生活習慣病
第12回	健康と栄養:生活習慣病改善のための食事
第13回	健康と栄養:その他の疾患(鉄欠乏性貧血、疲労骨折、骨粗鬆症、摂食障害)
第14回	健康と栄養:健康とサプリメント摂取
第15回・AL	健康と栄養:健康のための献立作成

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	提出物（レポート）60% 毎回提出する授業内容小レポート 40%
教科書	坂元美子編著：初めて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ スポーツ・健康栄養学，化学同人 新食品成分表フーズサポーター付き，東京法令出版株式会社
参考文献	授業内で適宜紹介する
オフィスアワー	授業終了後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	授業開始までに前回の授業内容を見直しておくこと。 授業内容をわかりやすくノートにまとめておくこと
備考	わからないことがあれば積極的に質問してください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅰ (人体の構造と機能)	巽 圭太	講義	1年次 前期	必修	2	60	KSB11103

科目の概要

人体の構造とその機能を理解できるように、人体を構成する基本単位の細胞とその組み合わせの組織、及び人体各部位の構造と機能について教授する。この科目は、疾病時に起こる形態及び機能的な変化の状況を理解するための最も基礎となる医学で、大学での病態治療学・看護学、さらに卒業後の臨床でも、『解剖生理学』など教科書を熟読して復習し、理解を深められる力の礎を作る。

具体的には、各器官系の主要な器官の形態と機能を理解し、今後、疾病について学習するのに必要な「正常な人体の構造と働き」の基礎知識と、大学生から社会人まで必要な学習方法の習得を目指す。

到達目標

- ・教科書を熟読し、説明が何処に書いてあるかを説明出来る。
- ・主要な器官の名称、主な構造と機能を説明出来る。
- ・主要な器官の名称、主な構造と機能を説明出来るようになる学習方法を習得する。
- ・自己採点を正確に行い、得点率と度数分布図での自分の位置付けを説明出来る。
- ・大学生から社会人まで必要な学習方法を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	はじめに～医学を学ぶにあたって～
第2回・AL	解剖生理学を学ぶための基礎知識
第3回・AL	解剖生理学を学ぶための基礎知識
第4回・AL	消化器系
第5回・AL	消化器系
第6回・AL	消化器系
第7回・AL	呼吸器系・血液
第8回・AL	呼吸器系・血液
第9回・AL	呼吸器系・血液
第10回・AL	呼吸器系・血液
第11回・AL	循環器系
第12回・AL	循環器系
第13回・AL	循環器系
第14回・AL	泌尿器系
第15回・AL	泌尿器系
第16回・AL	内分泌系
第17回・AL	内分泌系
第18回・AL	内分泌系
第19回・AL	自律神経
第20回・AL	神経系
第21回・AL	神経系
第22回・AL	感覚器系
第23回・AL	骨格・筋系
第24回・AL	骨格・筋系
第25回・AL	【学外授業】解剖学実習見学
第26回・AL	体表からみた構造
第27回・AL	免疫系
第28回・AL	免疫系
第29回・AL	生殖器系
第30回・AL	生殖器系

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	講義内の確認テスト（40%）、定期試験（60%）の100評価得点満点。
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 『解剖生理学』坂井建雄 著（医学書院） 病気がみえる『vol.1 消化器』『vol.2 循環器』『vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』『vol.6 免疫・膠原病・感染症』『vol.7 脳・神経』（メディックメディア）、『看護師・看護学生のための レビューブック 2017』（メディックメディア）
参考文献	『得意になる解剖生理』美田 誠二（著）（照林社）、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井 建雄（著）、橋本 尚詞（著）（成美堂出版）、『新版 からだの地図帳』佐藤 達夫（監修）（講談社）
オフィスアワー	月曜日 12:30-13:00 615 研究室。不在時には、k-tatsumi【@】takara-univ.ac.jp にメールで連絡可能です。その際は、件名に学籍番号・氏名書き、本文に用件を簡潔に書いて下さい。（送信時はE-mail アドレスから【】記号を除くこと）
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	教科書での予習。 講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする。30分 講義・テストの復習。 用語を当日、翌日、1週間後に見直す。60分
備考	・看護学は人類の健康・幸福に貢献できる素晴らしい分野であるが、その前提として、医学・医療に関する基礎的な理解は不可欠である。したがって看護師を目指す皆様には、日々のたゆまぬ勉学の積み重ねが必要であり真剣に取り組んでほしい。 ・水曜日の「ヒトの体のしくみと医療Ⅰ」（宝塚キャンパス）は、DVD映像を多用した教養科目である。本科目と密接に関連し、看護学部生に対しては特別開講科目である。特に、DVD映像の供覧希望者や、本科目だけでは人体構造がイメージ困難と思う学生は、是非、選択・聴講して理解を深めて下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅱ (人体の機能と生理)	山口 三郎	講義	1 年次 後期	必修	1	30	KSB11104

科目の概要

人体の構造とその機能を理解し、疾病時に起こる形態及び機能的な変化を理解するために、人体を構成する基本単位の細胞と組織及び人体各臓器の構造と機能について教授する。具体的には、植物性機能、すなわち、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系および生殖器系の機能ならびに動物性機能、すなわち神経系の機能を学習する。

到達目標

看護に必要とされる人体の構造とその機能を身につける。具体的には、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系および生殖器系の機能ならびに神経系の機能の基本について理解を深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	人体の構造と機能を学ぶために
第2回	基礎知識(その1)
第3回	基礎知識(その2)
第4回	消化と吸収
第5回	呼吸
第6回	血液
第7回	循環とその調節(その1)
第8回	循環とその調節(その2)
第9回	体液の調節と尿の生成
第10回	内臓機能の調節(その1)
第11回	内臓機能の調節(その2)
第12回	情報の受容と処理(その1)
第13回	情報の受容と処理(その2)
第14回	からだの支持と運動、外部環境からの防御
第15回	生殖・発生と老化

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	提出物 (20%)・ペーパーテスト (80%)
教科書	『解剖生理学』 坂井建雄・岡田隆夫 著 (医学書院)
参考文献	『標準生理学』 (医学書院)
オフィスアワー	出校日の授業の前後 (各 30 分)
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義予定の部分の教科書を読む 講義資料の確認問題をやる
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅰ (総論と主な疾患)	高原 史郎	講義	1 年次 後期	必修	1	30	KSB11105

科目の概要

治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、実地に不可欠な器官別での疾患について教授し、疾患の成り立ちやその病理・病態像について、正しく認識することを目的とする。人体が単なる諸器官の集合体ではなく規律ある融合体であることを認識し、疾病における治療看護のあり方を把握するように展開する。総論では、病理学で用いられている医学用語の学修を基盤として、横断的な病態病理の理解を進める。さらに各論として、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系などの主な疾病を学び、その発生のメカニズムや予後を理解することによって看護学の基盤的智識を習得せしめることを目的とする。

到達目標

レジメ内容及び教科書の内容の理解とゼミナール問題に正しく解答できること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	総論1(先天異常、代謝障害・細胞障害、循環障害、内因外因、再生と修復)(雨宮 浩)
第2回	総論2(腫瘍、炎症、移植、老化と個体死)
第3回	総論3(日本の3大死因)
第4回	循環器系疾患1(心疾患)
第5回	循環器系疾患2(血管系疾患)呼吸器系疾患1(喘息・腫瘍)
第6回	中間テスト
第7回	消化器系疾患1(消化管疾患)
第8回	消化器系疾患2(消化器臓器疾患)
第9回	呼吸器系疾患1(喘息・腫瘍)感染症など)
第10回	呼吸器系疾患2(喘息・腫瘍)感染症など)
第11回	ホルモン依存性疾患、内分泌系疾患
第12回	造血器系疾患、感覚器系疾患
第13回	腎・泌尿器系疾患・生殖器系疾患性
第14回	脳・神経系疾患
第15回	運動器系疾患(骨、筋)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート、小テスト及び定期試験での得点成績で評価する。
教科書	『系統看護学講座(専門基礎分野)病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進② 田中越郎著(医学書院)
参考文献	『カラーで学べる病理学』渡辺照男編(ヌーヴェルヒロカワ) 『解明 病理学』青笹克之編(医師薬出版)
オフィスアワー	授業日の講義前10分～講義終了30分後まで
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	教科書及びレジメを2回予習(2時間) 教科書、レジメ及びテストの復習(1時間)
備考	特になし

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生化学	堀家なな緒	講義	1 年次 後期	必修	1	30	KSB11107

科目の概要

生化学（Biochemistry）は生命現象に関わる理を化学的に追究する学問である。生体を構成している化学物質と、それを維持している代謝調節の化学反応を分子レベルで学び、様々な生命現象と病態のしくみについて概観する。講義の前半では、生体物質の化学構造とその性質、機能、五大栄養素、遺伝子の発現調節機構を学ぶ。後半では、ホルモンとシグナル伝達、代謝（合成・分解）の調節を学ぶと共に、これらの制御機構の破綻がもたらす疾患の発症機序の理解を目指す。

到達目標

五大栄養素を中心とした生体を構成、調節する物質の基本構造と性質を知る。栄養素は、酵素及びホルモンによって代謝され、エネルギーを獲得する。この代謝系全体がどのように整理・統合されているのかを理解する。生体内の生命現象に対する幅広い視野を習得することで、化学的判断力を身に付け、今後、各種の疾患をより深く理解するための基礎知識を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	生化学を学ぶための基礎知識
第 2 回	糖質
第 3 回	脂質
第 4 回	タンパク質とアミノ酸
第 5 回	ビタミンと補酵素
第 6 回	水と無機質
第 7 回	核酸と遺伝子発現調節
第 8 回・AL	五大栄養素の特徴と働き グループワークの実施
第 9 回	中間試験とまとめ(復習)
第10回	酵素
第11回	ホルモンとシグナル伝達
第12回	糖質代謝
第13回	脂質代謝
第14回	タンパク質代謝
第15回・AL	三大栄養素の代謝の調節機構 グループワークの実施

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	アクティブラーニングの評価（20%）・中間試験（40%）・定期試験（40%）
教科書	『系統看護学 人体の構造と機能[2] 生化学』 三輪 一智／中 恵一 著（医学書院）
参考文献	シンプル生化学 林典夫／廣野治子 編集（南江堂） イラストでまなぶ生化学 前場良太 著（医学書院）
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習（教科書の授業範囲をよく読む。60 分） 事後学習（授業時の配布資料を教科書に沿って確認、要点を理解し、復習テストで知識を定着させる。90 分）
備考	生化学の学習は、化学反応の羅列や丸暗記ではなく、包括的な理解が重要です。授業では、理解度を上げるために、概念を視覚化して馴染みやすいように努めます。積極的に授業に出席し、多角的な視野から統合的なイメージを育んでください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	入江 章子	講義	1 年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

感染症の原因となる細菌やウイルスなどの病原微生物の性質、それに対する生体の感染防御機構、感染症の検査法と治療、予防、対策などを学習する。さらに治療行為によっておこる院内感染や耐性菌の出現、感染予防に役立つワクチンの役割などの理解を深める。

到達目標

- ・感染症の原因となる微生物（細菌、ウイルス、真菌など）の性質と感染症を理解する。
- ・感染症に関する当事者である微生物ともう一方の当事者である宿主の係わり合いとしての感染症を理解する。
- ・感染症を予防し、コントロールするための手段などの知識を習得し、感染症を総合的にとらえる力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	ガイダンスと科目の全体像
第2回	微生物学の基礎 1
第3回	微生物学の基礎 2
第4回	感染とその防御 1
第5回	感染とその防御 2
第6回	感染源・感染経路からみた感染症
第7回	感染症の予防
第8回	感染症の診断・治療
第9回	細菌感染症 1、中間試験
第10回	細菌感染症2、真菌・原虫感染症
第11回	ウイルス感染症 1
第12回	ウイルス感染症 2
第13回	感染症の現状
第14回	感染症の対策
第15回・AL	感染症を防ぐには？

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	課題 30% 中間試験と定期試験 70%
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 「微生物学」疾病のなりたちと回復の促進④ 南嶋洋一、吉田真一（医学書院）
参考文献	なし
オフィスアワー	授業終了後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：教科書の授業範囲を読む。 事後学習：教科書、授業時の内容、配布資料を参考に要点を整理する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
情報処理 I (入門編)	林 勇気	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	30	KSB11201

科目の概要

情報処理の基礎知識として、コンピュータによる文章作成、表計算の方法、情報の検索・活用方法を実際に演習する。ソフトウェアやネットワークを利用する上でのマナーや倫理について説明する。社会における情報の価値、コンピュータの概念、情報インフラなどに関して事例に基づく講義を行うとともに、文章作成ソフト（Word）や表計算ソフト（Excel）、メールの使用方法、インターネット・等の媒体から情報を入手する技術を教授する。

到達目標

- ・社会生活における情報の基礎知識を習得する
- ・コンピュータと Word、Excel の基本的な使用方法を習得する
- ・インターネットでの情報収集やマナーを習得する

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	コンピュータの使用方法と概念についてその1・Word データ入力の基礎
第 2 回	コンピュータの使用方法と概念についてその2・Word データ入力の応用
第 3 回	コンピュータの使用方法の応用その1・Wordの基礎 文章のレイアウト
第 4 回	コンピュータの使用方法の応用その2・Wordの基礎 表の操作
第 5 回	ネットワークのマナーその1 倫理・Wordの基礎 オートシェイプ
第 6 回	ネットワークのマナーその2法・Wordの基礎 アプリケーションとの連携
第 7 回	メディアリテラシー・Excel データ入力の基礎
第 8 回	マルチメディアとは・Excel データ入力の応用
第 9 回	情報セキュリティその1・Excelの基礎 表のレイアウト
第10回	情報セキュリティその2・Excelの基礎 数式の計算 その1 グラフの作成
第11回	情報セキュリティその3・Excel の基礎 数式の掲載 その2 データベースの管理
第12回	情報セキュリティその4・Power Pointの基礎 スライド作成の基礎
第13回	情報とモバイル・Power Pointの基礎 スライドをデザインする
第14回	情報と社会の関係・Power Pointの応用 画像処理ソフトと組み合わせる
第15回・AL	情報社会と心・Power Point スライドショーを作成する

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 50% 提出物 50%
教科書	イチからしっかり学ぶ Office 基礎と情報モラル office2013・2010 対応
参考文献	なし
オフィスアワー	授業日の授業終了後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	前回の講義の内容を習得しておくこと 講義終了時に課題を出すので復習しておく事
備考	授業を欠席するとコンピューターやアプリケーションの操作がわからなくなることが多いです。欠席はしないようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅱ (応用編)	吉田 浩	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	30	KSB13201

科目の概要

情報処理Ⅰで習得した知識・技術を基に、「Power Point」を活用したプレゼンテーションを通じて、プレゼンターと聴衆がコミュニケーションを十分に取れるような”プレゼン”としてのメッセージを伝える方法論を学びます。

到達目標

- ・ブレインストーミングから伝えるべき情報を整理し、まとめる力が身につく。
- ・プレゼンテーションに必要なスライド制作をシンプルかつ大胆に行えるようになる。
- ・聴衆との十分なコミュニケーションのとれたプレゼンテーションが行えるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション(授業の進め方とプレゼンテーションの基礎概説)
第 2 回・AL	プレゼンテーションの準備(アイデアを提案する)(ブレインストーミング)
第 3 回・AL	プレゼンテーションの準備(独創的なアイデアとは)(ブレインストーミング)
第 4 回・AL	プレゼンテーションの準備(中心となるメッセージ)(ブレインストーミング)
第 5 回	プレゼンテーションの準備(意味のあるプレゼン)
第 6 回	プレゼンテーションの資料制作(物語の演出)
第 7 回	プレゼンテーションの資料制作(意思を伝える方法)
第 8 回	プレゼンテーションの資料制作(スライドデザイン＝デザインとデコレーション)
第 9 回	プレゼンテーションの資料制作(スライドデザイン＝引用句と余白)
第10回	プレゼンテーションの資料制作(スライドデザイン＝バランスと3分割法)
第11回	プレゼンテーションの資料制作(スライドデザイン＝コントラスト・反復)
第12回・AL	プレゼンテーションの実践(ミニプレゼンの実施)(プレゼンテーション)
第13回	ミニプレゼンの講評と修正(内容と資料)
第14回・AL	最終プレゼンテーションその1(プレゼンテーション)
第15回・AL	最終プレゼンテーションその2と総評(プレゼンテーション)

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	プレゼンテーション評価(発表内容 70%、資料制作 30%)
教 科 書	特になし。
参 考 文 献	必要に応じて授業内で紹介します。
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後 30 分
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	スライドデザインに必要な資料収集。 スライドデザインのブラッシュアップ。
備 考	プレゼンテーションに対する真摯な態度を望みます。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	中村 貞夫	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSB21101

科目の概要

芸術と看護には大きな共通点があります。芸術は人々の心を癒し、看護は心と身体を癒します。この授業では学生一人一人と対話しながら、「癒しと芸術」について考えていきます。画家の私は体験、体感を重視し、ナビゲーターとしてアートの内側に学生を誘い、アートの世界では正解は一つでないこと、芸術に向かう心は万人に備わっていることを体感してもらい、看護の現場でのアートの力を身に付けていただきます。アンケートを度々行って、インタラクティブな授業を行います。

到達目標

講義と実習によって、自分の中のアーティストとしての資質に目覚める。
偉人の言葉に触れる。明暗のグラデーションを学ぶ。色彩感覚を磨く。遠近表現の基礎を学ぶ。人物、静物、風景画を学ぶ。
音楽を絵画で表現する。
柔らかな感性、人としての優しさが看護の中で活かされることを目標にする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画		
第 1 回	癒しと芸術の関連について	感動体験（アンケート）	実習 1
第 2 回	〃	「見る」と「看る」	実習 2
第 3 回	〃	「見る」と考える	実習 3
第 4 回	〃	聴くことについて	実習 4
第 5 回	看護における芸術の役割	美について	実習 5
第 6 回	〃	素直な筒	実習 6
第 7 回	〃	優しさについて	実習 7
第 8 回	感性を磨く	右と左（アンケート）	実習 8
第 9 回	〃	i(不確定、保留)について	実習 9
第10回	〃	補色の軸について(アンケート)	実習 10
第11回	〃	マザー・テレサ	実習 11
第12回	〃	ヘレン・ケラー	実習 12
第13回	〃	パブロ・ピカソ	実習 13
第14回	〃	ピエル・ボナール	実習 14
第15回	総論	自分探しの旅	実習 15
	授業の進行状況で順序が変わることがあります。		

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	実習作品の採点（70％）成長度（30％）
教科書	なし
参考文献	『「待つ」ということ』 鷲田清一（角川書店） 『「聴く」ことのちから—臨床哲学試論』 鷲田清一（阪急コミュニケーションズ）
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	美術展鑑賞、レポートの作成が行われることがあります。
備考	指定のスケッチブック使用。鉛筆 4B, 2B HB。色鉛筆、カラーペン等、着色材料を各自で用意。初回に「自画像」のため手鏡を持参してください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅱ (内科系)	巽 圭太	講義	1年次後期・ 2年次前期	必修	2	60	KSB11106

科目の概要

看護において知っておかなければならない代表的な内科疾患について、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、治療法、予後などについて教授する。この科目は、疾病時に起こる形態及び機能的な変化の状況を理解する臨床医学で、大学での看護学、さらに卒業後の臨床でも、『呼吸器』を初めとする器官系の教科書を熟読して復習し、理解を深められる力の礎を作る。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を習得するのではなく、今後、学内演習、臨床実習、さらには卒後社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”の習得を目指す。

到達目標

- ・教科書を音読できるようになり、医学の自学自習が出来るようになる。
- ・教科書を熟読し、どの疾患について何処にどのようなことが書いてあるかを説明出来る。
- ・各器官系について、おのおの代表的な疾患概念を10疾患以上説明することが出来る。
- ・特に重要な疾患については、主な症状、検査所見、診断の基準、治療方法について1分以上説明することが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	はじめに～内科学を学ぶにあたって～
第2回・AL	呼吸器疾患
第3回・AL	呼吸器疾患
第4回・AL	呼吸器疾患
第5回・AL	確認テスト
第6回・AL	循環器疾患
第7回・AL	循環器疾患
第8回・AL	循環器疾患
第9回・AL	消化管疾患
第10回・AL	消化管疾患
第11回・AL	消化管疾患
第12回・AL	確認テスト
第13回・AL	肝疾患/検査値の見方
第14回・AL	胆道・膵臓・脾臓・腹膜疾患
第15回・AL	胆道・膵臓・脾臓・腹膜疾患
第16回・AL	内分泌疾患
第17回・AL	内分泌疾患
第18回・AL	代謝疾患
第19回・AL	代謝疾患
第20回・AL	確認テスト
第21回・AL	腎疾患
第22回・AL	腎疾患
第23回・AL	脳・神経疾患
第24回・AL	脳・神経疾患
第25回・AL	脳・神経疾患
第26回・AL	アレルギー疾患、膠原病
第27回・AL	アレルギー疾患、膠原病
第28回・AL	確認テスト
第29回・AL	血液疾患
第30回・AL	血液疾患

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	講義内の確認テスト (25%)、中間後期定期試験 (25%)、総括前期定期試験 (50%) の100評価得点満点。
教科書	後期購入：系統看護学講座『呼吸器』、『循環器』、『消化器』(医学書院) 『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー) 前期購入：系統看護学講座『血液・造血器』、『内分泌・代謝』、『脳・神経』、『腎・泌尿器』(医学書院) 既購入：病気がみえる『vol.1 消化器』『vol.2 循環器』『vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』『vol.6 免疫・膠原病・感染症』『vol.7 脳・神経』(メディックメディア)、『看護師・看護学生のための レビューブック2017』(メディックメディア)
参考文献	『解剖生理学』、『病態生理学』(医学書院) 『わかりやすい内科学 (第4版)』井村 裕夫(編集主幹)(文光堂) 病気がみえる『vol.4 呼吸器』『vol.5 血液』『vol.8 腎・泌尿器』(メディックメディア)
オフィスアワー	月曜日 12:30-13:00 615 研究室。不在時には、k-tatsumi【@】takara-univ.ac.jp にメールで連絡可能です。その際は、件名に学籍番号・氏名書き、本文に用件を簡潔に書いて下さい。(送信時はE-mailアドレスから【】記号を除くこと)
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	教科書での予習。 講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする。30分 講義・テストの復習。 用語を当日、翌日、1週間後に見直す。60分
備考	・水曜日の「ヒトの体のしくみと医療Ⅱ」(宝塚キャンパス)は、DVD映像を多用した教養科目である。本科目と関連し、看護学部生に対しては特別開講科目である。特に、DVD映像の供覧希望者や、本科目だけでは疾患概念・医療がイメージ困難と思う学生は、是非、選択・聴講して理解を深めて下さい。・以上は2016年度後期開始分。 2015年度後期開始2016年度前期終了分は2015年度のシラバスを参照のこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
病態治療学Ⅲ (外科系)	高原 史郎	講義	2 年次 前期	必修	1	30	KSB21102

科目の概要

外科各科に共通する臨床看護学に必要な知識と技術、考え方や理念を教授する。特に外科看護の総論に力点をおく。また各論では病態治療学Ⅰ（病理学）での教授内容を基盤として、外科治療の対象となる疾患とその外科的治療法について教授する。総論として、外科医療に特異的な看護の基礎を理解し、周手術期・手術前・手術中・手術後の患者に対する看護、ICUにおける看護について、知識と技術、考え方を学ぶ。各論として、頭部、胸部、腹部、四肢、小児、に関する外科的疾患及び臓器移植について病態治療学Ⅰ（病理学）での学習した基礎知識の応用として教授する。小児看護学、成人看護学との補完性に留意して教示する。

到達目標

レジメ内容及び教科書の内容の理解とゼミナール問題に正しく解答できること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	滅菌法および消毒法
第2回	手術室の構造と機能、手術室業務(手洗い、手術介助、機械だし)
第3回	外科治療上注意すべき術前の合併疾患(感染症、循環器疾患、呼吸器疾患、肝硬変、慢性腎不全、糖尿病、肥満、免疫不全、精神障害)
第4回	術後合併症1(中枢神経系合併症、循環器系合併症)
第5回	術後合併症2(呼吸器系合併症、消化器系合併症、術後感染症、多臓器不全)
第6回	輸液、輸血、栄養
第7回	麻酔
第8回	中間試験(第1-7回授業分)及び解説
第9回	腹部疾患1(消化管癌、急性腹症)
第10回	腹部疾患2(肝胆臓)
第11回	鏡視下手術
第12回	頭部疾患(外傷、脳出血、脳梗塞)
第13回	胸部疾患(乳癌、心筋梗塞、肺癌、気胸)
第14回	小児外科(小児外科の特徴と術前術後管理)、老人外科(高齢者患者の特徴と術前術後管理)
第15回	臓器移植

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート、小テスト及び定期試験での得点成績で評価する。
教科書	ナースの外科学(改定6版) 編者 磯野可一 中外医学社 ISBN978-4-498-07576-4 2010年3月25日出版
参考文献	外科系実践的看護マニュアル 川崎みどり他 看護の科学社 ISBN978-4-87804-030-6
オフィスアワー	授業日の講義前10分～講義終了30分後まで
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	教科書及びレジメを2回予習(2時間) 教科書、レジメ及びテストの復習(1時間)
備考	特になし

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
薬理学	内海 美保	講義	2 年次 前期	必修	1	30	KSB21103

科目の概要

この授業では、臨床現場での安全かつ効果的な薬物療法の実施のために、薬が作用するしくみや生体への影響を学ぶ。また、一般的な薬理学の知識以外にも、薬の特徴（体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）や製剤学的特徴、薬物相互作用、副作用、使用上の注意）など、薬物療法に関する幅広い視点から薬の知識を身につける。第1～2回目の総論では、薬の基本を概説し、第3回目以降の各論では、臨床で汎用される医薬品を取り上げ、その薬理作用と副作用を、疾患を踏まえて教授する。

到達目標

- ・薬が作用するしくみや生体への影響について説明できる。
- ・臨床で汎用される医薬品の特徴（体内動態、製剤学的特徴等）について説明できる。
- ・薬物療法時の看護のポイントを列挙できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	薬理学総論 I
第2回	薬理学総論 II
第3回	抗感染症薬 I
第4回	抗感染症薬 II
第5回	抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬
第6回	末梢神経系に作用する薬物
第7回	中枢神経系に作用する薬物 I
第8回	中枢神経系に作用する薬物 II
第9回	心臓・血管系に作用する薬物 I
第10回	心臓・血管系に作用する薬物 II
第11回	血液に作用する薬物
第12回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第13回	物質代謝に作用する薬物
第14回	皮膚科用薬・眼科用薬、消毒薬
第15回	救急の際に使用される薬物、輸液剤・輸血剤

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験の成績により評価する。
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学』吉岡 充弘／泉剛／井関 健 編著（医学書院）
参考文献	『NEW 薬理学』田中 千賀子／加藤 隆一 編著（南江堂）
オフィスアワー	具体的な日程が決まりしだいお知らせします。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	授業内容は広範囲に及ぶため、1 回の講義に対して、最低 1 時間の復習をされることをお勧めします。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
疫学	日高 庸晴	講義	2 年次 後期	必修	2	30	KSB21104

科目の概要

疫学の歴史的発展と疫学の主要目的のひとつである疾病のリスク因子の同定、分布と発生頻度の測定、自然経過と予後の把握、保健医療および環境（衛生）政策の評価方法、予防と治療などその具体的な内容の基礎知識、またその前提となる研究デザインをはじめとした疫学的方法論の教示を行う。また、国内外の健康課題についてグローバルヘルスの視点から講義を行う。

到達目標

「いつ・どこで・だれが」といった基本的な考え方を身に付け、疾病や健康問題を集団的な現象として量的に把握するための方法論と、現代の健康問題の解決の一方法としての疫学的方法論を学び、習得することを目標とする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション、疫学の歴史と定義
第 2 回	疫学の基礎的な考え方:因果関係や疾病・診断の定義
第 3 回・AL	疫学調査1:研究デザイン、データのバイアス、妥当性と信頼性+ALワーク
第 4 回・AL	疫学調査2:研究倫理、質問紙調査方法1+ALワーク
第 5 回・AL	疫学調査3:質問紙調査方法2+ALワーク
第 6 回	スクリーニングと予防・慢性疾患の疫学
第 7 回	臨床疫学
第 8 回	感染症疫学1:主な感染症、要因、流行、予防
第 9 回	感染症疫学2:注目される新興・再興感染症、関連法規
第10回・AL	行動疫学+ALコメントシート
第11回	我が国の公衆衛生の歴史
第12回・AL	差別と疾病ーハンセン病の歴史+ALコメントシート
第13回	環境疫学・産業疫学
第14回・AL	国際保健学(アフリカでの疫学研究の実際)+ALコメントシート
第15回	疾病別の疫学動向

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	定期試験によって評価する。
教 科 書	標準保健師講座別巻 2 疫学・保健統計学（医学書院）
参 考 文 献	適宜紹介します。
オ フィ ス ア ワ ー	水曜日 12:30～13:30
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	第1回オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと。 随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること。
備 考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
福祉情報技術	宮阪 信次	講義・演習	2年次 前期	選択	2	30	KSB23201

科目の概要

電子・情報技術の進歩によって私達の生活は便利で豊かになり、新しい福祉社会を実現しようとする試みが始まった。本講義では、看護をされる側、する側が容易に情報の共有ができるネットワークや障害者・高齢者に使いやすい福祉機器・システムの特質などの現状、将来を講義する。

到達目標

情報機器のアクセシビリティ、WEBアクセシビリティ、コミュニケーション支援、環境制御装置など、主にコミュニケーション支援に関する福祉情報技術の理論と実践を学ぶ。ピアカウンセリングのグループ実習、肢体不自由者用ソフトを用いた疑似体験も行う

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション「福祉と情報処理技術」
第2回	障害者・高齢者とは
第3回	障害者・高齢者とは(2)
第4回・AL	障害の疑似体験と共感的理解 疑似体験(障害共感)
第5回	心身の機能とその障害 調査結果プレゼンテーション(健康寿命と平均寿命)
第6回・AL	ピアカウンセリングの説明 グループ課題(ロールプレイ実習)
第7回・AL	ピアカウンセリング発表会と相互討議
第8回	障害者・高齢者が使いやすいヒューマンインターフェースとは
第9回	障害者・高齢者の可能性を拓けるコンピュータ
第10回	情報機器のアクセシビリティ(1)
第11回	情報機器のアクセシビリティ(2)
第12回・AL	肢体不自由者用ソフト「オペナビ」体験 グループ体験(ソフトを用いた体験実習)
第13回・AL	体験実習発表会と相互討議
第14回・AL	グループ別調査課題の発表会
第15回	まとめおよび日本・海外の教育・福祉制度

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	グループ課題 (30%)、提出物 (50%)、授業中の課題 (20%)
教科書	「福祉と情報技術」、市川 薫ほか、オーム社
参考文献	「イラストで学ぶ看護人間工学」、小川鑛一、オーム社
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義時に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと 講義中に出す課題について個人ホルダーに作成すること
備考	講義・実習が後の講義・実習に大きく影響するので欠席がないようしてください POWERPOINT は講義・実習で不可欠なツールであるので基本機能をマスターしておいてください

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
カウンセリング	増田 千景	講義	2年次 前期	選択	1	30	KSB23102

科目の概要

看護師・保健師として対象者に日常的に接する中で、いかに対象者の心理的状态を把握し、効果的なケアに結びつけられたいのかについて、カウンセリングの理論や技法から考える。様々な精神疾患や心理療法の基礎理論を紹介し、実践的に取り組み学ぶ。

到達目標

- ・気分障害・神経症性障害・統合失調症といった精神疾患の概要と援助方法が説明できる。
- ・行動療法、精神分析的心理学の基礎理論と技法を日常の中に見られる諸現象と関連づけて説明できる。
- ・さまざまな心理テストに取り組むと共に、アセスメントの注意点について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	「こころ」って何だろう？(ミニレポート)
第2回	気分障害とその援助①
第3回・AL	気分障害とその援助②(ミニレポート)
第4回・AL	神経症性障害とその援助(ミニレポート)
第5回・AL	ストレス理論とバーンアウト(作業学習、グループ討論)
第6回	映画から学ぶ統合失調症(前編)
第7回	映画から学ぶ統合失調症(後編)
第8回	統合失調症とその援助(ミニレポート)
第9回・AL	心理アセスメントの基礎知識①:質問紙法(作業学習、グループ討論)
第10回・AL	心理アセスメントの基礎知識②:投影法(作業学習、グループ討論)
第11回	学習理論と行動療法①
第12回	学習理論と行動療法②
第13回・AL	学習理論と行動療法③(ミニレポート)
第14回	精神分析的心理学(ミニレポート)
第15回	全体のまとめと復習

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	授業内ミニレポート：30%、中間レポート2回：20%、学期末試験：50%
教科書	『看護学生のための心理学』長田久雄 編集（医学書院）
参考文献	講義内に適宜紹介する。
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：講義時に使用するテキストのページ、参考文献を次回講義までに読んでおくこと。 事後学習：講義時に配布したレジュメを参考にしてノートにまとめる。
備考	発表等、主体的に講義に取り組むことを期待します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
社会保障と福祉	長谷川章子	講義	2年次後期	必修	2	30	KSB21105

科目の概要

現代社会における社会保障について、その発達の歴史、理念と意義、社会保障の体系、社会保障各制度の概要、民間保険の概要と公的施策との関係等を学び、医療専門職として理解しておくべき社会保障の基本的知識を習得させる。
また、ライフサイクルを基礎とし、人々の生活に社会保障がどのように関わり、支えているかを学ぶ。

到達目標

- ・医療従事者として理解しておかなければならない社会保障を理解する。
- ・グループワークを通して、社会保障をより身近なものとして考える。
- ・社会保障を通して、「人を援助する」ことを学ぶ。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	社会保障の概念および理念 ―― 社会保障とは ――
第2回	出生～乳児期の社会保障 ―― 出産費用・出産保障等 ――
第3回	幼児期の社会保障 ―― 保健所の役割、保育所の役割等 ――
第4回	児童期の社会保障 ―― 小学校、中学校、学童保育等 ――
第5回・AL	出生～児童期までの社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループワークを行う。
第6回	青年期前期の社会保障 ―― 高校、大学、専門学校、アルバイト等 ――
第7回	青年期後期の社会保障 ―― 就労等 ――
第8回・AL	青年期の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループワークを行う。
第9回	成人期前期の社会保障 ―― 結婚、出産等 ――
第10回	成人期後期の社会保障 ―― 子育て等 ――
第11回	高齢期の社会保障 ―― 定年、介護等 ――
第12回・AL	成人期以降の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループワークを行う。
第13回・AL	医療保障の概要 ―― 医療保障とは・医療保障の種類 ――
第14回・AL	年金制度の概要 ―― 公的年金とは・民間年金とは ――
第15回・AL	年金制度の概要 ―― 障害年金・遺族年金・老齢年金 ――

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート提出（AL）50％ 期末試験（筆記）50％
教科書	なし
参考文献	『はじめての社会保障』 椋野美智子・田中耕太郎著 有斐閣アルマ
オフィスアワー	出講日の授業後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	ライフサイクルについて事前に流れを理解しておくこと。 グループワークの討議に備えて、各講義の内容を復習し、十分に理解すること。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
医療と情報 (保健統計)	日高 庸晴	講義・演習	3年次 前期	必修	2	30	KSB31201

科目の概要

医療従事者は常に先端の医療知識を身につける必要があり、さらに情報開示やインフォームド・コンセントの形成に対する強い社会的要請、密接な情報交換に基づく信頼形成等も求められている。これらに対応すべく現代の医療と情報について学ぶ。具体的にはEBMという現代医療における情報活用方法、プライバシー保護や医療情報システムの概要を学ぶ。さらに医療情報や公の統計情報のなどの医療情報を獲得する技術を身につけるために、国民衛生の動向や医学中央雑誌、PubMedなど情報リソースを活用した情報収集とその整理・分析方法を理解し、収集したデータの集計およびプレゼンテーション方法をも身につけることを目標とする。

到達目標

情報をアクティブに収集していくことの重要性とその技術を身に付けること、その過程で情報にはクオリティがあることを知り、その善し悪しを見分けたうえで活用していく能力を磨き、その技術を習得することを目指す。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーションー現代社会における公衆衛生上の課題
第2回	EBMの理念
第3回	患者中心の医療のための情報化と医療現場における情報システム
第4回・AL	保健衛生に関する統計資料(1)+ALコメントシート
第5回・AL	保健衛生に関する統計資料(2)+ALコメントシート
第6回・AL	保健衛生に関する統計資料(3)+ALコメントシート
第7回	保健衛生に関する統計資料(4)+ALコメントシート
第8回	医学研究における倫理と患者対象調査
第9回・AL	医療情報の検索方法(1)+AL(検索演習)
第10回・AL	医療情報の検索方法(2)+AL(検索演習)
第11回・AL	医療情報の検索演習+AL(検索演習)
第12回・AL	医療情報の検索演習+AL(検索演習)
第13回・AL	プレゼンテーション
第14回・AL	プレゼンテーション
第15回	労働者の職場環境や職業性ストレスとワークライフバランス

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験によって評価する。
教科書	特に指定なし。
参考文献	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	第1回オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと。 随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島 隆志	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSB33101

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。その大きな要因が「経済」である。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。バブル崩壊、リーマンショック、企業の倒産、失業率の増加、少子化・高齢化の促進等がその要因となっている。本講義により、医療と経済の関係を理解し、効果的・効率的なケアを保証する看護の必要性を理解する。

到達目標

- ・経済学の基本を理解する。
- ・経済に関わる統計を医療・看護の視点で読めるようになる。
- ・医療と経済の関わりを理解する

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	経済学の基礎①
第2回	経済学の基礎②
第3回	経済学で扱う統計データ
第4回・AL	人口動態と医療・看護の関係(ワークショップ)
第5回・AL	出生・死亡の動向と医療・看護の関係(ワークショップ)
第6回・AL	高齢者の生活状況と医療・看護の関係(ワークショップ)
第7回・AL	労働と医療・看護の関係(ワークショップ)
第8回・AL	医療従事者数、医療施設数と医療・看護に期待されること(ワークショップ)
第9回・AL	介護保険と医療・看護の関係(ワークショップ)
第10回・AL	福祉従事者、福祉施設と医療・看護の関係(ワークショップ)
第11回・AL	国民医療費の推移と医療・看護の関係(ワークショップ)
第12回・AL	年金と医療・看護の関係(ワークショップ)
第13回・AL	保険師、保健所と医療・看護の関係(ワークショップ)
第14回	財務諸表の基礎
第15回	医療と経済のまとめ(ワークショップ)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末テスト（70％）、課題［小レポート、小テスト、コメントカードなど］（30％）
教科書	配布資料
参考文献	看護管理学習テキスト（2刷）第6巻「看護経営・経済論」2015 日本看護協会出版会 「看護管理のベースとなる統計データの読み方」2015 日本看護協会出版会
オフィスアワー	講義前、講義後の時間で設定。事前予約をお願いします。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：事業計画の確認と専門用語の下調べ（90分） 事後学習：レジュメおよびワークショップについて復習する（90分）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
生涯教育論	伊佐 夏実	講義	2 年次 後期	選択	2	30	KSB23101

科目の概要

これからの社会での生涯教育（生涯学習）とは何か、生涯教育の理念や意義、役割について学び、今後の生涯教育の在り方についての理解を深めるための内容を講義する。また、ワークショップやグループワークを通して、参加型の学習方法についても体験することで学んでいく。

到達目標

- ・現代社会における生涯教育についての理解を深める
- ・これからの生涯学習社会の中で自己の生涯学習に取り組むスキルや方法を身につける
- ・社会教育の専門的職員として活動するための基礎的な能力を身につける

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション 生涯にわたる人間形成
第2回・AL	生涯教育の理念と思想〔グループワーク:AL〕
第3回・AL	生涯学習と学校教育〔グループワーク:AL〕
第4回・AL	生涯学習と社会教育・家庭教育〔グループワーク:AL〕
第5回・AL	生涯学習の多様な学習方法1 〔グループワーク:AL〕
第6回・AL	生涯学習の多様な学習方法2 〔グループワーク:AL〕
第7回・AL	生涯学習活動を支える社会教育施設の役割〔グループワーク:AL〕
第8回・AL	子どもを育てる地域コミュニティ〔グループワーク:AL〕
第9回・AL	南北問題やグローバルな課題への取り組み〔グループワーク:AL〕
第10回・AL	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割〔グループワーク:AL〕
第11回・AL	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割①〔グループワーク:AL〕
第12回・AL	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割②〔グループワーク:AL〕
第13回・AL	メディア・リテラシー①メディア・リテラシーの概念と今日的課題〔グループワーク:AL〕
第14回・AL	メディア・リテラシー②〔グループワーク:AL〕
第15回・AL	これからの生涯教育(生涯学習)を構想する〔グループワーク:AL〕

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（50%）、授業中に行うグループワークや小テスト等の課題（50%）
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。
参考文献	なし
オフィスアワー	適宜相談に応じます。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	毎時間グループワークを行いますので、テーマについて事前に調べてくること。 毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること。
備考	本講義は、造形芸術学部在籍し、博物館学芸員の資格取得を希望する学生対象の授業との複式で開講しますので、受講生の意欲的な参加を求めます。また、科目の性質上毎時間ワークショップを実施しますので、受講者数の上限を40名とし、予定を上回る場合は抽選を行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
運動と健康	今村ふみ子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSB33201

科目の概要

健康である為のからだとは？運動をすることによってからだはどう変化するのか？バランスの良い身体作りとは？日常生活でのちょっとした気付きや意識によってからだのこわばりを解消できる方法を学びます。

到達目標

骨格を理解し、正確に関節を動かせる技術の習得とピラティス・ヨガ・フットセラピーなどの実技方法の習得。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	骨格ワーク① 骨の役割と関節の機能(下半身)フットセラピー 関節筋周辺のほぐし キレイBODYワーク
第2回	骨格ワーク② 骨の役割と関節の機能(上半身)フットセラピー 肩関節周辺のほぐし キレイBODYワーク
第3回	骨格ワーク③ 頭蓋骨と顔面骨 フェイスリフトワーク キレイBODYワーク 顎関節と股関節のワーク
第4回	骨格ワーク④ 脊柱の役割と全身のつながり 関節ほぐし体操 ピラティスマットワーク
第5回	骨格ワーク⑤ ピラティスワークの必要性と全身のつながり フットセラピー キレイBODYワーク ピラティス
第6回	腹筋の役割 筋の種類と関節筋 ピラティスマットワーク フットセラピー
第7回	腹筋の役割 深呼吸と表層筋 ピラティスマットワーク フットセラピー
第8回	内臓と筋肉・骨格の関係 呼吸法(ヨガ)
第9回	筋コンディショニングとストレッチ eーストレッチ キレイBODY
第10回	筋コンディショニングとストレッチ バランスワーク・腹筋スクワット・プッシュアップ
第11回	ピラティス理論と実技
第12回	ヨガ理論と実技
第13回	フットセラピーの理論と実技
第14回	骨格ワークからだと心とつながるストレスフリーワークとは？
第15回	まとめ 実技試験

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	授業内での実技テスト
教科書	毎回プリント配布
参考文献	なし
オフィスアワー	授業終わったあとの15分
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	
備考	水分を補給しながらの実技なので水を用意してください。Gパン・スカートは×。動きやすい服装で。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅰ (概論)	峯岸由紀子	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSP11101

科目の概要

看護を構成する「健康」「環境」、看護の対象の「人間」の捉え方、看護の役割・機能である「看護活動」など、4年間の看護学の学習の基本となる概念を学ぶ。また、看護実践における倫理的な問題と、専門職業人としての看護職者の責務について学ぶ。

到達目標

- ・看護の役割と機能を説明できる。
- ・看護の対象である人間を、健康という側面から説明できる。
- ・専門職業人としての看護職者の責務について説明できる。
- ・看護職者に必要な倫理的態度について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	1) ガイダンス: 本看護学科のカリキュラムにおける看護学概論の位置づけ、学習の方法
第2回	2) 看護の本質①
第3回・AL	看護の本質② 看護の役割と機能①(看護ケアについて)
第4回	グループワーク「ナイチンゲールおよびヘンダーソンの看護」
第5回	看護の役割と機能②(看護実践とその質保障、看護の役割・機能の拡大)
第6回	看護の対象の理解(人間の心とからだ、生涯発達し続ける存在としての人間)
第7回	看護の提供者(職業としての看護、看護職の養成制度と就業状況、看護職者の教育とキャリア開発)
第8回・AL	健康のとらえかた(WHOの健康の定義、国際生活機能分類、継続看護)
第9回・AL	グループによる発表「看護における倫理」
第10回・AL	グループワーク「なぜ、倫理について学ぶのか」
第11回・AL	グループによる発表「看護の提供のしくみ」①(サービスとしての看護、看護サービスの提供の場、看護をめぐる制度と政策)
第12回・AL	グループによる発表「看護の提供のしくみ」②(看護サービスの管理、医療安全と医療の質保証)
第13回・AL	グループによる発表「広がる看護の活動領域」①(国際化と看護)
第14回・AL	グループによる発表「広がる看護の活動領域」②(災害時における看護)
第15回・AL	グループワーク「私はどのような看護の場で活動したいと思うか」
第16回・AL	個人による発表「私はどのような看護の場で活動したいと思うか」、まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験 50%、提出物 50% (小テスト、課題レポート、グループワーク提出物等を含む)
教科書	系統看護学講座『看護学概論』 茂野香おる (他) (医学書院) 『看護の基本となるもの』 V. ヘンダーソン著、湯愼ます・小玉香津子訳 (日本看護協会出版会) 『看護覚え書』 F. ナイチンゲール著、湯愼ます (他) 訳 (現代社)
参考文献	適宜紹介する
オフィスアワー	授業時に知らせる
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習: 教科書の指定された項目を読んでくること。グループによる発表については ppt を使用して発表できるように準備すること。個人への課題も必ずやってくること。 事後学習: 講義およびグループ発表された内容の理解と記憶をすること。
備考	入学前の各個人の経験による看護のイメージから、専門職業人としての看護へと、知識および態度の転換を図る。看護の活動分野が拡大していること、それにより看護職者にはより高度の能力が求められていることを理解し、自分の看護職者としての将来のビジョンを描き、それを目標として学修する態度を養う科目である。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション技術)	澤田 京子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

看護師は患者を中心としたチーム医療の中で、高いコミュニケーション能力が期待される。そのために患者や家族に対する良好なコミュニケーション能力を習得する必要がある。看護師の何気ない一言や態度で患者との信頼関係が崩壊するケースがある。本講義では、患者と良好なコミュニケーションをとるための基礎的知識について学習する。コミュニケーション技術は演習を通して学ぶ。

到達目標

- ・共感について説明できる。
- ・非言語コミュニケーションの重要性が説明できる。
- ・日常生活場面でのあいさつや敬語が使える。
- ・実習におけるコミュニケーションに必要な態度を述べることができる。
- ・コミュニケーション技法について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス コミュニケーションとは
第2回・AL	特別講義 「コミュニケーションとマナー」
第3回・AL	特別講義 「コミュニケーションとマナー」
第4回・AL	グループワークの方法
第5回・AL	トータルコミュニケーション(言語と準言語と非言語)
第6回・AL	準言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第7回・AL	事例のグループワーク 発表
第8回・AL	アサーティブ・コミュニケーション
第9回・AL	アクティブラスニング(「聞く」と「聴く」語調から聴く、表情から聴く、状況から聴く)
第10回・AL	共感(同情と共感、励ましと共感、共感の効果)
第11回・AL	コミュニケーション技法①(うなずきと相づち、繰り返し、明確化)
第12回・AL	プロセスレコード
第13回・AL	実習におけるコミュニケーション技術①
第14回・AL	実習におけるコミュニケーション技術②
第15回・AL	実習におけるコミュニケーション技術③

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	課題レポート 80% グループワーク参加度 20%
教科書	資料配布
参考文献	水島広子 「聴き方・話し方」のコツ 日本実業出版社, 竹内一郎 「やっぱり人は見た目が9割」新潮社
オフィスアワー	授業前後 30 分
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	自分の日常生活でのコミュニケーションを振り返る。 日常生活で挨拶や敬語が使えるように努力する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
基礎看護学Ⅲ (健康教育)	峯岸由紀子 澤田 京子 假谷ゆかり 大内 由梨	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21201

科目の概要

看護において最も重要なことは、対象が必要とする健康状態を維持し、自分らしく生活できるように援助することである。基礎看護学Ⅲでは、看護における教育的な関わりの必要性和意義を理解し、対象の特性（個人、家族、コミュニティー）に応じた健康教育を行うために必要な基礎的理論と展開技法について学習する。また、内容については演習を行い、対象の健康教育に必要な計画の立案・実施・評価ができるようにする。

到達目標

- ・看護師が行う健康教育の目的と意義を説明することができる。
- ・健康教育で活用される理論や技術を述べることができる。
- ・健康教育を企画・実施・評価することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	健康教育の定義と歴史の変遷
第2回	健康教育の目的・目標・対象・方法
第3回	健康教育に活用できる理論・モデル・技術
第4回	健康教育の展開方法①
第5回・AL	健康教育の実際～個人への指導(糖尿病)
第6回	健康教育の展開方法②
第7回・AL	健康教育の実際～個人への指導(高血圧)
第8回	健康教育の展開方法③
第9回・AL	健康教育の実際～個人への指導(COPD)
第10回・AL	健康教育の準備①～健康問題の明確化
第11回・AL	健康教育の準備②～目的・目標の設定
第12回・AL	健康教育の企画①～方法の検討と指導案の作成
第13回・AL	健康教育の企画②～教材の選択と工夫、実施準備
第14回・AL	健康教育の実施②
第15回・AL	健康教育の評価とまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験 60%、授業への参加度 40%で総合的に判断する。
教科書	授業資料を配布する。
参考文献	適宜講義内で紹介する。
オフィスアワー	随時相談に応じる。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	授業計画を確認し、必要な内容について教科書を読んで予習をしてくること。 健康教育の実施にあたり、講義毎に出すグループ課題を達成し、健康教育の企画、準備をすること。
備考	演習課題に主体的に取り組み、発表や討議を通して学習を深めることを期待する。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
基礎看護学Ⅳ－1 (基礎看護技術)	澤田 京子 假谷ゆかり	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

看護の対象者が日常生活を送る上で必要な基本的ニーズについての理解を深め、健康の維持・増進や健康の回復、疾病の予防のために必要な基本的な看護技術を修得する。看護技術を実施する時には、目的や根拠を明確にして、安全で安楽な技術を目指す。さらに、看護技術そのものに潜む危険や実施する看護者、看護場面に潜むリスクを認識し、対象者の安全の確保についても考察できるようにする。

到達目標

- ・看護技術の根拠を明確にし、原理原則に基づいた技術が実施できる。
- ・技術そのものに潜む危険や実施する看護者、看護場面に潜むリスクを認識し、対象者の安全の確保について考察できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス 看護技術の考え方、受講の手引き、実習室の使い方
第2回	講義「環境」に関する看護技術
第3回・AL	演習「ベッドメイキング」
第4回	講義「ボディメカニクス、活動と休息」に関する看護技術
第5回・AL	演習「安楽な体位、体位変換」①
第6回・AL	演習「安楽な体位、体位変換」②
第7回・AL	演習「体位変換と移送の方法」③
第8回	講義「清潔」に関する看護技術
第9回・AL	演習「臥床患者のシーツ交換」
第10回・AL	演習「洗髪」
第11回・AL	演習「寝衣交換」
第12回・AL	演習「清拭・足浴」①
第13回・AL	演習「清拭・足浴」②
第14回	技術チェック
第15回	講義「安全・安楽」 まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験 50%、演習参加・技術チェック 50% を総合して評価する。
教科書	『基礎看護技術』阿曾洋子他（医学書院） 『基礎・臨床看護技術』任 和子他（医学書院）
参考文献	なし
オフィスアワー	いつでも相談可
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	デモンストレーションした技術の手順書を書き、次の演習までに練習してくること。
備考	技術は身につける段階まで、繰り返し練習を重ねてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
基礎看護学Ⅳ－２ (基礎看護技術)	澤田 京子 假谷ゆかり	講義・演習	１年次 後期	必修	２	６０	KSP11203

科目の概要

基礎看護学Ⅳ－２では、看護の対象となる人が、安楽で安全に診療が受けられる援助と、医師の診療の補助に関する基礎的知識・技術・態度を修得することをめざす。看護における診療に伴う技術は、医師の指示に基づいて診療の補助を行うと同時に、患者の療養上の世話を含めた観察と援助を含む。そのため、看護の対象となる人の状態を把握して、適切なアセスメントを行い、最適な状態になるような方法で、診療の援助が展開できる基礎的能力を養う。具体的な内容においては、バイタルサイン、電法、食事、排泄、感染予防、薬物療法、検査に関する看護技術を学ぶ。

到達目標

- ・バイタルサインの測定ができる。
- ・無菌操作が確実にできる。感染性廃棄物の取り扱いができる。
- ・食事の援助ができる（食事介助）。
- ・排泄の援助ができる（床上排泄、浣腸、導尿）。
- ・薬物療法・検査時における安全の確認ができる。
- ・モデル人形に静脈血採血・筋肉注射・点滴静脈内注射が実施できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	診療の補助とは 演習計画 バイタルサインとは(講義)①
第２回	バイタルサイン②(講義)
第３回・AL	バイタルサイン③(演習)
第４回	バイタルサイン④(講義)
第５回・AL	バイタルサイン⑤(演習)
第６回	電法の原理と援助方法①(講義)
第７回・AL	電法の原理と援助方法②(演習)
第８回	感染予防①[標準予防策・手指衛生・防護用具の装着](講義)
第９回・AL	感染予防②[標準予防策・手指衛生・防護用具の装着](演習)
第１０回・AL	感染予防①[滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方](講義)
第１１回	感染予防②[滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方](演習)
第１２回・AL	食事の援助①[栄養と食事](講義)
第１３回	食事の援助②[食事介助・口腔ケア](演習)
第１４回・AL	食事の援助③[食事介助・口腔ケア](演習)
第１５回	排泄の援助①(講義)
第１６回・AL	排泄の援助②(演習)
第１７回	導尿・浣腸の援助①(講義)
第１８回・AL	導尿・浣腸の援助②(演習)
第１９回・AL	導尿・浣腸の援助③(演習)
第２０回	薬物療法①[薬物療法とは・薬物療法の種類・経口・吸入・直腸など](講義)
第２１回・AL	薬物療法②[薬物療法とは・薬物療法の種類・経口・吸入・直腸など](演習)
第２２回	薬物療法①[注射に関する薬物療法とその方法(皮内・皮下・筋肉内)](講義)
第２３回・AL	薬物療法②[注射に関する薬物療法とその方法(皮内・皮下・筋肉内)](演習)
第２４回	薬物療法①[薬物療法の方法(静脈内・点滴静脈内)](講義)
第２５回・AL	薬物療法②[薬物療法の方法(静脈内・点滴静脈内)](演習)
第２６回	検査時の援助①(採血・検尿)(講義)
第２７回・AL	検査時の援助②(採血・検尿)(演習)
第２８回	技術チェック①
第２９回	技術チェック②
第３０回	診療の補助のまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末試験 40%、実技試験 30%、学習課題・レポート 20%、授業・演習への参加度 10%
教科書	「基礎看護技術第7版」阿曾洋子、医学書院 「基礎・臨床看護技術」任 和子、医学書院
参考文献	「ナースンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」メディカ出版 「基礎看護学テキスト」深井喜代子、南江堂
オフィスアワー	在室時は対応します
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習課題・手順書を講義・演習までに学習して臨んでください。 演習レポート・国家試験過去問等の学習課題を期限までに提出してください。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント)	澤田 京子 假谷ゆかり	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

看護は、人々の健康状態を理解し、その人らしく生きていくことができるように援助する役割がある。基礎看護学Ⅴの講義では、看護の対象となる人の健康状態を、系統立ててアセスメントするために必要な基礎的知識を学習する。さらに、演習では、安全・安楽に留意して、現在の状態を的確に判断するために必要なフィジカルイグザミネーションを実施し、基礎的知識・技術・態度の修得をめざす。

到達目標

- ・呼吸系、循環系、消化系、感覚系、運動系、脳神経系の基本的なフィジカルイグザミネーションができる。
- ・事例に応じたフィジカルアセスメントができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	フィジカルアセスメントの概念、基本技術：問診・視診・触診・打診・聴診
第2回	呼吸系のフィジカルアセスメント [講義]
第3回・AL	呼吸系のフィジカルアセスメント [演習]
第4回	循環系のフィジカルアセスメント [講義]
第5回・AL	循環系のフィジカルアセスメント [演習]
第6回	消化系のフィジカルアセスメント [講義]
第7回・AL	消化系のフィジカルアセスメント [演習]
第8回	感覚系のフィジカルアセスメント [講義]
第9回・AL	感覚系のフィジカルアセスメント [演習]
第10回	運動系のフィジカルアセスメント [講義]
第11回・AL	運動系のフィジカルアセスメント [演習]
第12回	脳神経系のフィジカルアセスメント [講義]
第13回・AL	脳神経系のフィジカルアセスメント [演習]
第14回・AL	フィジカルアセスメントの方法 事例用いたシステムレビュー(総合演習)
第15回	フィジカルアセスメントのまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末試験 60%、学習課題・レポート 20%、授業・演習への参加度 20%
教科書	「フィジカルアセスメント完全ガイド」藤崎郁著、学研 「はじめてのフィジカルアセスメント」横山美樹著、メヂカルフレンド社
参考文献	「フィジカルアセスメントガイドブック」山内豊明著、医学書院 「診察と手技がみえる VOL. 1」古谷伸之編、MEDIC MEDIA
オフィスアワー	在室時は対応します。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	フィジカルアセスメントに必要な人体の構造と機能に関する事前学習課題に取り組み、基礎的知識を理解して、講義・演習に臨んでください。 演習レポート・国家試験過去問題等の課題は、期限までに提出してください。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅵ (看護過程)	峯岸由紀子	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程とは、看護の知識体系に基づいて、対象の健康上の問題を明らかにし、最適かつ個別的な看護を提供するための組織的・系統的な看護実践方法のひとつである。本科目においては、看護問題とは何かを理解し、その問題を解決する思考過程について学ぶ。この科目での習得事項は、基礎看護学実習Ⅱにおいて実践する。

到達目標

- ・看護過程とは何かを理解することができる。
- ・事例について、看護上必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。
- ・事例について、看護上の問題を明確にすることができる。
- ・事例について、看護計画を立案することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業ガイダンス:看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の起源と進展
第2回	看護過程の各段階(1)アセスメント(情報収集・分析・解釈・推論・問題の統合)
第3回	看護過程の各段階(2)看護上の問題の明確化、全体像の把握
第4回	看護過程の各段階(3)看護目標、具体的援助計画の立案
第5回	看護過程の各段階(4)実施・評価
第6回・AL	事例を用いた看護過程の展開(1)事例の提示、情報収集
第7回・AL	事例を用いた看護過程の展開(2)情報の分析・解釈・推論・統合<1>
第8回・AL	事例を用いた看護過程の展開(3)情報の分析・解釈・推論・統合<2>
第9回・AL	事例を用いた看護過程の展開(4)看護問題の明確化
第10回・AL	事例を用いた看護過程の展開(5)全体像の把握
第11回・AL	事例を用いた看護過程の展開(6)看護目標の策定
第12回・AL	事例を用いた看護過程の展開(7)具体的援助計画の立案
第13回・AL	事例を用いた看護過程の展開(8)実施
第14回・AL	事例を用いた看護過程の展開(9)評価
第15回・AL	事例を用いた看護過程の展開(10)まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験 40%、提出物（小テスト含む） 60%
教科書	系統看護学講座『基礎看護学技術Ⅰ』有田清子（他）医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱのなかで、事例の疾患に応じて使用する。（他の授業で使用するものを共用する）
参考文献	『実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド』任 和子（照林社） 『看護過程の解体新書』石川ふみよ（学研）
オフィスアワー	授業のなかで通知する
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。教科書および指定された資料を読んでおく。 事後学習：指定された課題を必ずやってくること。
備考	本科目を習得するには、看護学科の広範な他の科目で学んだ知識と、それらの知識を活用する論理的思考力が必要である。各授業は、すべて前回授業時の内容を習得していることが前提になるので、授業を欠席すると科目全体の理解が困難になる。知識を伝達する授業ではなく、学生自身の論理的思考力を訓練するものなので、主体的な学習態度が求められる。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅰ (概論)	瀬川 睦子	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSP11102

科目の概要

成人各期の身体的・心理社会的特徴、発達課題、生活の特徴を学ぶとともに、健康障害による生活への影響を理解する。また、生活習慣、職業、生活ストレス、セクシャリティ、更年期に関連する健康障害について理解するとともに、様々な健康障害をもつ成人期にある人々への問題解決のために必要な概念や理論について理解できるようにする。

到達目標

- ・成人各期の特徴、発達課題について説明できる。
- ・成人期にある人の健康および健康障害について、日常生活、職業、生活ストレスと関連させて説明できる。
- ・成人期にある人の健康状態に応じた看護の特徴について説明できる。
- ・成人期にある人を看護するために必要な概念・理論についてわかる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	成人とは、成人期の特徴
第2回・AL	成人期の特徴
第3回	成人をとりまく今日の状況
第4回	成人期にある人の健康
第5回	成人保健の概要
第6回	生活習慣・職業・生活ストレス・セクシャリティ・更年期に関連する健康障害 一1)
第7回	生活習慣・職業・生活ストレス・セクシャリティ・更年期に関連する健康障害 一2)
第8回	急性期の対象と看護
第9回	慢性期の対象と看護
第10回	リハビリテーション期の対象と看護
第11回・AL	終末期の対象と看護
第12回	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 一1)
第13回	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 一2)
第14回	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護
第15回・AL	成人看護における倫理と今日的課題

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験 (90%)、レポート (10%)
教科書	成人看護学『成人看護学概論』林直子他編集 (南江堂)
参考文献	『系統看護学講座 成人分野Ⅱ 成人看護学総論』小松浩子他 (医学書院) 『ナースンググラフィカ 成人看護学 成人看護学概論』安酸史子編集 (メディカ出版)
オフィスアワー	随時相談に応じる。
事前学習 (内容・時間) 事後学習 (内容・時間)	事後学習：授業で理解できなかったことを各自で学習する。
備考	医療・看護の専門用語が増えていきます。欠席せずに積極的に学習に取り組んでください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論)	片山 康予	講義・演習	2年次 後期	必修	2	60	KSP21204

科目の概要

- ・成人期における急性期・回復期にある人を対象とした看護について講義する。
- ・急性期の特徴および健康問題を理解し、援助に必要な基礎的知識と方法を理解する。
- ・周手術期の特徴および健康問題の特性を理解し、術前・術中・術後の援助に必要な基本的知識と方法を理解する。
- ・回復過程に合わせた援助方法を理解する。

到達目標

- ・急性期・回復期の特徴および健康問題が説明できる。
- ・術前・術中・術後看護の特徴および主な看護を説明できる。
- ・代表的な手術療法とその術前・術後看護を説明できる。
- ・急性期の代表的な疾患について病態生理を踏まえた看護が説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	急性期の患者・家族および看護の特徴、周手術期看護
第2回	術前看護、術前患者のアセスメント
第3回	術中看護—1(全身麻酔・くも膜下麻酔・術中体位)
第4回	術中看護—2(開腹手術による侵襲・腹腔鏡下手術による侵襲)
第5回	術後看護—1 術後合併症
第6回	術後看護—2 術後合併症
第7回・AL	術後看護—3 術後患者のアセスメント
第8回	運動器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(腰椎椎間板ヘルニア根治術)
第9回	運動器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(人工膝関節置換術)
第10回	呼吸器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(肺部分切除術)
第11回	呼吸器疾患をもつ患者の術前・術後の看護
第12回	呼吸器疾患をもつ患者の術前・術後の看護
第13回	循環器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(ペースメーカー植え込み術)
第14回・AL	循環器疾患をもつ患者の看護(急性期)
第15回・AL	循環器疾患をもつ患者の看護(急性期)
第16回	消化器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(胃切除術)
第17回	消化器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(大腸切除術)
第18回	排泄経路の変更を余儀なくされる人の看護(ストーマ造設患者の看護)—1
第19回	排泄経路の変更を余儀なくされる人の看護(ストーマ造設患者の看護)—2
第20回	腎・泌尿器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(前立腺摘出術)
第21回	腎・泌尿器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(経尿道的腫瘍切除術)
第22回	女性生殖器疾患をもつ患者の術前・術後の看護(単純子宮全体的術)
第23回	脳神経疾患をもつ患者の術前・術後の看護(脳腫瘍摘出術)
第24回	脳神経疾患をもつ患者の看護(急性期)
第25回	救急医療・看護
第26回	ショック・外傷時の看護
第27回	意識障害患者の看護
第28回	災害医療・災害看護
第29回	熱傷および救急現場で遭遇する症状と看護
第30回	回復期・リハビリテーション期の看護

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	事前課題・小テスト・レポート・期末試験の結果を総合的に判断し成績評価を行う。
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』矢永勝彦・小路美喜子編集(医学書院)
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ『成人看護学2呼吸器』『成人看護学3循環器』『成人看護学4血液・造血器』『成人看護学5消化器』『成人看護学6内分泌・代謝』『成人看護学7脳・神経』『成人看護学8腎・泌尿器』(医学書院)
オフィスアワー	随時相談に応じます。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：解剖・病態生理について学習しておいてください。 事後学習：授業で理解できなかった内容について、自己学習をしてください。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論)	山口 利子 岩下真由美	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21205

科目の概要

- ・成人期の慢性期の特徴および健康問題、慢性疾患をセルフマネジメントするための援助について講義する。
- ・成人期の終末期の特徴および健康問題、人生の終末にある人と家族に対する援助について講義する。

到達目標

- ・成人期の特徴的な慢性疾患の特徴および健康問題と各健康問題に応じた援助について説明できる。
- ・成人期の終末期の特徴および健康問題、人生の終末にある人と家族に対して、有意義な人生の終末をめざした援助について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	各機能障害により慢性状態にある人の特徴と看護
第2回	呼吸器疾患をもつ人への看護
第3回・AL	循環器疾患をもつ人への看護①
第4回	循環器疾患をもつ人への看護②
第5回	消化器疾患をもつ人への看護
第6回・AL	代謝・内分泌疾患をもつ人への看護①
第7回	代謝・内分泌疾患をもつ人への看護②
第8回・AL	脳・神経疾患をもつ人への看護①
第9回	脳・神経疾患をもつ人への看護②
第10回	終末期における身体的ケア、心理的ケア、家族に対するケア
第11回	終末期における倫理的問題・チームアプローチ
第12回	造血器疾患をもつ人への看護
第13回	化学療法を受ける人への看護 放射線療法を受ける人への看護
第14回	腎・泌尿器疾患をもつ人への看護
第15回	ステロイド療法を受ける人への看護 成人看護学Ⅲまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	事前課題・小テスト・レポート・期末試験の結果を総合的に判断し成績評価を行う。
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ『成人看護学2呼吸器』『成人看護学3循環器』『成人看護学4血液・造血器』『成人看護学5消化器』『成人看護学6内分泌・代謝』『成人看護学7脳・神経』『成人看護学8腎・泌尿器』（医学書院）『慢性期看護論』鈴木志津枝他編集（ヌーベルヒロカワ）『がん看護学 臨床に活かすがん看護の基礎と実践』大西和子他編集（ヌーベルヒロカワ）『緩和・ターミナルケア看護論』（ヌーベルヒロカワ）鈴木志津枝他編集（ヌーベルヒロカワ）
参考文献	『慢性疾患の病みの軌跡コービンとストラウスによる看護モデル』ピエールウグ編集／黒江ゆり子他訳（医学書院）
オフィスアワー	随時相談に応じます。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	講義前に出す課題については提出期限を守ること。 講義終了後は必ず復習を行うこと。
備考	成人期の慢性疾患の看護上の問題は個別性が高く多種多様です。本講義において慢性期にある患者の特徴と看護の基本を学び、領域実習や卒業後に使える知識として下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	岩下真由美 佐藤 都代 成人看護学領域教員	演習	3 年次 前期	必修	2	60	KSP31301

科目の概要

基礎看護学での学びをもとに、成人期のあらゆる健康レベル（急性期・回復期・慢性期・終末期）にある対象者を理解し、必要な看護技術を習得するための講義・演習を行う。

- ・基礎看護学Ⅵ（看護過程）の学びを基に、成人期に特有な健康問題を持つ事例に対する科学的・系統的なアセスメント方法と看護過程の展開方法を習得する。
- ・あらゆる健康レベルにおいて、機能障害をもつ患者への援助に必要な基本的看護技術を習得する。

到達目標

- ・急性期・慢性期にある疾患を抱えた成人期の患者の状態をアセスメントすることができる。
- ・あらゆる健康レベルにある対象者の呼吸・循環管理、栄養・代謝に必要とされる基本的な援助技術を習得することができる。
- ・患者－看護師の役割体験を通し、患者の立場に立ったケアについて理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	成人期のあらゆる健康レベルにある患者をアセスメントするための視点
第 2 回	急性期にある患者の看護過程(1) 情報の整理①
第 3 回・AL	生活の再調整を求められる患者に必要な援助技術(1)
第 4 回・AL	生活の再調整を求められる患者に必要な援助技術(2)
第 5 回	急性期にある患者の看護過程(2) 情報の分析・解釈①
第 6 回	急性期にある患者の看護過程(3) 情報の分析・解釈②
第 7 回・AL	喀痰喀出困難時の援助技術
第 8 回・AL	酸素療法中の患者の看護
第 9 回・AL	術前呼吸訓練と呼吸機能検査
第10回・AL	術後患者の看護
第11回	急性期にある患者の看護過程(4) 情報の統合・関連図・看護上の問題の把握①
第12回	急性期にある患者の看護過程(5) 情報の統合・関連図・看護上の問題の把握②
第13回・AL	摂食・嚥下障害をもつ患者の看護(1)
第14回・AL	摂食・嚥下障害をもつ患者の看護(2)
第15回	急性期にある患者の看護過程(6) まとめ
第16回	慢性期にある患者の看護過程(1) 情報の整理、情報の分析・解釈
第17回	慢性期にある患者の看護過程(2) 情報の分析・解釈
第18回	慢性期にある患者の看護過程(3) 情報の統合・関連図・看護上の問題の把握
第19回・AL	呼吸理学療法を必要とする患者の看護(1)
第20回・AL	呼吸理学療法を必要とする患者の看護(2)
第21回・AL	呼吸理学療法を必要とする患者の看護(3)
第22回・AL	呼吸理学療法を必要とする患者の看護(4)
第23回・AL	看護実践力を培うためのシミュレーション(1)
第24回・AL	看護実践力を培うためのシミュレーション(2)
第25回・AL	看護実践力を培うためのシミュレーション(3)
第26回・AL	看護実践力を培うためのシミュレーション(4)
第27回・AL	慢性期にある患者の看護過程(4) 看護計画の立案
第28回	慢性期にある患者の看護過程(5) まとめ
第29回・AL	患者急変時の対応(1)
第30回・AL	患者急変時の対応(2)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート 60%、定期試験 40%で総合的に評価する。
教科書	これまでに購入したテキストを使用するため、適宜案内する。
参考文献	適宜紹介する。
オフィスアワー	随時相談に応じる（ただし事前にアポイントメントをとってください）
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	各講義・演習前に出す課題についてレポートを作成すること。 各講義・演習後に出す課題についてレポートを作成すること。 ※看護過程の展開に必要な学習を含む
備考	毎時の講義・演習が後の講義・演習に大きく影響しますので欠席がないようにしてください。 また、課題を達成していることが演習参加の条件となります。 なお、本科目受講にあたり、既習の科目（特に人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療医学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護学Ⅵ、基礎看護学実習Ⅱ）を復習しておいてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
老年看護学Ⅰ (概論)	原田 俊子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21101

科目の概要

高齢者とその家族に対して個別的看護を展開するための基盤となる知識である「高齢者看護の原理」として高齢者の「健康問題」、生活の場である「老年」「施設」「医療機関」、高齢者のQOL、家族の形態と社会問題、社会情勢の変化に伴う課題などについて学生の思考性や創造性を踏まえながら学習を進めていく。

到達目標

- ・「老い」の意味について身体的、心理・精神的、社会的に特徴を捉え説明できる。
- ・高齢化が社会に及ぼしている現状を知り、現状の課題と今後の課題について捉え説明できる。
- ・高齢者の発達課題について、各論者の特徴がわかり、説明できる。
- ・高齢者を取り巻く社会制度と生活の場を捉えることができる。
- ・老年看護の理念と目標がわかり、看護の特徴が説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	老年看護の理念と役割について学ぶ。
第2回・AL	老いの学び:高齢者のイメージを言語化し、老年観を考える。
第3回・AL	高齢期の発達課題の特徴
第4回・AL	加齢・老化・高齢者・高齢者の健康・生活機能の概念
第5回・AL	高齢者の社会生活とQOL :ライフストーリー
第6回・AL	高齢者の社会的特徴:住環境・社会参加
第7回・AL	高齢者の身体的特徴・高齢者の心理的特徴
第8回・AL	老化とサクセスフルエイジングについて
第9回・AL	高齢者体験と身体の生理的变化の理解① 演習
第10回・AL	高齢者体験と身体の生理的变化の理解② 演習
第11回・AL	高齢者のコミュニケーション:ユマニチュード
第12回	高齢者のスピリチュアリティとスピリチュアルニード
第13回・AL	高齢者における倫理的課題とリスクマネジメント
第14回	高齢者の尊厳と権利擁護・アドボカシー・意思決定・虐待
第15回・AL	高齢者を支える社会制度と社会資源:高齢者の生活の場を捉える。
	高齢者医療の現状と課題
	高齢者看護の理念と目標、老年看護学の今後の課題

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験 (50%)、レポート・課題提出物・小テスト (50%)
教科書	老年看護学概論 ～「老いを生きる」を支えることとは 正木治恵 南江堂 老年看護学技術 ～最後までその人らしく生きることを支援する 真田弘美 南江堂 ナーシンググラフィカ高齢者看護の実践 メディカ出版
参考文献	佐々木英忠他 著 老年看護病態疾患論 医学書院 2014 系統看護学講座 老年看護学、老年看護 病態・疾患論 医学書院 2014 ナーシンググラフィカ高齢者の健康と障害 メディカ出版 2014 適宜資料を配布
オフィスアワー	随時、授業の担当教員にアポイントをとってください。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義の理解を助けるための学習内容を課題として作成する。 講義終了後に講義内容の理解を深めるために振り返りとして課題を出し作成する。
備考	高齢者の特徴を理解し、健康問題について学習を深めることを目的に、予習・復習の習慣化を図るためシラバスの進行に伴って事前学習を課す。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	原田 俊子	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

加齢に伴い高齢者に発生頻度の高い疾患あるいは病態が、高齢者の生活にどのように影響しているのか特徴的な疾患を通して理解し、治療的、予防的視点から、学生自身が看護を思考し、創造できるように学習を進めていく。

到達目標

- ・高齢者に特有な疾患とその病態についてわかる。
- ・高齢者に特有な疾患の看護についてわかる。
- ・高齢者の看護上の特徴と課題についてわかる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	オリエンテーション
第2回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (脳・神経系疾患)
第3回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (循環器疾患)
第4回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (骨・運動器疾患)
第5回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (感覚器疾患)
第6回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (消化器系疾患)
第7回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (呼吸器疾患)
第8回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (内分泌・代謝疾患)
第8回・AL	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (腎泌尿器疾患)
	老年看護学Ⅱまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験 (60%)、レポート・課題提出 (40%)
教科書	老年看護学概論 ～「老いを生きる」を支えることとは 正木治恵 南江堂 老年看護学技術 ～最後までその人らしく生きることを支援する 正木治恵 南江堂 ナーシンググラフィカ高齢者看護の実践 メディカ出版 生体機能から見た老年看護過程第 山田律子 医学書院
参考文献	老年看護病態疾患論 佐々木英忠他 著 医学書院 老年看護技術 亀井智子 医学書院
オフィスアワー	随時アポイントをとってください
事前学習 (内容・時間) 事後学習 (内容・時間)	講義の理解を助けるための学習内容を課題として作成する。 講義終了後に講義内容の理解を深めるために振り返りとして課題を出し作成する。
備考	1. 加齢にともなう身体的変化・精神的変化・社会的変化を踏まえて、疾患を理解し、高齢者への看護を学習するため、老年看護学Ⅰ、およびフィジカルアセスメントを復習して受講することを期待します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	原田 俊子	演習	3 年次 前期	必修	1	30	KSP21206

科目の概要

理論を活用した高齢者のアセスメントができるようになることを目的として高齢者を対象に個別的な看護ができるための援助の理論と看護の実践についてディスカッションを通してともに考えていく。具体的には、理論として（ニード論、セルフケア理論、危機の適応、役割理論、エンパワメント等）について事前や事後、授業中の課題に対応できる思考性や創造性を追求しながら学習目標の達成に向けて学習を進めていく。

到達目標

- ・高齢者看護に活用するアセスメントのための理論がわかる。
- ・高齢者看護に活用する危機理論がわかる。
- ・高齢者看護に活用するケアアプローチに関する理論がわかる。
- ・活用する理論を展開できるようにグループワークを通してわかる。
- ・高齢者看護や高齢者の生活支援に関係深い家族支援についてわかる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回・AL	高齢者看護に活用できる健康の概念 オリエンテーション
第 2 回・AL	高齢者看護に活用できる理論とアプローチ
第 3 回・AL	高齢者看護に活用できるニード論、セルフケア理論
第 4 回・AL	高齢者看護に活用できるサクセスフルエイジング
第 5 回・AL	高齢者看護に活用できるエンパワメント
第 6 回・AL	高齢者看護に活用できる危機理論
第 7 回・AL	高齢者看護に活用できるコンプライアンス、アドヒアランスからコンコーダンス (1)
第 8 回・AL	高齢者看護に活用できるコンプライアンス、アドヒアランスからコンコーダンス (2)
第 9 回・AL	高齢者看護に活用できるウエルネスケアアプローチ
第10回・AL	高齢者看護に活用できるコンフォート理論
第11回・AL	高齢者看護に活用できるウエルネスケアアプローチとコンフォート理論 (1)
第12回・AL	高齢者看護に活用できるウエルネスケアアプローチとコンフォート理論 (2)
第13回・AL	高齢者看護に活用できる家族看護論①
第14回	高齢者看護に活用できる家族看護論②
第15回	グリーフケア:悲嘆とケア

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	定期試験 (50%)、レポート・課題提出・小テスト (50%)
教 科 書	老年看護学概論 ～「老いを生きる」を支えることとは 正木治恵 南江堂 老年看護学技術 ～最後までその人らしく生きることを支援する 正木治恵 南江堂 看護過程学習ガイド思考プロセスからアプローチ 学研 ナーシンググラフィカ高齢者看護の実践 メディカ出版
参 考 文 献	ナーシンググラフィカ高齢者の健康と障害 メディカ出版 老年看護技術 医学書院 2014 ・ コルカバ コンフォート理論 医学書院 コンコーダンス 患者の気持ちに寄り添うためのスキル 医学書院 その他、資料を配布する
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時アポイントを取って下さい。
事前学習 (内容・時間) 事後学習 (内容・時間)	講義の理解を助けるための学習内容を課題として作成する。 講義終了後に講義内容の理解を深めるために振り返りとして課題を出し作成する。
備 考	看護学実習や臨床に即した看護実践力を習得するため、老年看護学Ⅰと連携しながら高齢者の看護に必要な理論を展開するため復習を要します。また、学生参加を授業に求めるため予習や復習を含めた事前や事後学習を重要視します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	原田 俊子	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31201

科目の概要

老年看護の対象である高齢者の諸機能の変化を踏まえて、健康障害を持つ高齢者の健康レベルの理解を深め、対象の健康に関する顕在的・潜在的能力が最大限に発揮できるようにするための基本的な能力を養う。また、高齢者の発達の特徴や倫理的課題を理解し、高齢者がその人らしく生きていくことができるように、個別事例を通してアセスメントを行い、具体的にケアプランを作成し、老年看護学における看護実践力を高めるために学生の能動的な学びを展開していく。

到達目標

- ・高齢者に特有な症状と看護についてわかる。
- ・高齢者の特徴を踏まえた薬物療法、手術療法、リハビリテーション療法、各療法についてわかる。
- ・認知症患者の原因と症状、治療、アセスメント内容がわかり、生活支援の方法がわかる。
- ・半身麻痺のある患者の生活障害とその看護支援がわかる。
- ・事例を通して看護過程の展開方法がわかる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	老年看護学の特性
第2回・AL	看護過程の方法説明(実習記録を用いて書き方の説明) 事例紹介
第3回・AL	脳梗塞を起こした患者の看護 (栄養:摂食障害について)
第4回・AL	脳梗塞を起こした患者の看護 (活動:セルフケア・転倒について)
第5回・AL	演習 摂食嚥下
第6回・AL	演習 左半身麻痺のある患者の移動・移送の援助
第7回・AL	褥瘡ケア
第8回・AL	手術療法を受ける高齢者の看護(大腿骨頸部骨折)
第9回・AL	薬物療法を受ける高齢者の援助とリスクマネジメント
第10回・AL	高齢者に対するリハビリテーション療法の意義と特徴
第11回・AL	排泄障害と看護援助
第12回・AL	演習 排泄の援助
第13回・AL	高次機能障害の病態生理と看護の視点
第14回・AL	認知症の理解とアセスメントツールと看護の視点
第15回・AL	尊厳ある介護と看取り・終末期の支援(その他)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験 (60%)、レポート・課題・小試験 (40%)
教科書	老年看護学概論 ～「老いを生きる」を支えることとは 正木治恵 南江堂 老年看護学技術 ～最後までその人らしく生きることを支援する 真田弘美 南江堂 ナーシンググラフィカ高齢者看護の実践 メディカ出版 生体機能から見た老年看護過程第 山田律子 医学書院
参考文献	佐々木英忠他 著 老年看護病態疾患論 医学書院 2014 老年看護技術 医学書院 2014 ・ 老年看護課程 医学書院 2014 老年症候群別看護ケア関連図&ケアプロトコル 中央法規 2011
オフィスアワー	随時、授業の担当教員にアポイントをとってください
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義の理解を助けるための学習内容を課題として作成する。 講義終了後に講義内容の理解を深めるために振り返りとして課題を出し作成する。
備考	看護学実習や臨床に即した看護実践力習得のため、老年看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、およびフィジカルアセスメントを復習して受講することを期待します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅰ (概論と保健)	合田 友美	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21103

科目の概要

小児看護の対象である子どもの構造・機能や小児各期（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期）の発達課題について学び、成長・発達の特徴および健康の保持増進のあり方について理解する。また、現代の社会現象をとらえ、子どもの権利を擁護した支援について理解を深めるとともに、子どもとその家族に対する小児看護の役割について理解する。

到達目標

- ・小児各期の成長・発達について説明することができる。
- ・現代の社会状況を理解し、子どものよりよい生活および家族の養育支援について考えることができる。
- ・子どもの権利擁護のあり方について考えることができる。
- ・小児看護の役割と今後の課題を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	小児看護の目標と役割－1:小児の世界を知る (VTR, ディスカッション, 課題)
第2回・AL	小児・家族の生活と社会1:小児の環境と事故(特に不慮の事故) (VTR, ディスカッション, 課題) *小児看護学[1][2]
第3回・AL	小児の成長・発達1:小児にとっての成長・発達 (VTR, ディスカッション, 課題)
第4回・AL	小児の成長・発達2:新生児, 乳児－1 (VTR, ディスカッション, 課題)
第5回・AL	小児の成長・発達3:乳児－2 (VTR, ディスカッション, 課題)
第6回・AL	小児の成長・発達4:幼児－1 (VTR, ディスカッション, 課題)
第7回・AL	小児の成長・発達5:幼児－2 (VTR, ディスカッション, 課題)
第8回・AL	小児の成長・発達6:幼児－3 (VTR, ディスカッション, 課題)
第9回・AL	小児の成長・発達7:学童・思春期 (VTR, ディスカッション, 課題)
第10回	小児の人権擁護－1:小児の権利と人権擁護 *小児看護学[1][2]
第11回	小児の人権擁護－2:児童虐待とその予防 *小児看護学[1][2]
第12回	小児・家族の生活と社会－2:小児医療の変遷, 日本と諸外国
第13回	小児・家族の生活と社会－3:小児を中心とした保健, 医療, 福祉の法律
第14回	小児・家族の生活と社会－4:病弱教育, 特別支援教育
第15回	小児看護の目標と役割－2:小児看護のあり方, 専門看護師

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	ペーパーテスト (90%), 課題 (10 %)
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 小児看護学[1] 小児看護学概論, 小児臨床看護総論』, 『小児看護学[2] 小児臨床看護各論』 奈良間美保 他 編著 (医学書院), 『こどもの病気の地図帳』 鴨下重彦・柳沢正義 編著 (講談社)
参考文献	人体構造機能論のテキスト (解剖生理学, 医学書院) 小児の参考文献については、別途提示します。
オフィスアワー	具体的日程が決まり次第、お知らせします。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	第1回ガイダンスで配布する資料に基づいて、該当箇所について次回講義までに読んでおくこと。 講義箇所の復習をすること。
備考	自分の子ども時代を思い出してください。どのような養育によって今の自分があるのか、今を生きる子どもの成長発達にはどういった支援が必要か。日頃から子どもとその周りの社会全体に目を向けるようにしよう。 *小児の解剖生理の理解のために、成人の体の構造・機能について復習を十分に行って臨むこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
小児看護学Ⅱ (主な疾患と看護)	合田 友美	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21104

科目の概要

看護介入のあり方を理解するために、小児期の主な症状や疾病について形態機能の特徴からとらえる。また、発達障害における対人関係上の問題等についても考えを深める。さらに疾病・障害が小児と家族に与える影響について学び、健康障害の小児の理解を深める。

到達目標

- ・代表的な疾患について、起こりうる症状の病態を説明することができる。
- ・主な小児疾患の治療（内科的療法，外科的療法）について説明することができる。
- ・疾病・障害が子ども・家族に及ぼす影響について考えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	小児疾患と看護介入のあり方-1:消化器疾患の小児の看護
第2回	主な小児内科系疾患-1:代謝性疾患, 内分泌疾患
第3回	主な小児内科系疾患-2:腎疾患, 感染性疾患
第4回	主な小児内科系疾患-3:循環器疾患
第5回	主な小児内科系疾患-4:小児がん
第6回・AL	小児疾患と看護介入のあり方-2:整形外科疾患の小児の看護 (VTR, ディスカッション)
第7回・AL	小児疾患と看護介入のあり方-3:発達障害の理解と支援方法 (VTR, ディスカッション)
第8回	小児疾患と看護介入のあり方-4:神経疾患の小児の看護

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	ペーパーテスト (100%)
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 小児看護学[1] 小児看護学概論, 小児臨床看護総論』、『小児看護学[2] 小児臨床看護各論』奈良間美保 他 編著 (医学書院), 『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦・柳沢正義 編著 (講談社)
参考文献	人体構造機能論テキスト, 病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲテキスト, 薬理学テキスト *小児の参考文献は別途示します。
オフィスアワー	具体的な日程が決まり次第、お知らせします。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	第1回ガイダンス配布する資料に基づいて、該当箇所について次回講義までに読んでおくこと。 講義箇所の復習をすること。随時指定する課題について、レポートを作成すること。
備考	「子どもと大人の違い」を理解すること。 *人体構造機能論(解剖生理学), 病態治療学Ⅰ(病理学, 臨床検査), 病態治療学Ⅱ(内科疾患), 病態治療学Ⅲ(外科疾患)、薬理学を復習しながら講義に臨むこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
小児看護学Ⅲ (健康障害のある小児と家族への援助)	合田 友美 西田 千夏 福島 美幸	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21207

科目の概要

健康問題 / 障害のある小児と家族を取り巻く状況考え、さまざまな健康問題 / 障害の経過の特徴と看護を理解する。
また、小児の健康の保持・増進のための看護を学ぶ。

到達目標

- ・小児が病気になることや入院が小児および家族に及ぼす影響について具体的に記述することができる。
- ・小児にみられる主な症状や代表的な疾患に関する看護援助の方法を病態生理と照らしながら説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	外来における小児と家族の看護(グループディスカッション)
第2回・AL	入院中の小児と家族の看護(グループディスカッション)
第3回	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護-1:痛み、発熱、痙攣、意識障害など
第4回	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護-2:呼吸困難、チアノーゼ など
第5回	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護-3:嘔吐、下痢、脱水、浮腫など
第6回	ハイリスク新生児と家族の看護
第7回・AL	急性期にある小児と家族の看護(グループワーク)
第8回	手術を受ける小児と家族の看護
第9回・AL	慢性期にある小児と家族の看護1:呼吸器、代謝疾患の看護(グループワーク)
第10回・AL	慢性期にある小児と家族の看護2 :腎、血液疾患の看護(グループワーク)
第11回	終末期にある小児と家族の看護
第12回	活動制限を要する小児と家族の看護
第13回	在宅療養中の小児と家族の看護/災害時の小児と家族の看護
第14回・AL	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護1 (グループワーク)
第15回・AL	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護2(成果発表会、グループディスカッション)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	ペーパーテスト (90 %)、課題 (10 %)
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』奈良間美保他 編著 (医学書院) 『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦・柳沢正義 編著 (講談社)
参考文献	別途、提示します。
オフィスアワー	具体的な日程が決まり次第、お知らせします。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義前に該当箇所について、テキストを読んで予習をすること。 講義後は、テキストおよび資料を読んで復習をすること。 *課題レポートは、文献を参考にして作成すること。
備考	小児看護学Ⅱと並行して学習します。 病態だけでなく小児とその家族の理解が重要であるため、小児看護学Ⅰの復習をして臨みましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	西田 千夏 福島 美幸	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31302

科目の概要

さまざまな発達、健康のレベルにある子どもとその家族を理解するためのアセスメント方法および具体的援助方法について看護過程を試行する。
また、看護技術では、安全・安楽な援助を行うための基本的な理論と技術を学ぶ。

到達目標

- ・事例を通して、健康障害のある小児の全体像を捉え看護アセスメントを記述する（述べる）ことができる。
- ・健康障害のある小児に必要な援助技術の意義とその方法を説明することができる。
- ・健康障害のある小児に必要な援助技術をモデル人形を用いて実施することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講義ガイダンス（看護過程演習および小児看護技術演習オリエンテーション）、看護過程講義
第2回・AL	看護過程演習（個人ワーク）
第3回・AL	看護過程演習（グループワーク）
第4回・AL	看護過程演習（グループワーク）
第5回・AL	看護過程演習（成果発表会、グループディスカッション）
第6回・AL	看護過程演習（成果発表会、グループディスカッション）
第7回・AL	看護過程演習（個人ワーク）
第8回・AL	看護過程演習（個人ワーク）
第9回・AL	看護技術講義／演習（グループワーク、グループディスカッション）
第10回・AL	看護技術演習／演習（グループワーク、グループディスカッション）
第11回・AL	看護技術演習／演習（グループワーク、グループディスカッション）
第12回・AL	看護技術演習／演習（グループワーク、グループディスカッション）
第13回・AL	看護技術演習／演習（グループワーク、グループディスカッション）
第14回・AL	看護技術演習／演習（グループワーク、グループディスカッション）
第15回・AL	看護技術演習／演習（グループワーク、グループディスカッション）

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	ペーパーテスト（80％）、学習成果物・演習課題（20％）
教 科 書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他 編著（医学書院） 『ナースンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術』中野 綾美 編集（メディカ出版） 『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦・柳沢正義 編著（講談社）
参 考 文 献	『発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程』荃津智子編著（医歯薬出版） 『小児看護技術』今野美紀 二宮啓子編集（南江堂） 他
オ フィ ス ア ワ ー	具体的な日程が決まり次第、お知らせします。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前課題を行い、具体的なイメージをもって講義／演習に臨むこと。 希望があれば、繰り返し看護技術の練習が出来るよう事後学習の場として実習室を開放する。
備 考	小児看護学の集大成です。これまでの復習をして臨みましょう。 大人と子どもの違いは何かについて理解することが重要であり、それが理解の近道です。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅰ (概論)	溝口 全子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21105

科目の概要

女性のライフサイクルにわたる健康について、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念をふまえ、社会の状況を考える。そして母性看護学の視点から、女性のQOL向上について考えを発展させることができるように学習する。

到達目標

- ・母性の概念と母性看護の意義・役割を学ぶ。
- ・母性を取り巻く家族・社会との関係を学ぶ。
- ・わが国、及び世界の母子の健康について学ぶ。
- ・女性のライフサイクルと健康、セクシュアリティについて学ぶ。
- ・母性関連の法律・施策について学び、社会資源の活用について理解し、援助できるようにする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	オリエンテーション 身近な「母性関連」の情報、話題
第2回	母性看護の概念と意義及び特性
第3回	母子関係と家族(母子の愛着形成、父子関係、パートナーとの関係)
第4回	日本の母性看護の変遷と現状
第5回	諸外国の母性看護の変遷と現状
第6回	日本における母子保健の現状と動向
第7回	諸外国における母子保健の現状と動向
第8回・AL	女性の各ステージにおける特徴と支援 ①思春期女性の健康問題とヘルスケア
第9回・AL	女性の各ステージにおける特徴と支援 ②成熟期女性の健康問題とヘルスケア
第10回・AL	女性の各ステージにおける特徴と支援 ③更年期女性の健康問題とヘルスケア
第11回	母性看護と倫理
第12回	人間の性とセクシュアリティ
第13回	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ①
第14回・AL	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ②
第15回	総括・母性看護のあり方

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末試験 80%、講義中のレポート課題 10%、グループワーク参加度 10%
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学(1) 母性看護学概論 森 恵美編著(医学書院)
参考文献	国民衛生の動向(厚生労働統計協会) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学(9) 女性生殖器池田 正編著(医学書院)
オフィスアワー	随時相談に応じます(事前にアポイントを取ってください)。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習: 母性に関係するニュースや新聞記事については関心を持ちメモしておいてください。 事後学習: テキスト及び資料を読んで復習してください。
備考	この講義では「母性」とは何か、自ら考えることと、「次世代育成」のための施策・法律について知識を身につけて欲しいと考えています。積極的に取り組んでください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅱ (女性生殖・周産期医療)	溝口 全子	講義	2 年次 後期	必修	1	15	KSP21106

科目の概要

周産期領域（妊産褥婦および新生児）の疾病を中心に病態・診断・治療について系統的に学び、実践の基礎知識とする。あわせて、女性のライフサイクル全般にわたる性と生殖に関する健康問題および次世代を育成する成人期女性に生じる疾患や生殖医療についての支援方法を学ぶ。

到達目標

- ・女性の健康問題と生殖器疾患の診断や医学的対応を理解し看護できる。
- ・周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児）に焦点を当てリスク因子をもつ母子の看護ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	GSMと医学 1 女性のがんの動向
第 2 回	GSMと医学 2 女性生殖器疾患の診断、医学的対応
第 3 回	周産期に起こりうる異常 1
第 4 回	周産期に起こりうる異常 2
第 5 回・AL	周産期にリスクを持つ母児のケア、産科手術を受ける母児のケア
第 6 回	女性生殖器疾患をもつ女性のケア(主に悪性腫瘍)
第 7 回・AL	Sexualityに関する健康問題としての乳がん患者のケア
第 8 回	Sexualityに関する健康問題としての不妊症、生殖医療についての支援

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末試験 80% （講義中）課題レポート提出 10%、グループワーク参加度 10%
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学(9) 女性生殖器池田 正編著（医学書院）
参考文献	資料は適宜配布する。 母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅲで使用したテキスト
オフィスアワー	随時相談に応じます（事前にアポイントを取ってください）。
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	専門基礎科目ならびに母性看護学Ⅰ、Ⅲの知識と関連づけして学びを深めましょう。
備考	母性に関するニュースや新聞記事については関心を持ちメモしておいてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅲ (周産期アセスメント)	上山 直美	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21208

科目の概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における女性と新生児および家族を対象とした生理的・心理・社会的変化と特徴を理解する。また、対象に対する看護過程の展開について学ぶ。

到達目標

- ・正常に経過する対象の身体的・心理的・社会的変化について理解でき、説明できる。
- ・妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護援助について理解でき、説明できる。
- ・妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常を逸脱した状態や健康障害についての看護が理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態①
第2回	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態②
第3回・AL	母親役割獲得状況と家族関係のアセスメント
第4回	ハイリスク妊娠と看護
第5回	正常分娩の経過とアセスメント①
第6回	正常分娩の経過とアセスメント②
第7回・AL	産婦の心理変化、母子愛着形成および家族のアセスメント
第8回	出産直後の新生児のアセスメントと援助
第9回	産科処置と産科手術
第10回・AL	生殖器の復古と全身の回復
第11回・AL	母乳育児に関するアセスメント
第12回	新生児期の子宮外生活適応とアセスメント①
第13回・AL	新生児期の子宮外生活適応とアセスメント②
第14回	講義のまとめ①
第15回	講義のまとめ②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末試験 70% 課題レポート 30%
教科書	母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践 大平光子他 編集 (南江堂)
参考文献	母性看護実習ガイド (パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開) 堀内成子 (照林社) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学 (9) 女性生殖器 池田 正編著 (医学書院)
オフィスアワー	随時相談に応じる
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前にテキストの該当部分を確認できればよい。講義資料は必ずファイリングして復習を行うこと。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	上山 直美 堀 陽子	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31202

科目の概要

周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児）にある対象の身体的・心理的特徴を踏まえ、母性看護に必要な援助技術の方法を学ぶ。具体的には対象者の看護上の問題や医療上の問題、生活上の問題の理解と対象者の周産期における基本的なセルフケアの援助について学ぶ。

到達目標

- ・周産期に関わる援助ができる。
- ・看護実践に共通する周産期のヘルスアセスメント、記録報告、感染予防、ボディメカニクス、教育・指導に関わる技術がわかる。
- ・周産期のフィジカルアセスメントおよび心理、社会的な側面におけるアセスメントができる。（身心の変化の把握と判断ができる）
- ・周産期の基本的技術の目的・必要性を認識し正確な技術を用いることができる。
- ・看護過程の展開ができる。
- ・問題解決思考に基づく看護の展開ができる。
- ・母子関係に着目した看護の展開を理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	妊娠期のヘルスアセスメント① 妊婦の全身状態の観察とアセスメント
第2回・AL	分娩期のヘルスアセスメント① 分娩経過の観察、呼吸法と補助動作
第3回・AL	妊娠期のヘルスアセスメント② 妊婦健康診査にともなう技術
第4回・AL	産褥期のヘルスアセスメント① 退行性変化、進行性変化
第5回・AL	新生児のヘルスアセスメント① バイタルサイン測定、全身状態の観察更衣、おむつ交換
第6回・AL	新生児のヘルスアセスメント② 更衣、おむつ交換
第7回・AL	実技演習のまとめ
第8回・AL	看護過程の展開① 妊娠期の事例
第9回・AL	看護過程の展開② 分娩期の事例
第10回・AL	看護過程の展開③ 産褥期の事例－1
第11回・AL	看護過程の展開④ 産褥期の事例－2
第12回・AL	看護過程の展開⑤ 産褥期の事例－3
第13回・AL	看護過程の展開⑥ 新生児期の事例－1
第14回・AL	看護過程の展開⑦ 新生児期の事例－2
第15回	看護過程の展開⑧ 新生児期の事例－3
第16回	看護過程の展開⑨ 事例の統合
第17回	母性Ⅳまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験（40%）、授業中のプリント（20%）、課題（30%）
教科書	母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践 大平光子他 編集（南江堂） 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 編著；北川真理子，谷口千絵（メヂカルフレンド社）（照林社）
参考文献	カラー写真で学ぶ周産期の看護技術、妊産褥婦のケア、新生児の観察と看護技術、櫛引美代子著（医歯薬出版） 『今日の助産』北川真理子・内山和美 編（南江堂）
オフィスアワー	随時相談に応じる
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	母性看護学Ⅱ・Ⅲで使用した資料を参考にすること
備考	母性看護学実習に必要な技術です。予習・復習をしっかりと行い対象に安全なケアが提供できるようにしましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
精神看護学Ⅰ (精神保健)	八田 勘司	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21107

科目の概要

精神看護学とは何かを学ぶ上で理解しておくべき基本的知識を身につける。心の健康・不健康について考える。精神科患者への接し方を身につけ、精神症状のとりえ方やよくみられる精神症状を理解する。また、カウンセリングや精神療法としての芸術療法について学ぶ。精神鑑定や精神医療の法制度を知る。職場におけるメンタルヘルスの保持・増進について学び、さらに自殺予防についても、グループ討議を行い、理解を深める。

到達目標

- ・防衛機制について説明することができる
- ・精神科患者への接し方について述べるができる
- ・よくみられる精神症状を説明できる
- ・メンタルヘルスの保持・増進について説明できる
- ・自殺予防について説明できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、精神看護学とは 心の健康・不健康
第2回・AL	精神医学と看護の歴史
第3回・AL	精神医学の基礎となる知識(脳の形態と機能、心の発達理論と防衛機制、心理検査)
第4回・AL	精神科患者への接し方
第5回・AL	精神症状のとりえ方(精神科的面接の方法、精神症状のとりえ方)
第6回・AL	よくみられる精神症状と状態像1(意識・知能・性格の問題、知覚・思考・感情の異常)
第7回・AL	よくみられる精神症状と状態像2、(記憶・意欲・行動・自我意識の異常)
第8回	精神療法とカウンセリング
第9回・AL	中間試験とまとめ(復習)
第10回・AL	芸術療法(アメリカの司法精神病院で行われている芸術療法)
第11回・AL	精神鑑定と精神医療関連の法制度
第12回・AL	産業精神医学(職場におけるメンタルヘルス)
第13回・AL	自殺 グループ討議
第14回・AL	シネマでわかる精神医学 こころの病気とその症状1 「普通の人々」
第15回・AL	シネマでわかる精神医学 こころの病気とその症状2 グループ討議

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験 80%、提出物 20%
教科書	「精神医学テキスト」 上島国利他編 (南江堂)
参考文献	「シネマセラピー上映中」 高橋祥友 (晶文社)
オフィスアワー	授業のある日の昼休み
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習 (次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる・45分) 事後学習 (ノートのポイントを読み直して記憶する 45分)
備考	知的好奇心をもって、積極的にビデオなどで自己学習すること

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅱ (主な精神疾患と精神症状)	八田 勘司	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21108

科目の概要

看護師として、精神疾患を理解するうえで必要な基礎知識を学び、事例を通し精神症状と治療についての看護アセスメント能力を身につける。
主な精神障害について事例を通して、症状や治療について学ぶ

到達目標

- ・疾患の分類と診断基準について概説することができる (DSM、ICD)
- ・代表的な精神障害の疾患の概念、症状、診断、治療について述べることができる。
 - ・睡眠障害 ・認知症性疾患 ・精神作用物質による精神と行動 ・統合失調症 ・気分障害 ・神経症とストレス障害
- ・成人のパーソナリティおよび行動障害

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、睡眠障害
第2回・AL	認知症性疾患
第3回	精神作用物質による精神と行動(狩山)
第4回・AL	統合失調症(概念、疫学、病因、症状、診断、経過、治療)
第5回・AL	気分(感情)障害(概念、症状、診断、治療)
第6回・AL	神経症とストレス障害
第7回・AL	成人のパーソナリティおよび行動障害
第8回・AL	成人のパーソナリティおよび行動障害、まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験 80%、提出物 (小テスト) 20%
教科書	「精神医学テキスト」 上島国利他編 (南江堂)
参考文献	精神疾患ビジュアルブック 落合慈之監修 (学研メディカル秀潤社)
オフィスアワー	授業のある日の昼休み
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	課題をノートにまとめる (1時間) 学習内容を復習する (1時間)
備考	知的好奇心をもって主体的に学ぶこと 参考文献を活用すること

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅲ (施設における援助)	高橋 篤信	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21209

科目の概要

精神疾患について理解し、精神科看護に必要な基礎的知識を学習する。その上で、精神障害への考え方、必要な看護を考えることができる。

到達目標

- ・共感的理解について述べることができる。
- ・プロセスレコードを用いて、自身の関わり方を振り返ることができる。
- ・リカバリー・ストレングス・WRAP について説明することができる。
- ・精神保健福祉法について説明することができる。
- ・薬物療法によって起こる、作用・副作用について 4 つ以上述べることができる。
- ・精神科で用いられる治療法について、3 つ以上述べることができる。
- ・疾患による特徴を理解した上で、必要な看護ケアを考えることができる。
- ・グループワークで、その疾患の特徴、治療、看護についてグループメンバーと協力し、見やすい発表資料を作成するとともに、分かりやすく発表することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	精神疾患患者の理解 対人関係 プロセスレコード
第 2 回	精神保健医療の法制度
第 3 回	精神障害の捉え方(リカバリー、ストレングス、WRAP)
第 4 回	精神科における安全な治療環境の提供(病棟構造、身体拘束、隔離などの行動制限)
第 5 回	精神科で用いられる治療法(1) 薬物療法
第 6 回・AL	グループワーク
第 7 回・AL	精神科で用いられる治療法(2) 作業療法、認知行動療法、SST
第 8 回・AL	統合失調症患者の看護
第 9 回・AL	気分障害患者の看護
第 10 回・AL	器質性精神障害患者の看護
第 11 回・AL	精神作用物質使用による精神行動の障害患者の看護
第 12 回・AL	人格障害患者の看護
第 13 回・AL	精神遅滞と広汎性発達障害患者の看護
第 14 回・AL	神経症、ストレス関連障害患者の看護
第 15 回	映画鑑賞

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	グループワークで 30 点と本試験 70 点の計 100 点
教科書	適宜プリントを配布します。
参考文献	『系統看護学講座専門分野Ⅱ〔1〕精神看護の基礎』『系統看護学講座専門分野Ⅱ〔2〕精神看護の展開』共に武井麻子他著第 4 版 (医学書院) 『看護のための精神医学』中井久夫・山口直彦 (医学書院)
オフィスアワー	随時相談に応じます。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	目標が達成できるよう、各自で考え、自己学習に励んでください。
備考	私語は禁止

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅳ (地域における援助)	美王 真紀	講義	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31101

科目の概要

ノーマライゼーションの観点から、地域における精神障がい者が利用する社会資源やリハビリテーションを知り、精神障がい者の現状を理解する。さらに、今後の課題について自分なりに考えることができる。

到達目標

- ・障害者総合支援法ができるまでの法律の変遷について、大きな流れを理解することができる。
- ・地域精神医療を考えるときに必要な概念について、自分の言葉で説明することができる。
- ・障害者総合支援法の事業内容について説明することができる。
- ・入院中から始まる精神科リハビリテーションの内容を説明することができる。
- ・地域で暮らす精神障害者とその家族の気持ちや立場、状況について自分の考えを述べることができる。
- ・長期入院患者の現状から、自分なりの課題や看護ケアについての考えを述べることができる。
- ・地域精神医療の実際を知り、これからの課題について自分の考えを述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	精神科リハビリテーションとは？, 精神医療に関する法律の変遷
第 2 回	地域精神医療を考えるときに必要な概念 リカバリー、ストレングスなど
第 3, 4 回	地域精神医療を考えるときに必要な概念 WRAP
第 5, 6 回・AL	グループワーク
第 7, 8 回・AL	A) 障害者総合支援法の概要と事業内容(2～3 グループ) 発表
第 9, 10 回・AL	B) A C T (2～3 グループ) 発表
	C) 長期入院患者の現状と課題(2～3 グループ) 発表
第 11, 12 回・AL	D) セルフヘルプグループの効果と限界: アルコール依存症(2～3 グループ) 発表
	E) セルフヘルプグループの効果と限界: 薬物依存症(2～3 グループ) 発表
	F) 精神障害を持つ患者の家族の思い、家族会の現状と課題(2～3 グループ) 発表
第 13, 14 回・AL	G) 精神障害を持つ人の闘病記を読んで(1 グループ) 発表
	H) べてるの家での地域精神医療について(1～2 グループ) 発表
	I) イタリアの地域精神医療の実際(1～2 グループ) 発表
第 15 回	地域における支援の今後の課題とまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	本試験 60% プレゼンテーションと作成資料 40%
教科書	適宜、プリントを配布します。
参考文献	『系統看護学講座専門分野Ⅱ〔1〕精神看護の基礎』武井麻子他著第4版(医学書院) 『系統看護学講座専門分野Ⅱ〔2〕精神看護の展開』武井麻子他著第4版(医学書院) 『看護のための精神医学』中井久夫・山口直彦(医学書院) 『リカバリー 希望をもたらしエンパワーメント』カタナ・ブラウン編(金剛出版)
オフィスアワー	随時相談に応じます
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	目標が達成できるように、各自で考え、自己学習に励んでください。グループ発表では、プレゼンテーション方法も採点に入れますので、周囲の人に伝わるようなプレゼンテーションを考えておいてください。
備考	私語は禁止

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅰ (概論)	上田 裕子	講義	2年次 前期	必修	1	15	KSP21109

科目の概要

地域で生活する在宅療養者及び家族を生活者として捉える視点を養い、個々の価値観や多様な生活様式を尊重できる態度と姿勢を育成する。
 ケアマネジメントによる関係職種や機関と連携・協働し、地域の社会資源を活用しながら在宅生活を支援する看護活動について学ぶ。
 対象者及び家族のニーズや自己決定を損傷した看護実践活動について理解を深める。

到達目標

- ・在宅療養者及び家族の生活状況や多様なニーズ、社会的背景について理解できる。
- ・在宅療養者及び家族に対する看護実践活動における基礎的知識を養う。
- ・保健・医療・福祉専門職の連携・協働によるケアマネジメントの視点を養い、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について説明できる。
- ・保健・医療・福祉制度を理解し、在宅ケアチームについて理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	日本の在宅看護の歴史と現状と地域医療をささえる看護
第2回	在宅看護の倫理と基本理念・在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源
第3回・AL	在宅看護の対象と看護活動の実際
第4回・AL	訪問看護の対象者とその家族への支援
第5回・AL	在宅療養を支える看護:訪問看護の特徴:DVD視聴
第6回・AL	在宅ケアとケアマネジメント
第7回・AL	地域包括ケアシステムにおける関係機関・関係職種との連携と協働
第8回・AL	在宅ケアを支える制度と社会資源:社会資源活用における看護師の役割

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験 100%
教科書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2015
参考文献	国民衛生の動向 在宅看護論 医学書院 2015
オフィスアワー	金曜日 12:30～13:10
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習: 毎回の講義前に該当部分を読んでおいてください 事後学習: 講義後は、学習した内容をまとめてノートを作ってください
備考	対象者は、疾患や障がいを持ちながら地域で生活されている生活者という視点で学習をしてください。 在宅療養者とその家族を支える関係機関や関係職種とのチームケアや連携・協働について学びを深めましょう。積極的な学習態度で臨んでくれることを期待しています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
在宅看護論Ⅱ (訪問看護の展開方法)	藤田 俱子 寺田 准子	講義・演習	2年次 後期	必修	1	15	KSP21210

科目の概要

在宅における生活支援の方法と技術および医療管理を必要とする人とその看護について理解し、訪問看護の実践に生かすとともに看護の役割を学ぶ。具体的には、事例を通して基本的な訪問看護の展開方法を学習する。また、対象者の在宅療養の目標や課題、日常生活や住環境等の状況を理解して、療養者や家族の意向をふまえ、無理なく在宅療養が継続できる看護計画を立案する。

到達目標

- ・生活者として対象を捉え、幅広い情報収集とアセスメントの視点について理解できる。
- ・在宅ケアを支える訪問看護ステーションの概要について理解できる。
- ・本人や家族の生活に合わせた在宅での看護の展開を理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション 在宅看護のアセスメント
第2回	在宅看護の視点
第3回	在宅ケアを支える訪問看護ステーション
第4回	訪問看護における看護過程の特徴
第5回・AL	訪問看護における看護過程の実際(演習1:情報収集・アセスメント)
第6回・AL	訪問看護における看護過程の実際(演習2:計画立案)
第7回・AL	訪問看護における看護過程の実際(演習3:看護記録と評価)
第8回	在宅看護のまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	演習 30% 試験 70%
教科書	在宅看護論 地域医療を支えるケア ナーシンググラフィカ 21 メディカ出版 2015 年
参考文献	新看護観察のキーポイントシリーズ 在宅看護 中央法規出版 2014 年
オフィスアワー	金曜日 12:30～13:10
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：該当部分のテキストを読んでおいてください。毎回 15 分程度を要します。 事後学習：各時間で指示された内容の課題を実施し指示された日時に提出してください。課題によって所要時間は異なります。おおむね 30 分から 1 時間程度を要します。
備考	授業の積極的な取り組みを期待しています。わからないことや確認したいことがあれば毎回の出席カードに質問を記入してください。周囲の学生の迷惑になる行為(私語・スマートフォンなどでのゲームやライン・授業時間内の入退室など)を行わないようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅲ (在宅ケアの演習)	藤田 俱子 寺田 准子	演習	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31303

科目の概要

在宅ケアの実践について教授する。具体的には、在宅療養者の個別の特性に合わせた、日常生活援助について学習する。さらに、在宅ケアで多く見られる、高度な医療技術が必要とされる胃ろう、在宅酸素療法、人工呼吸器、CAPD など、在宅療養生活における必要な援助の理解と療法について学習する。

到達目標

- ・在宅ケアの個別の特性に合わせた日常生活援助について理解できる。
- ・在宅ケアで行われる医療技術とそれらが必要となる対象者の社会資源について理解できる。
- ・在宅ケアで行われる医療技術援助を通じた家族支援について理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	在宅ケアの実践 オリエンテーション
第 2 回	事例を通して理解する在宅ケアの実践①
第 3 回	事例を通して理解する在宅ケアの実践②
第 4 回	事例を通して理解する在宅ケアの実践③
第 5 回	事例を通して理解する在宅ケアの実践④
第 6 回・AL	事例にみられた医療技術の理解①
第 7 回・AL	事例にみられた医療技術の理解②
第 8 回・AL	事例にみられた医療技術の理解③
第 9 回・AL	事例にみられた医療技術の理解④
第 10 回・AL	在宅療養者に必要な社会資源の理解 日常生活援助と療養環境
第 11 回・AL	在宅療養者に必要な社会資源の理解 日常生活援助と福祉用具
第 12 回・AL	ロールプレイを通じた在宅ケアにおける訪問看護の理解①
第 13 回・AL	ロールプレイを通じた在宅ケアにおける訪問看護の理解②
第 14 回・AL	ロールプレイを通じた在宅ケアにおける訪問看護の理解③
第 15 回	在宅ケアのまとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	演習 30% 試験 70%
教科書	在宅看護論 地域医療を支えるケア ナーシンググラフィカ 21 メディカ出版 2015 年
参考文献	新看護観察のキーポイントシリーズ 在宅看護 中央法規出版 2014 年
オフィスアワー	金曜日 12:30～13:10
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：テキストの該当部分を読んでおいてください。毎回 15 分程度を要します。 事後学習：授業時間内に指示された課題を指示された日時に提出してください。おおむね 30 分～1 時間程度を要します。
備考	授業の積極的な取り組みを期待しています。わからないことや確認したいことがあれば毎回の出席カードに質問を記入してください。周囲の学生の迷惑になる行為(私語・スマートフォンなどでのゲームやライン・授業時間内の入退室など)を行わないようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)	上田 裕子	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

在宅療養者と家族が住み慣れた地域に安心して生活できるように、フォーマルサービス及びインフォーマルサービスを含めた地域包括ケアシステムにおける多職種の連携と協働について学ぶ。
在宅療養者及び家族を取り巻く支援のネットワークの構築方法とそのなかでの看護職の具体的な支援内容や役割について理解を深める。

到達目標

- ・在宅療養者及び家族を取り巻くフォーマルサービスとインフォーマルサービスについて説明できる。
- ・在宅療養者及び家族を支援するネットワークの構築や多職種との協働と連携について理解できる。
- ・地域包括ケアシステムの概要と看護職の役割を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域包括ケアシステムと在宅ケア
第2回	地域包括ケアと保健・福祉・医療の連携
第3回	地域包括支援センターの機能と役割及び地域支援事業
第4回・AL	地域包括ケアと地域ケア会議
第5回・AL	継続看護と退院調整・退院支援マネジメント
第6回・AL	介護保険制度とケアマネジメント
第7回・AL	障がい者総合支援法とケアマネジメント
第8回・AL	地域におけるシステムとネットワークの構築と多職種との連携・協働の推進
第9回・AL	在宅ケアにおける危機管理(リスクマネジメント)
第10回・AL	訪問看護の災害危機管理と在宅療養者支援のための地域連携
第11回・AL	事例にみる在宅看護:在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある高齢者のネットワーク (演習)
第12回・AL	事例にみる在宅看護:被虐待が疑われる認知症高齢者を見守るネットワーク (演習)
第13回・AL	事例にみる在宅看護:在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS療養者のネットワーク (演習)
第14回・AL	事例にみる在宅看護:在宅での生活を希望する精神障がい者のネットワーク (演習)
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験 100%
教科書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
参考文献	講義中に適宜、紹介する
オフィスアワー	金曜日 12:30～13:10
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習:講義の該当部分を事前に読んでおいてください。 事後学習:講義で指摘した重要ポイントは、教科書にマーカーをひきノートにもまとめておいてください。
備考	多様な生活様式や価値観をもつ対象者とその家族に対応できるように、柔軟な思考力をもって対象を捉えてほしいと思っています。また、多職種と連携・協働するためのネットワークの構築について学習します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
看護と芸術Ⅰ－① (絵画療法)	木村 千尋	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32201

科目の概要

写真を撮る、絵を描く、作品を見るという作業は、患者のストレス発散になったり、表現の喜びを知り自信が回復する。また、描くことで言葉では表れない自己の感情を示し、それを通して患者の心理状態を知り、コミュニケーションを取ることができ、治療に繋げる。アートを学ぶとともに、精神医学、心理統計の基礎知識を学習する。模擬カウンセリング演習を通して、その問題・事例の対処法を習得する。

到達目標

臨床芸術療法の絵画技法を身につけて、自身のセルフケアに。患者にも、カウンセリング技法、コミュニケーションをスムーズに活用する能力を付けることを目的とします。ホスピタルアートを自ら描けるように。又、病院内での絵画を選ぶ事を身につけます。院内の色彩計画の注意点の知識を持ちます。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	オリエンテーション 芸術療法とは？
第2回・AL	臨床芸術療法と看護の意識
第3回・AL	色彩心理学概論 心理チェックシート
第4回・AL	カウンセリング導入と絵画療法
第5回・AL	臨床芸術療法 樹木画
第6回・AL	臨床芸術療法 家屋画
第7回・AL	臨床芸術療法 人物画
第8回・AL	風景構成法
第9回・AL	医療と癒しのリズム
第10回・AL	視覚コミュニケーションとホスピタルアート
第11回・AL	ファシリテーションの方法
第12回・AL	コラージュ療法
第13回・AL	看護に使う具体的事例
第14回・AL	コラージュワーク
第15回・AL	グループワーク実習

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート（80%）、成果物（20%）
教科書	プリント随時配布
参考文献	適宜紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前：第14回コラージュワークの事前に切り抜き準備
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
看護と芸術Ⅰ－② (音楽療法)	武田倫衣子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32202

科目の概要

音楽療法とは、クライアントの心身の治療・機能維持・生活の質の向上等のために音楽を用いる治療法であり、病院・障がい者（児）施設、高齢者施設など、看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている。今日の音楽療法は資格を有する音楽療法士によって行われるのが主流になりつつあるが、看護師をはじめ他の医療スタッフが音楽療法を正しく理解し、またセッションに参加することは、クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる。クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師として、音楽療法とどう積極的に関わっていくかを学び、考え、実践する。

到達目標

音楽療法の基礎を学び、臨床現場で用いられているアクティビティ（ハンドベル、ドラムサークル、ソングライティング等）を体験することによって、音楽療法のもたらす効果について理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回・AL	音楽療法の概要と歴史 ①
第2回	音楽療法の概要と歴史 ②
第3回・AL	心身障がい者(児)のための音楽療法 ①
第4回	心身障がい者(児)のための音楽療法 ②
第5回・AL	精神科における音楽療法 ①
第6回	精神科における音楽療法 ②
第7回・AL	高齢者施設における音楽療法 ①
第8回	高齢者施設における音楽療法 ②
第9回・AL	緩和ケア病棟・ホスピスにおける音楽療法
第10回・AL	神経学的リハビリテーションにおける音楽療法
第11回・AL	その他いろいろな音楽療法
第12回・AL	音楽療法といろいろな代替療法
第13回・AL	音楽療法の実践 ①
第14回・AL	音楽療法の実践 ②
第15回・AL	総括(ショートプレゼンテーション)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	学期末のショートプレゼンテーション (40%) 小テスト (30%) 授業・アクティビティへの参加度 (30%)
教科書	特になし 必要に応じてプリント随時配布
参考文献	その他必要に応じて適宜紹介する。
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：次回の講義内容の要点(プリント配布)を読んでおく・30分 事後学習：授業の要点(プリント配布)を復習する・30分
備考	音楽に興味があることが望ましい。音楽能力や経験(楽器の演奏能力や楽譜の読解力など)は一切関係なし。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
看護と芸術Ⅰ－③ (笑い療法)	八田 勘司	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32203

科目の概要

くったくのない笑顔を見ると、私たちはなんとも言えない温かさや癒しを感じて、無条件に心を許し、開きたくなる。その典型が赤ちゃんの微笑みです。笑いは相手の不安や緊張をほぐし、心に潤いや穏やかさをもたらす。人の心と心をつなぐ、極めて重要なコミュニケーションの道具です。歌や楽器演奏で心を和ませ、大道芸を楽しみ、笑顔で盆踊りを踊って脳を活性化させれば、疲れたところは癒され、新たな活力が生まれます。笑い療法をグループで企画をして、医療や福祉現場で実践をして、さらに評価することを体験学習によって楽しく学びます。看護の場面で役立つ笑いをういた心のケアを学びます。

到達目標

- ・笑いや笑顔の健康やコミュニケーションへの効果について説明できる
- ・アジアの民族音楽、大道芸のショー、盆踊りなどをみて自ら楽しむことができる
- ・グループメンバーと協力して、「ちんどんセラピー」を企画し、施設で実際に実演して評価考察ができる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス
第2回	笑い与健康
第3回	看護とちんどんセラピー(高齢者へのアプローチと研究)
第4回・AL	ちんどんセラピー①アジアの楽器と音楽(馬場)
第5回・AL	ちんどんセラピー①アジアの楽器と音楽(馬場)
第6回・AL	ちんどんセラピー②大道芸ショー、(パントマイム、バルーンアート、マジックなど)
第7回・AL	ちんどんセラピー②大道芸の演じ方(クラウンメイク、バルーンアート、マジックなど)
第8回・AL	ちんどんセラピー③盆踊りの実演
第9回・AL	現地地下見調査
第10回・AL	癒しのちんどんプログラム作成、役割分担
第11回・AL	リハーサル①
第12回・AL	リハーサル②
第13回・AL	フィールドワーク①
第14回・AL	フィールドワーク②
第15回・AL	まとめ(スライドショー)実践の評価

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	グループへの参加度(20%)、レポート(80%)
教科書	特になし
参考文献	「笑いの世紀」(創元社) 日本笑い学会編
オフィスアワー	授業のある日の昼休み
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習(次回の課題を文献で調べて、ノートにまとめる・45分) 事後学習(プリントのポイントを読み直して記憶する 45分)
備考	笑い、音楽、大道芸、踊りなどに興味・関心があることが望ましい

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
看護と芸術Ⅰ－④ (セラピーメイク)	中井美賀子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32204

科目の概要

今、看護現場でもメイクアップの力が求められています。私たちは毎日、肌の手入れやヘアスタイルを整えています。実はこうした身だしなみを整える化粧行動は、外観への効果だけではありません。外観を整えることで前向きで明るく行動的になるなど、心理面にも良い影響があることがさまざまな研究で明らかになってきています。化粧による心理的な効果が「化粧療法」として確立され医療現場でも広く取り入れられています。その化粧療法に必要なメイクの知識と技術、カウンセリングやアドバイスなどのメイクを通したコミュニケーションについて学びます。

到達目標

看護師としての身だしなみでもある「セルフメイク」人に寄り添う医療のための「セラピーメイク」看取りの際におこなう「エンゼルメイク」この3つの知識・技術・メイクコミュニケーションを、グループワークやペアワークなどを通して実践で使えるように習得します。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画	
第1回	オリエンテーション	メイクと心の関わりについて セラピーメイクの必要性について
第2回・AL	メイクアップ基礎	皮膚理論・スキンケア(グループワーク)
第3回	メイクアップ基礎	ファンデーション
第4回	メイクアップ基礎	眉の形作りと描き方
第5回	メイクアップ基礎	アイメイクの形作りと塗り方
第6回・AL	メイクアップ基礎	チーク・リップの形作りと塗り方(ディスカッション)
第7回・AL	メイクアップ基礎	色の効果と立体感・肌悩み解決や肌色に合う色の選び方(グループワーク)
第8回	メイクアップ応用	エイジレスメイク 若々しく見えるメイク
第9回	メイクアップ応用	顔分析メイク 左右のパーツの違いをそろえるメイク
第10回	メイクアップ応用	敏感肌用メイク アトピー性皮膚炎や敏感肌のメイク
第11回・AL	メイクアップ応用	ニキビ用メイク ニキビ肌・ニキビ痕のメイク(グループワーク)
第12回	メイクアップ応用	カバーメイク アザや傷跡のメイク
第13回	メイクアップ応用	エンゼルメイク 基礎
第14回・AL	メイクアップ応用	エンゼルメイク 応用 (ディスカッション)
第15回	まとめと試験	

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	小テスト (30%) 学期筆記試験 (70%)
教科書	授業内で配布するセラピーメイクテキスト
参考文献	無し
オフィスアワー	授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	セラピーメイクテキストの予習 30分 セラピーメイクテキストの復習 30分
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－⑤ (陶芸療法)	上田 順平	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32205

科目の概要

芸術療法の理解を目的として、陶芸制作に実践的に取り組みながら考察します。そして、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を、焼きものをつくることで体感し、その重要性を認識します。

到達目標

- ・基礎的な焼きものの技術や制作過程を学ぶと共に、ものづくりの楽しさを自ら発見して、何かに熱中する機会を持つことを目指します。
- ・こちらの働きかけにより絶えず変化し続ける土と向き合うことで、他者との関わり方を学びます。
- ・窯詰め、窯出し等の作業を協同で行うことにより、協調性を育みます。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回、第2回	手びねり技法を学び、手びねりにてカップやお茶碗、立体作品等を制作します。
第3回、第4回	乾燥した、カップやお茶碗、立体作品等の削り作業を行います。
第5回、第6回	粘土の塊から立体を制作し、内部をくり抜き繋ぎ合わせて立体作品、土鈴、貯金箱等を制作します。
第7回、第8回	交代制で電動ロクロを使用し、カップやお茶碗、立体等を作ります。
第9回、第10回	乾燥した作品の仕上げ作業の後、素焼きの窯詰めをして、釉薬の種類を学びます。
第11回、第12回	素焼きした作品の窯だしを行い、絵付けをして、釉薬をかけます。
第13回、第14回・AL	本焼きの窯詰めをして、窯焚きをします。
第15回・AL	自身の作品について各自プレゼンテーションを行い、意見交換する講評会を行います。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物（制作した作品の完成度、表現力等）100%
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	放課後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと（1時間） 講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に生かせるようにすること（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅱ (治療環境とアメニティ)	植松・木村 北澤・炭釜	講義	4年次 後期	必修	2	30	KSP41101

科目の概要

環境のもたらす各種影響は、事故や病気を未然予防したり、抑制したり、進行させたりする。また、患者の闘病（回復）意欲にも影響をおよぼすなど、人とそれを取りまく環境はたがいに密接な繋がりをもっている。したがってここでは、多種多様な領域に跨がり、具体例をもって講義編成する。

到達目標

患者中心の医療環境を整えようとする場合、そこに心やすらぐ環境は必須である。空間、家具、絵画、衣服、ピクトグラム（絵文字）、色彩などを工夫するアメニティ効果の視点が期待される。また、子供に夢と希望と安心を提供する子供病院づくりに関しても、ふさわしい外観、インテリアデザイン等々、また廊下や診察室にかざる絵、イラスト例をとっても、工夫が必要である。この科目では、総合反応体としての人間が、いかに環境要素によって生かされているかを分析、理解することを目的としている。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	コミュニケーションとデザイン（植松）
第2回・AL	ビジュアルデザインの基本（植松）（グループワーク）
第3回・AL	モノ・コトを考える1（植松）（グループワーク）
第4回・AL	モノ・コトを考える2（植松）（グループワーク）
第5回	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現1（木村）
第6回・AL	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現2（木村）（グループワーク）
第7回・AL	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現3（木村）（グループワーク）
第8回・AL	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現4（木村）（グループワーク）
第9回	インテリアデザインの基本（北澤）
第10回	病院のインテリアデザインについて（北澤）
第11回・AL	病室空間を考えるワークショップ（北澤）（グループワーク）
第12回・AL	病室空間を考えるワークショップ（北澤）（グループワーク）
第13回	ユニバーサルデザインとは（炭釜）
第14回・AL	ユニバーサルファッションとは（炭釜）（グループワーク）
第15回・AL	医療とファッション デザインと機能性について（炭釜）（グループワーク）

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポートもしくは作品および発表
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	授業終了後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	医療環境における様々なデザインをリサーチ、分析 各 2 時間
備考	授業はオムニバス形式 1 回 2 コマの授業

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護教育学	峯岸由紀子	講義	4年次後期	選択	1	15	KSP42101

科目の概要

看護師は、患者・家族を対象とした健康教育に携わり、後輩や実習生に対しても教育指導を行う。また専門職業人として自分自身の学習について理解し、キャリアを磨いていくことが求められる。本科目では、このようなさまざまな場面における教育指導実践に必要な、教育学の概念と具体的な技法について学ぶ。

到達目標

- ・看護の対象である人の発達と学習の特徴について説明できる。
- ・患者の健康教育における指導の基本を説明できる。
- ・効果的に指導を進めるうえで活用するさまざまな技法を理解できる。
- ・キャリア開発において必要な学習のあり方を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、学ぶことと教えること、人の発達と学習の特徴
第2回・AL	学習の原理 グループワーク「知識・技能・態度の習得を促すには」
第3回・AL	指導者の役割と姿勢、指導の設計、効果的な指導法 グループワーク「学習目標の設計」
第4回・AL	学習の評価、学習意欲を高める技法 グループワーク「学習意欲を高めることのできた経験について」
第5回・AL	コミュニケーションの技法、コーチング グループワーク「コーチングのシミュレーション」
第6回・AL	ディスカッションの技法、グループワーク「テーマを決めてディスカッションする」
第7回・AL	看護師としての学習を理解する グループワーク「経験学習のシミュレーション」
第8回	キャリア開発に向けての学習、まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験 50%、提出物 50%（グループワークのレポート等）
教科書	なし
参考文献	『看護のための教育学』中井俊樹・小林忠資（編著）、（医学書院） 『看護現場で使える 教育学の理論と技法』中井俊樹（編著）、（メディカ出版）
オフィスアワー	授業のなかで通知する
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：とくに必要なし 事後学習：配布資料を復習し、自分自身の実践に活用する
備考	4年生の後期の選択科目である。この時期には、国家試験の準備や就職活動など、目標に向けて自分自身を鼓舞しなければならない。また、就職した後の自分の立場や、受けていく教育には未知の部分が多く、不安をいだく学生がいると考えられる。この科目は、そのような状態にあって、目標達成の意欲を持続するのに、また就職後のキャリア開発に有用な内容である。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
看護マネジメント学Ⅰ (リスクマネジメント)	石田紀代美	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31102

科目の概要

医療は患者中心に提供されるものであり、安全性が100%保障されなければならない。しかし、医療・看護が人間によって行われる限りエラーをゼロにすることは非常に困難なことである。近年の医療は専門化・細分化・高度化・複雑化しており、プロフェッショナルとしての倫理観や責任感を備えていても、個々人の注意だけでは医療事故を防ぐには限界があり、徹底したチーム医療と施設としての医療事故予防システムの構築が重要である。医療を安全に提供する為の体制や対処システムについてまた、安全に臨地実習に取り組むための注意点などについて学習する。

到達目標

- ・医療安全とリスクマネジメントの概念を理解できる。
- ・看護における安全対策、看護業務上の危険と防止対策が理解できる。
- ・隣地実習時におけるリスクと安全について理解し、自らの防止対策について考えることが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	医療安全と看護の責務
第2回	医療安全施策と医療の質の評価
第3回	事故発生のメカニズムと防止対策;事故発生のメカニズム、事故分析について
第4回	医療機関における安全対策;病院としての安全対策の取り組みについて
第5回	医療機関における安全対策;事故の原因の分析と対策の検討⇔GW
第6回	医療機関における安全対策;患者・家族と協働による取り組み⇔GW
第7回	医療機関における安全対策;医療安全文化の醸成について
第8回	在宅看護における安全対策;在宅看護の現状と提供の場を通して起こりうる事故発生
第9回	看護における安全対策;看護業務と事故の種類と安全対策について
第10回	看護における安全対策; 同 じ
第11回	医療事故後の対応
第12回	看護業務上の危険と防止策;感染の危険を伴う病原体への暴露、電離放射線・抗がん剤の被曝
第13回	看護業務上の危険と防止策;スタンダードプリコーション⇔感染管理認定看護師と演習
第14回	看護学生の実習と安全;習得すべき看護技術のリスクと安全
第15回	看護学生の実習と安全;実習における安全について⇔GW

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験 (100%)
教科書	看護の統合と実践 (2): 医療安全 第2版 編者; 松下由美子他 メディカ出版
参考文献	なし
オフィスアワー	授業終了後 30 分
事前学習 (内容・時間) 事後学習 (内容・時間)	教科書を授業計画に沿って事前学習しておく。
備考	医療安全管理室副室長とともに授業を進めますので、授業の組み合わせを変更することもあります。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ
看護マネジメント学Ⅱ (看護管理)	嶋田加壽代 峯岸由紀子	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42103

科目の概要

管理論の発展過程、主要概念、組織論等の「管理」についての基本概念を教授する。組織の中で顧客中心思考の看護管理を行うための考え方と実際、組織の活性化と人材育成、管理者の役割と責任等を論議し、看護管理の基礎的能力を養う。看護行為は医療行為と連携して行われるものであり、医療におけるサービスの本質を踏まえ、顧客満足の視点とそのマネジメントの関係を理解する。

到達目標

- ・医療・看護における看護師としての調整能力やリーダーシップ及びマネジメントに関する知識を獲得する。
- ・臨床現場での看護管理の実際を理解することが出来る。
- ・グループワークを通して、学んだことを言語化し、共有することでコミュニケーション能力・チームワーク能力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護とマネジメント:看護管理学とは、マネジメントとは、看護におけるマネジメントとは、
第2回	看護ケアのマネジメント:看護ケアのマネジメントと看護職の機能、患者の権利の尊重、安全管理、チーム医療
第3回・第4回	看護サービスのマネジメント:看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント、看護サービス提供の仕組みづくり、施設設備環境のマネジメント、物品のマネジメント、情報のマネジメント、組織におけるリスクマネジメント、サービスの評価
第5回	看護を取り巻く諸制度:看護の定義、看護職、看護実践の領域と場、医療制度
第6回	マネジメントに必要な知識と技術:組織とマネジメント、リーダーシップとマネジメント、組織の調整、組織と個人(演習)
第7回	看護管理の実際1:看護と経営、看護の質の保証と看護管理、看護実践の評価と改善
第8回	看護管理の実際2:施設、災害時 と まとめ(演習)
第9回	看護とマネジメント:管理とマネジメント、マネジメントのプロセス、看護ケアと看護サービス
第10回・AL	看護組織論:リーダーシップとフォロワーシップ [グループワーク、発表]
第11回・AL	リスクマネジメント:危険予知トレーニング [グループワーク、発表]
第12回・AL	看護の継続:チームナースング、他職種との協働 [グループワーク、発表]
第13回・AL	看護の専門化:専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 [グループワーク、発表]
第14回・AL	問題解決と意思決定:コンフリクトと交渉 [グループワーク、発表]
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験、授業への参加度、提出物により総合的に評価する
教科書	系統看護学講座『看護管理』 看護の統合と実践1 (医学書院) 2013年1月6日発行
参考文献	適宜紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	随時、必要に応じて課題を出すことがあります。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域リハビリテーション論	三好 弘之	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSP32101

科目の概要

- ・地域リハビリテーションの基本概念と活動課題を理解し、看護職の役割について学ぶ。
- ・地域包括ケアシステムの中核である医療と介護の連携について理解し、多職種との連携方法を学ぶ。
- ・高齢者や障害者にとって地域生活に重要な介護保険や障害福祉サービスの意義・制度・問題点及び高齢者や障害者への支援体制のあり方と問題点を学ぶ。

到達目標

- ・地域リハビリテーションの基本概念について歴史、思想、実践を踏まえて理解できる。
- ・高齢者や障害者が地域で生活するための支援システムについて理解し、各専門職種との連携の場、連携方法を理解できる。
- ・看護職に求められる理念と知識、地域におけるチーム医療の重要性を理解し、自ら実践する基盤を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域医療、コミュニティケア、地域リハビリテーションとは
第2回・AL	地域リハビリテーションに対する基本的な考え方 グループワーク「高齢者や障害者が安心して幸せに暮らすために私ができること・私たちができること」
第3回	地域リハビリテーションの歴史
第4回	地域リハビリテーションの主要な概念（ノーマライゼーション、ICFなど）
第5回	介護保険と地域リハビリテーション
第6回・AL	地域リハビリテーションの実際（高齢者）グループワーク「高齢者の生活をイメージしてみよう」
第7回・AL	具体的事例によるグループワーク（高齢者）
第8回・AL	地域リハビリテーションの実際（身体障害者・知的障害者など）グループワーク「障害者の生活をイメージしてみよう」
第9回・AL	具体的事例によるグループワーク（身体障害者・知的障害者など）
第10回・AL	地域リハビリテーションの実際（精神障害者）グループワーク「精神障害者の生活をイメージしてみよう」
第11回・AL	具体的事例によるグループワーク（精神障害者）
第12回	連携とネットワークづくり
第13回・AL	在宅生活の再構築への支援 グループワーク「私ができること・私たちができること」
第14回・AL	家族への支援 グループワーク「私ができること・私たちができること」
第15回	地域リハビリテーションの今後の課題と総括

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	試験70%、提出物（課題レポートなど）30%
教科書	なし
参考文献	「地域リハビリテーション論」大田仁史編、（三輪書店）・「リハビリテーション看護」奥宮暁子等編、（メディカ出版）「地域包括ケアと地域医療連携」二木立著（勁草書房）など。
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	講義時に出す課題についてレポートを作成すること。
備考	地域のなかで保健・医療・福祉の専門職が連携をとりながら、地域が持っている力をいかに活用して住民を支援していくのかについて、事例やグループワークを用いながらすすめていきたい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
移植コーディネーション論	高原 史郎	講義	4 年次 後期	選択	2	30	KSP42104

科目の概要

臓器移植の実施に際しては多くの職種が関わり、また提供者・受者および家族への精神的ケアや救急医療・終末期医療に関わる医学的・社会的な多種多様な要因が相互に影響している。特に臓器提供の現場では家族が親しい人の死を受け止める精神的援助やグリーフ・ケアなど、現場の医療従事者は医学的な対応だけでなく精神的に成熟した大人としての対応が求められる。この科目ではこれら様々な分野の医学的な学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療を総合的に理解することを目的とする。

到達目標

- ・講義内容の要約を正しく記載できること
- ・臓器移植及び終末期医療に対する自分なりの見解を持つこと

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	臓器移植Ⅰ
第 2 回	臓器移植Ⅱ
第 3 回	我が国の脳死移植の現状
第 4 回	臓器移植Ⅲ
第 5 回	レシピエント・コーディネーターの役割(萩原邦子)
第 6 回	論述試験と解説
第 7 回	わが国の臓器移植の現状-日本臓器移植ネットワークとコーディネーターの役割-
第 8 回	院内コーディネーターの役割
第 9 回	プロキュアメント・コーディネーション
第10回	プロキュアメント・コーディネーション
第11回	救急医学Ⅰ
第12回	救急医学Ⅱ
第13回	臓器移植Ⅳ
第14回	臓器移植Ⅴ
第15回	ラウンドテーブルディスカッション

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート、小テスト及び定期試験での得点成績で評価する。
教科書	『臓器移植とそのコーディネーション基礎から応用まで』 2015 年 6 月 16 日第 1 版第 1 刷（日本医学館） 監修：寺岡 慧、編集：高原史朗・福嶋教偉・横田裕行・芦刈淳太郎・小中節子
参考文献	なし
オフィスアワー	授業日の講義前 10 分～講義終了 30 分後まで
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	教科書を予習（1 時間） 教科書及びレジメの復習（1 時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究の方法	日高・上山・合田 藤田・岩下・片山	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31204

科目の概要

看護研究の必要性とその意義および看護の研究方法について学ぶ。実際に看護に関連する疑問・問題の中から研究課題を抽出し、論理的・科学的思考に基づいた研究方法について教授すると共に、その理解を深める。

到達目標

- ・看護研究の意義と研究方法（文献研究・実験研究・量的研究・質的研究）を理解できる。
- ・看護の現場からのクリニカルクエスチョンを言語化することができる。
- ・仮説を導き出すことができる。
- ・仮説に基づき、変数化すると共に質問紙を設計できる。
- ・質問紙に基づいた変数測定の方法の概要を理解できる。
- ・適切な研究デザインを選択できる。
- ・適切な論文クリティークができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション、看護研究とは何か 論文のスタイル、研究の種類とその違い(藤田)
第2回	研究の実施手順、研究計画書とは何か(藤田)
第3回	量的研究1(合田)
第4回	量的研究2(合田)
第5回	質問紙設計1(日高)
第6回	質問紙設計2(日高)
第7回	質的研究1(岩下)
第8回	質的研究2(岩下)
第9回	研究倫理とは何か(片山)
第10回	クリティークとは何か 文献レビューの方法(上山)
第11回・AL	演習(日高、上山、藤田、合田、岩下、片山)
第12回・AL	演習(日高、上山、藤田、合田、岩下、片山)
第13回・AL	演習(日高、上山、藤田、合田、岩下、片山)
第14回・AL	演習(日高、上山、藤田、合田、岩下、片山)
第15回	まとめ(日高、上山、藤田、合田、岩下、片山)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	学習成果物
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考文献	よくわかる看護研究の進め方・まとめ方－量的研究のエキスパートをめざして 第2版 2011年（医歯薬出版） よくわかる質的研究の進め方・まとめ方－看護研究のエキスパートをめざして 2007年（医歯薬出版）
オフィスアワー	各教員のオフィスアワーに準ずる
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：第1回イントロダクションおよび各講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること。 事後学習：随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること。
備考	4年次の看護の探究に関連する科目であるため、資料を必ず保存し、適宜自己学習を進めるようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護の探究 (看護の統合)	(看護系教員)	講義・演習	4年次 後期	必修	2	60	KSP41201

科目の概要

学生個々の興味と関心に基づくテーマの討議とプレゼンテーションを中心としたゼミナール形式で授業を行い、看護を学問として追求し、看護の将来像が構想できる基礎的能力を養う。

到達目標

- ・看護に関する問題意識を研究課題として提示できる。
- ・文献検索・文献検討ができる。
- ・クリティークした結果をゼミナールで討議することができる。
- ・研究目的を達成するために実現可能な研究計画書を作成できる。
- ・看護研究活動が続けていく上での基本的態度が修得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 第2回・AL ～ 第30回・AL	オリエンテーション 担当教員の指示を基に授業・演習を行う。 *詳細は、「看護の探究(看護の統合)」の手引きによる。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	課題の提出（研究計画書他）、グループワークの参加度
教科書	教科書は特に指定しない
参考文献	適宜紹介する
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーを参照
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前・事後学習：関連文献を、積極的に精読する
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
海外看護活動論	天野 智子 吉井 紀子	講義	4 年次 後期	選択	2	30	KSP42102

科目の概要

グローバル化が急速に進み、他国で起こった健康問題や災害も自国での生活や健康に影響を及ぼすようになった現在、我が国でもグローバルヘルスの理解と国際救援活動や国際看護活動への積極的な取り組みが求められている。本科目では、様々な地域が抱える健康問題とその背景にある多様な文化を理解し、緊急援助や異なる環境下での看護活動についてグループワークを通して学ぶ。

到達目標

- ・世界で直面している健康問題を学び、人々の健康や生活に深く根ざした多様な文化を理解することができる
- ・緊急援助における看護活動を理解することができる
- ・さまざまな異なる環境における看護活動について考えることができる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回・AL	グローバルヘルスの現状と課題（グループワーク）〔吉井〕
第 2 回	ミレニアム開発目標(MDGs)から持続可能な開発目標(SDGs)へ〔吉井〕
第 3 回・AL	国際協力諸機関とその役割（グループワーク）〔吉井〕
第 4 回・AL	貧困が健康に与える影響 ジェンダー、教育、リプロダクティブ・ヘルスの視点から（グループワーク）〔吉井〕
第 5 回・AL	紛争が健康に与える影響 難民・国内避難民が抱える健康問題と課題（グループワーク）〔吉井〕
第 6 回	国際看護活動の実際 JICAボランティアの活動を通して異なる環境における看護を考える〔吉井〕
第 7 回	多文化共生看護 在日外国人の健康問題と外国人看護職との協働を考える〔吉井〕
第 8 回	緊急援助における看護活動①
第 9 回	緊急援助における看護活動②
第10回・AL	異なる環境での看護活動①（グループワーク）
第11回・AL	異なる環境での看護活動②（グループワーク）
第12回・AL	異なる環境での看護活動③（グループワーク）
第13回・AL	異なる環境での看護活動④（グループワーク）
第14回・AL	異なる環境での看護活動⑤（グループワーク）
第15回	国際災害看護活動の実際

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験（40%）、コメントシート（20%）、グループワークおよびグループ発表（40%）で評価します
教科書	看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学（第3版）編集：浦田喜久子／小原真理子
参考文献	国際看護学 看護の統合と実践 開発途上国への看護実践をふまえて 編著：柳澤理子 災害看護関連書籍
オフィスアワー	講義日の休憩時間および前後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	成人看護学Ⅱ（急性期）災害医療で学んだ包帯法などの講義演習資料を読み直し復習しておくこと。 教科書に目を通しておくこと。 ニュースなど国際的な情勢や健康問題に関する情報を収集しておくこと。
備考	指定教科書は必ず購入すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅰ (対象理解)	峯岸・澤田・假谷	実習	1年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

看護場面の見学を通して、看護の機能や役割について知ることをねらいとする。また、実習にあたっては、主体的に取り組み、看護への興味や関心をもつことに加え、看護職者として必要な倫理的態度を養う。

到達目標

- ・看護の機能や役割を知る。
- ・主体的に学習し、看護への興味・関心を深める。
- ・看護職者として必要な倫理的態度を学ぶ。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅰ(1週間) 1年次 平成28年8月29日(月)～9月2日(金) 平成28年9月5日(月)～9月9日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。 関西電力病院 独立行政法人労働者健康福祉機構 神戸労災病院 医療法人 協和会 協立病院 独立行政法人 地域医療推進機構 星が丘医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	実習日は、その日の実習終了後
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	基礎看護学Ⅰ(概論)で学んだ「看護の本質と看護の役割・機能」と基礎看護学Ⅱ「コミュニケーション技術」について復習しておくこと。 自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	峯岸・澤田 假谷・大内	実習	2年次 後期	必修	2	90	KSP21401

科目の概要

患者を受け持ち、看護上の問題を解決する思考プロセスを展開する基礎的能力を修得する。

到達目標

- ・情報収集から解釈・分析までのアセスメントができる。
- ・看護上の問題を明確化できる。
- ・看護計画の立案ができる。
- ・看護計画を実施することができる。
- ・アセスメントから看護計画までの一連の過程を評価することができる。
- ・受け持ち患者との関わりを振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。
- ・看護職者に必要な倫理的な行動をとることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅱ(2週間) 2年次 平成29年2月17日(金)～2月28日(火) 平成29年3月2日(木)～3月13日(月) ○実習施設:下記のいずれかで行う。 関西電力病院 医療法人 協和会 協立病院 独立行政法人 地域医療推進機構 星が丘医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	基礎看護学Ⅳ(看護過程)で学んだ内容や事例を復習しておくこと。また、人体構造機能論Ⅰ・Ⅱや病態治療学Ⅰ、薬理学、基礎看護学Ⅳ-1・Ⅳ-2、基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)で学んだ知識や技術を復習しておくこと。 今後の学習への動機づけとなるように自己の課題を明確にする。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期)	瀬川・山口・岩下真・ 片山・佐藤	実習	3年次後期 4年次前期	必修	3	135	KSP31401

科目の概要

健康障害を持つ成人期を対象とし、成人の発達課題や健康レベルの理解を深め、対象の健康に関わる顕在的、潜在的能力が最大限に発揮できるよう援助するための基礎的能力を身につける。急性期・回復期の患者を受け持ち、各経過の特徴を理解し、看護上の問題を把握し解決する。

到達目標

- ・急性期・回復期にある患者を多面的に理解できる。
- ・手術を受ける患者の看護上の問題を把握し、術後の回復期に向けた看護計画を立案し、実践・評価ができる。
- ・周手術期における看護の継続性の重要性を理解できる。
- ・周手術期における患者を支援する医療チームの一員であることを自覚し、他の医療従事者との連携や協働の重要性と、看護師の役割や機能が理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅰ(3週間) 3年次 平成28年10月17日(月)～3月10日(金) 4年次 平成29年5月8日(月)～7月7日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。 ・関西電力病院 ・公益財団法人 唐澤記念会 大阪脳神経外科病院 ・公益財団法人 田附興風会医学研究所 北野病院 ・社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 成人看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 成人看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時相談に応じる。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	・事前学習:成人看護学実習要項に記載している事前学習内容をしっかり学習すること。 ・事後学習:実習で受け持った患者の病態や実習中に理解できなかったことを振り返り学習すること。
備考	積極的な姿勢で実習に臨むようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	瀬川・山口・岩下真・ 片山・佐藤	実習	3年次後期 4年次前期	必修	3	135	KSP31402

科目の概要

健康障害を持つ成人期を対象とし、成人の発達課題や健康レベルの理解を深め、対象の健康に関わる顕在的、潜在的能力が最大限に発揮できるよう援助するための基礎的能力を身につける。慢性期・終末期の患者を受け持ち、各経過の特徴を理解し、看護上の問題を把握し解決する。

到達目標

- ・慢性期・終末期にある患者を総合的に理解することができる。
- ・慢性期・終末期にある患者の看護上の問題を把握し。生活の再構築・再調整に必要な看護援助を計画・実施・評価ができる。
- ・慢性期・終末期にある患者を支援する医療チームの一員であることを自覚し、他の医療従事者との協働の必要性と、看護者の役割や機能を理解することができる。
- ・慢性期・終末期にある患者の看護に必要な社会資源について理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅱ(3週間) 3年次 平成28年10月17(月)～3月10日(金) 4年次 平成29年5月8日(月)～7月7日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。 ・関西電力病院 ・公益財団法人 唐澤記念会 大阪脳神経外科病院 ・公益財団法人 田附興風会医学研究所 北野病院 ・社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時相談に応じる。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	・事前学習:成人看護学実習要項に記載している事前学習内容をしっかり学習すること。 ・事後学習:実習で受け持った患者の病態や実習中に理解できなかったことを振り返り学習すること。
備考	積極的な姿勢で実習に臨むようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学実習	原田 俊子	実習	3 年次後期 4 年次前期	必修	4	180	KSP31403

科目の概要

高齢者の生活を、施設内から家庭・地域までの広い視野でとらえ、高齢者への対応を学ぶ。また、様々な健康レベルにある高齢者を対象に、対象の健康にかかわる顕在的・潜在的能力が最大限に発揮できるように援助するための、基礎的能力を身につける。
 実習は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設において、老年期にある対象の個別的な環境や成長発達過程を理解し、老年期にある人が、生き生きと暮らせるための看護援助を考え実践する。また、健康障害を持つ高齢者を受け持ち、問題解決技法を用いて看護を展開する。具体的には、対象者を全人的に把握すると共に援助計画を立案し、その人らしさを保てる援助を行う。実習を通して、老年観及び老年看護に対する自己の考えを表現することができるように取り組む。

到達目標

- ・高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を捉え記述することができる。
- ・高齢者の特徴を基盤に、受け持ち患者の個性を踏まえたアセスメントができる。
- ・高齢者の特徴を踏まえて看護上の問題を明確に記述することができる。
- ・高齢者の看護上の問題の解決に向けてその人らしさを配慮した看護計画を記述することができる。
- ・高齢者の特徴を踏まえ看護計画に基づいた看護実践を行うことができる。
- ・実践した看護を評価し、今後の課題を記述することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 実習期間:平成28年10月3日(月)～平成29年6月30日(金) 1. 老年看護学実習①(1週間) 3 年次 平成28年10月3日(月)～10月7日(金) 平成29年1月9日(月)～1月13日(金) 平成29年5月8日(月)～5月12日(金) 2. 老年看護学実習②(3週間) 3 年次 平成28年10月10日(月)～12月23日(金) 平成29年1月16日(月)～3月24日(金) 4 年次 平成29年5月15日(月)～6月2日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。 1. 老年看護学実習②:豊泉家桃山台、清和香櫨園、江之子島コスモス苑、錦秀苑 2. 老年看護学実習①:阪和病院、笹生病院、多根脳神経リハビリテーション病院 その他に事項および実習の詳細については、別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 老年看護学実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 老年看護学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	担当教員にアポイントをとってください。
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	講義の理解を助けるための学習内容を課題として作成する。 講義終了後に講義内容の理解を深めるために振り返りとして課題を出し作成する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学実習	合田 友美 西田 千夏 福島 美幸	実習	3 年次後期 4 年次前期	必修	2	90	KSP31404

科目の概要

臨地実習を通して、子どもの成長発達や日常生活を認識するとともに、対象を身体的、精神・心理的、成長発達からアセスメントし、総合的にとらえることができる。また、子どもとその家族の看護上の問題を明確にし、対象に適した看護職提供できるような支援能力を養う。

到達目標

- ・対象者の健康上の問題を、発達特性を踏まえて理解できる。
- ・対象者とその家族の生活環境について理解し、その影響を考えることができる。
- ・対象者の看護上の問題を、問題解決のプロセスにより解決できる。
- ・対象者の発達段階及び健康上の問題に応じた生活行動の援助について、安全を考慮した方法で行うことができる。
- ・家庭療養中にある対象者と家族の生活行動を理解することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 小児看護学実習(2週間) 3年次 平成28年11月7日(月)～12月16日(金) 平成29年1月9日(月)～3月17日(金) 4年次 未定 ○実習施設:下記のいずれかで行う。 公益財団法人 田附興風会医学研究所 北野病院 東大阪市立総合病院 社会医療法人 愛仁会 高槻病院 社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会中津病院 兵庫県立尼崎総合医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 小児看護学実習実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 小児看護学実習実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習:2年次に提示した「事前学習課題(成長発達、小児に起こりやすい症状のメカニズム、主な小児疾患、検査・治療)」を実習初日に提出してください。
備考	国家試験の過去問題について、実習の前後に確認するようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学実習	溝口 全子 上山 直美 堀 陽子	実習	3 年次後期 4 年次前期	必修	2	90	KSP31405

科目の概要

周産期における看護の実践活動を通し、妊婦、産婦、褥婦とそのパートナー、新生児、および家族への支援に必要な実践能力を養う。また、女性のライフステージにおける健康問題については看護過程に基づきセルフケアが維持、促進できるよう援助を展開する。援助は病院のみならず地域（助産院）の活動を通し、また女性のライフサイクル全般にわたる健康支援の方法については「がん患者生活コーディネーター」の地域での活動を通し学びを深める。

到達目標

- ・対象者（妊娠・分娩・産褥期の女性）およびそのパートナーや家族に対する看護過程を実施できる。
- ・ライフサイクル各期の発達過程にある女性の健康問題を理解し援助する。
- ・生命誕生、親としての存在について考えを深める。
- ・対象者の人間性を尊重し、倫理的な態度や能力を養う。
- ・主体的に学習する態度を身につけ、対象者との関係性を通して学びを深めていくことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 母性看護学実習(2週間) 3年次 平成28年10月3日(月)～12月23日(金) 平成29年1月9日(月)～7月14日(金)
AL	○実習施設:下記のいずれかで行う。 1. 母性看護学実習:大阪暁明館病院、大阪済生会中津病院、北野病院、第二協立病院、市立伊丹病院 2. 母性看護学実習:助産院、乳がんサポートセンター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 母性看護学実習実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 母性看護学実習実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前:母性看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの講義及び演習・看護過程を復習しておくこと。
備考	国家試験の過去問題について、実習の前後に確認しておくことよい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学実習	八田 勘司 美王 夏紀 高橋 篤信	実習	3 年次後期 4 年次前期	必修	2	90	KSP31406

科目の概要

精神に障害を持つ対象者との関わりを通じて、生命の尊厳、人間としての基本的な権利とその家族への理解を深める。また、精神に障害を持つために、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に生かし、人格を有する全人的存在として、個別性を尊重したヒューマンケアを実践できる基礎的能力を育む。

到達目標

- ・精神に障害を持つ対象者を総合的に理解し、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。
- ・プロセスレコードを用いながら、患者―看護師間の治療的相互関係を通してお互いに成長できる。
- ・受け持ち患者に対してインフォームド・コンセントに基づいたケアプランを立案し、実施できる。
- ・精神に障害を持つ対象者および家族の地域での生活を理解し、社会資源や医療、多職種との連携について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 精神看護学実習(2週間) 3年次 平成28年1月9日(月)～3月17日(金) 4年次 平成28年5月16日(月)～6月17日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。 精神看護学実習:医療法人 清心会 八尾こころのホスピタル NP0法人 フェルマータ 訪問看護ステーション みのり 訪問看護ステーション みのり(サテライト) 訪問看護ステーション みなぎの その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 精神看護学実習実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 精神看護学実習実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論実習	藤田 俱子 上田 裕子 寺田 准子	実習	3 年次後期 4 年次前期	必修	2	90	KSP31407

科目の概要

訪問看護ステーションの実習を通して、在宅看護対象者の援助を実際に体験し、個別的な看護活動や役割、機能を学ぶ。さらに、行政機関や福祉関連機関との連携、生活環境や社会資源の活用の実際を体験する。
在宅で生活している人々の健康や QOL の向上を目指した活動が、各活動の場により、どのように活動展開し、連携しているのかを学ぶ。訪問看護ステーションにおける在宅看護活動を中心に在宅で医療や介護を必要としている人々への看護や役割、機能について学ぶ。また、行政機関や福祉機関との連携について学び理解する。

到達目標

- ・地域で暮らす在宅看護の対象者や家族の自立支援や QOL を保証する訪問看護の役割と機能について多角的にとらえ、考察できる。
- ・在宅看護の対象者と家族のニーズおよび生活特性を尊重する援助について考察できる。
- ・地域で暮らす対象者を支援する地域包括ケアシステムにおける多職種連携とそのチームケアの一員としての看護職の役割を理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 在宅看護論実習(2週間) 3年次 平成28年10月3日(月)～12月16日(金) 平成29年1月6日(金)～3月17日(金) 4年次 平成29年5月8日(月)～7月21日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。 1. 訪問看護ステーション 2. 地域包括支援センター 3. 居宅介護支援事業所 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 在宅看護論実習実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度後期～平成29年度前期 在宅看護論実習実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習では在宅看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの講義および演習内容を復習しておく。 事後学習では学生が暮らす地域の地域包括ケアシステムについて確認する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
総合実習	看護系教員	実習	4年次前期	必修	2	90	KSP41401

科目の概要

これまでの領域別実習の経験を踏まえ、保健・医療・福祉チームの一員として行動するために必要な実践能力を育成するための基盤をつくと同時に、看護の本質を追究し、看護学の将来展望が描けるようにする。実習では、保健医療福祉チームの位置づけや目標、役割、情報の伝達方法やコーディネート方法を学ぶ。また、看護の現実から生じた疑問や課題を既習の知識や理論を活用し、解決策を創造的に考えることができるようにする。さらに、変化する医療社会における看護組織のあり方についても考え方を深め、看護専門職としての自己の課題が明確にできるようにする。

到達目標

- ・保健医療チームの位置づけや目標、役割、情報伝達の方法やコーディネート方法が説明できる。
- ・看護の現実から生じた疑問や課題を既習の知識や理論を活用し、解決策を考えることができる。
- ・変化する医療社会における看護組織のあり方について、考え方を深めことができる。
- ・看護専門職として自己の課題が明確にできる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間 総合実習(2週間) 4年次 平成28年 7月下旬 ～ 9月上旬まで 実習の詳細については、別途配布する「平成28年度 総合実習要項」による。

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成28年度 総合実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：1年次「基礎看護学Ⅰ(概論)」で学んだ「看護の役割と機能」「看護の継続性と情報共有」「看護の提供のしくみ」について復習する。また3年次「看護マネジメント学Ⅰ(リスクマネジメント)」で学んだ内容を復習する。 事後学習：変化する医療社会における看護組織のあり方について考えをまとめ、看護専門職者としての自己の課題を明確にしておく。
備考	

助産学専攻科

2016年度（平成28年度） 授業計画（SYLLABUS）

目 次

助産学専攻科

卒業要件	146
教育課程	147
授業科目（授業要項と授業内容）、凡例.....	149
Ⅰ 基礎助産学	151
Ⅱ 助産診断・技術学	155
Ⅲ 地域母子保健論	161
Ⅳ 助産管理	163
Ⅴ 助産学実習	165
Ⅵ 助産学実践関連	169

助産学専攻科の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 感性豊かな人間性と、専門職者としての倫理観を養う。
- (2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点に立って、女性のライフステージ各期の健康問題に対応する能力を育成する。
- (3) 人の心の健康と人の心の自由を大切に思い、想像力豊かに様々なライフスタイルの女性の健康支援を担う能力と技術を養う。
- (4) 母子保健のニーズを助産師として捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を養う。
- (5) チーム医療の一員として、自己の役割と責任を自覚し、協働できる力を養う。
- (6) アート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める能力と技術を養う。

アドミッションポリシー

1. 感性豊かな人間性と、生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を育める素養のある人
2. 協調性、責任感があり、自律したパーソナリティを持つ人
3. 助産師として地域社会に貢献する意思を持った人
4. 幅広く学問を学ぼうとする向上心・探求心・創造性を持っている人

カリキュラムポリシー

助産学専攻科におけるカリキュラムは、本学の理念であるアートを駆使した特色あるカリキュラム構成である。助産学基礎領域、助産学関連領域、助産学実践領域の講義・演習は実習施設との連携により助産師の専門教育を育んでいる。

＜助産学基礎領域＞

- (1) ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
- (2) マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び

(3) 専門職としての責務と倫理の学び

＜助産学関連領域＞

- (1) 都市型の健康問題・社会問題について、地域に根ざした助産師としての取り組みができる「アーバンヘルス」の学び
- (2) 乳幼児や家族を対象とした継続ケアが展開できる「アタッチメント・ヨガ、ベビーマッサージ」の学び
- (3) アート＝技を駆使し、悲しみに向き合う家族に寄り添う援助者としての働きができる学び

＜助産学実践領域＞

- (1) 助産ケアや周産期ハイリスクの母子看護など、育児支援に向けて他職種と連携・協働し専門性を発揮できる学び
- (2) リプロダクティブヘルスに関わる支援者として活躍できる学び
- (3) 女性の健康を守るケアの専門職者として自立した行動と責務を遂行できる学び

ディプロマポリシー

助産学専攻科は看護基礎教育を生かし、大学の理念や教育目的を基盤とした助産の理論や実践を修得し、専門職者として以下の能力が認められること。

1. グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力
2. 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力
3. 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学習を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席がなければ単位取得資格が得られません。

「Student Guide Book 2016」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け、助産師になるという目標を掲げていることでしょう。目標達成に向けて、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2016年4月1日

宝塚大学
助産学専攻科

2016年度（平成28年度）学年暦

宝塚大学 助産学専攻科（大阪梅田キャンパス）

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
H 28 ・ 4 月						1	2	4/1～4/4 オリエンテーション 4/5 入学式 4/6 前期授業開始	10 月							1	
	③	4	5	6	7	8	9			②	3	4	5	6	7	(8)	
	⑩	11	12	13	14	15	16			⑨	⑩	11	12	13	14	15	
	⑬	18	19	20	21	22	23			⑬	17	18	19	20	21	22	
	⑳	25	26	27	28	㉑	30			⑯	24	25	26	27	28	29	
										㉒	31						
5 月	①	②	③	④	⑤	6	7	5/2 創立記念日振替休業日	11 月			1	2	③	4	5	11/28～12/2（地域母子保健実習）
	⑧	9	10	11	12	13	14	⑥		7	8	9	10	11	12		
	⑮	16	17	18	19	20	21	⑬		14	15	16	17	18	19		
	⑳	23	24	25	26	27	28	㉑		21	22	㉒	24	25	26		
	㉑	30	31					㉑		28	29	30					
6 月				1	2	3	4		12 月					1	2	3	年末年始休業（12/28～1/5）
	⑤	6	7	8	9	10	11			④	5	6	7	8	9	10	
	⑫	13	14	15	16	17	18			⑪	12	13	14	15	16	17	
	⑮	20	21	22	23	24	25			⑮	19	20	21	22	㉒	24	
	㉑	27	28	29	30					㉑	26	27	(28)	(29)	(30)	(31)	
7 月						1	2	7/4～助産学実習Ⅰ・Ⅲ 7/18～助産学実習Ⅱ・Ⅲ	H 29 ・ 1 月	①	②	(3)	(4)	(5)	6	7	
	③	4	5	6	7	8	9			⑧	⑨	10	11	12	13	14	
	⑩	11	12	13	14	15	16			⑮	16	17	18	19	20	21	
	⑬	⑮	19	20	21	22	23			㉑	23	24	25	26	27	28	
	㉑	25	26	27	28	29	30			㉑	30	31					
	㉒																
8 月		1	2	3	4	5	6	学校閉館（8/12～8/17）	H 29 ・ 2 月				1	2	3	4	2/中旬 助産師国家試験
	⑦	8	9	10	⑪	(12)	(13)			⑤	6	7	8	9	10	⑪	
	⑭	(15)	(16)	(17)	18	19	20			⑫	13	14	15	16	17	18	
	㉑	22	23	24	25	26	27			⑮	20	21	22	23	24	25	
	㉑	29	30	31						㉑	27	28					
9 月					1	2	3		H 29 ・ 3 月				1	2	3	4	3/11 修了式（予定）
	④	5	6	7	8	9	10			⑤	6	7	8	9	10	11	
	⑪	12	13	14	15	16	17			⑫	13	14	15	16	17	18	
	⑮	⑮	20	21	㉒	23	24			⑮	⑮	21	22	23	24	25	
	㉑	26	27	28	29	30				㉑	27	28	29	30	31		

…授業日

印…日曜・祝祭日（休業日）

助産学専攻科の修了要件

本専攻科を修了するためには、1年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

助産学専攻科

基礎助産学	6単位	以上
助産診断・技術学	11単位	以上
助産学実習	12単位	以上
助産学実践関連	4単位	以上
計	33単位	以上

助産学専攻科の教育課程

助産学専攻科の教育課程は基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健論、助産管理学、助産学実習、助産学実践関連の6つの領域から成ります。

基礎助産学の中には、助産学を学ぶ上での基礎的能力を習得することを目的とした「助産学概論」や「周産期の生理と病態Ⅰ・Ⅱ」「母子の心理社会学」の科目があります。

助産診断・技術学は妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期までの対象に助産過程を展開する際に必要な基礎的能力と、判断力、実践能力を習得することを目指して展開する科目です。

助産学実践関連の中には都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルステ論」や周産期のグリーフケアと癒しについて考える「アートとグリーフケア」など本専攻科に特有の科目があります。また、助産師として提供できる技術として「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」を習得できます。

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式	科目番号(連番)
JSP=専門分野	1=1年次レベル	1=必修 2=選択必修	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習
	+	+	+
			01~99

助産学専攻科 教育課程

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	修了要件
				必修	選択		
基礎助産学	助産学概論	JSP11101	1 前期	1		30	必修6単位
	周産期の生理と病態Ⅰ	JSP11102	1 前期	2		30	
	周産期の生理と病態Ⅱ	JSP11103	1 前期	2		30	
	母子の心理社会学	JSP11104	1 前期	1		15	
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1 前期	1		15	必修11単位
	助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1 前期	2		60	
	助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1 前期	1		30	
地域母子保健論	地域母子保健論	JSP11105	1 前期	1		15	必修11単位
助産管理	助産管理学	JSP11106	1 後期	2		30	
助産学実習	助産学実習Ⅰ	JSP11401	1 通年	3		135	必修12単位
	助産学実習Ⅱ	JSP11402	1 通年	6		270	
	助産学実習Ⅲ	JSP11403	1 通年	2		90	
	地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	1		45	
助産学実践関連	助産学研究	JSP11107	1 後期	1		30	必修2単位
	アーバンヘルス特論	JSP11108	1 後期	1		15	
	アートとグリーフケア	JSP12201	1 後期		1	15	選択必修 2単位以上
	アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1 後期		1	30	
	アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1 後期		1	30	
修了要件単位数							33単位以上
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2016年度（平成28年度）のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。

- I. 基礎助産学
- II. 助産診断・技術学
- III. 地域母子保健論
- IV. 助産管理
- V. 助産学実習
- VI. 助産学実践関連

2. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学概論	小神野雅子	講義	1 年次 前期	必修	1	30	JSP11101

科目の概要

助産の意義や基本概念を理解し、助産師の役割と責務を遂行するための知識について学習する。助産の変遷や国際比較、母子保健の動向や生命倫理についての学なびを通し、自己の助産観、倫理観を養う。

到達目標

- ・助産の意義と基本概念を述べることができる。
- ・助産の変遷を理解し、母子保健の動向や今日の助産師活動を説明できる。
- ・助産師の責務や役割が理解できる。
- ・助産師教育や助産師業務の変遷や国際比較を理解し、課題を述べることができる。
- ・助産師としての職業倫理、生命倫理について自己の倫理観を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	助産の概念 助産の定義・意義・対象 助産の変遷①
第 2 回	助産の変遷② 助産の将来
第 3 回	助産師の専門性と責任
第 4 回	助産師の声明／コアコンピテンシー
第 5 回	助産学を支える理論
第 6 回	助産師教育の変遷(日本および諸外国)
第 7 回	助産の国際比較 (助産師教育と助産師業務)
第 8 回	助産師職能団体の活動 (日本看護協会、日本助産師会、助産師国際連盟)
第 9 回	母子保健の歴史と現状
第10回	母子保健の動向と諸制度
第11回・AL	助産と生命倫理
第12回・AL	生殖医療と倫理について①
第13回・AL	生殖医療と倫理について②
第14回・AL	優生保護法・人工妊娠中絶と倫理的問題
第15回	助産師を取り巻く医療課題と助産師活動

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	課題レポート
教科書	助産学講座 1 『助産学概論』 我部山キヨ子・武谷雄二編、医学書院
参考文献	・助産師基礎教育テキスト『助産学概論』 山本あい子編 日本看護協会出版会 ・他、適宜配布する
オフィスアワー	随時相談に応じる
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前：テキストの該当箇所を読んで参加する 事後：講義内容を振りかえる
備考	グループワークやALには積極的に参加してください。講義での学びが、その後の実習の礎となり、自己の助産師観の構築と専門的・臨床的態度の習得につながることを期待します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
周産期の生理と病態Ⅰ	前原 将男	講義	1 年次 前期	必修	2	30	JSP11102

科目の概要

妊娠中の生理（正常経過）と検査方法について学ぶ。また妊娠初期から後期における母体と胎児の異常な経過、妊娠に伴う合併症や感染症について学ぶ。

到達目標

妊娠期における母体と胎児の生理的变化ならびに異常について理解することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠中の生理 ①
第2回	妊娠中の生理 ②
第3回	妊娠中の生理 ③
第4回	妊娠初期の異常 ①
第5回	妊娠初期の異常 ②
第6回	妊娠中期～後期の異常 ①
第7回	妊娠中期～後期の異常 ②
第8回	妊娠中期～後期の異常 ③
第9回	合併症妊娠
第10回	母子感染症 ①
第11回	母子感染症 ②
第12回	妊娠期の栄養①
第13回	妊娠期の栄養②
第14回	新生児の生理と病態①
第15回	新生児の生理と病態②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験
教科書	病気がみえる 第3版 Vol.10
参考文献	最新産科学 正常編 文光堂、最新産科学 異常編 文光堂
オフィスアワー	講義終了後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：教科書の該当ページを読むこと 事後学習：各自講義内容を復習すること
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
周産期の生理と病態Ⅱ	奥 正孝	講義	1 年次 前期	必修	2	30	JSP11103

科目の概要

分娩期・産褥期の母体と胎児の異常な経過、分娩や産褥の経過に影響を及ぼす基礎疾患や感染症の概要診断法、治療法について教授する。
さらに、周産期において、年齢条件、基礎疾患、分娩時の状態からハイリスクにある女性と胎児、新生児に対して、生理的経過からの逸脱をアセスメントし、ケアを行うための基礎知識を教授する。

到達目標

分娩期・産褥期ならびに新生児期における正常な経過や異常について理解することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	分娩期の生理
第 2 回	分娩期の異常 ①
第 3 回	分娩期の異常 ②
第 4 回	分娩期の異常 ③
第 5 回	分娩期の異常 ④
第 6 回	産褥期の生理
第 7 回	産褥期の異常 ①
第 8 回	産褥期の異常 ②
第 9 回	産褥期の異常 ③
第10回	異常出血とDIC
第11回	新生児期の病態生理
第12回	産褥期の栄養①
第13回	産褥期の栄養②
第14回	ハイリスク新生児の病態①
第15回	ハイリスク新生児の病態②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験
教科書	病気がみえる 第3版 Vol.10 新生児学入門 第4版 仁志田博司 医学書院
参考文献	最新産科学 正常編 文光堂、最新産科学 異常編 文光堂
オフィスアワー	講義終了後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：教科書の該当ページを読んでもくること 事後学習：各自講義内容を復習すること
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母子の心理社会学	安達圭一郎	講義	1 年次 前期	必修	1	15	JSP11104

科目の概要

女性を取り巻く心理社会的状況について、科学的根拠を重視しながら以下の視点から解説する。

- ・女性のライフサイクルと心理社会的諸問題
- ・周産期にみられる心理社会的諸問題と科学的根拠のある介入法

到達目標

- ・それぞれのライフステージで起こりやすいメンタルヘルスの諸問題を具体的に挙げ、効果的な援助技法を説明できる。
- ・周産期女性のメンタルヘルスを維持・増進させる客観的介入技法や家族・社会のあり方について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	女性のライフサイクルと心理社会的諸問題 ① 思春期・青年期
第 2 回	女性のライフサイクルと心理社会的諸問題 ② 成人期
第 3 回	女性のライフサイクルと心理社会的諸問題 ③ 中年期・老年期
第 4 回	周産期にみられる心理社会的諸問題の概説
第 5 回	愛着形成に寄与する問題と母親の役割
第 6 回	周産期うつのメカニズムと科学的根拠のある介入技法
第 7 回	周産期の女性を支える家族・社会のあり方について
第 8 回	育児期の子育て支援について

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末試験 100%
教科書	助産学講座 4・母子の心理・社会学 医学書院
参考文献	なし
オフィスアワー	
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習（教科書の次回テーマ部分を読んでおくこと・1 時間） 事後学習（講義内容の復習・1 時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
助産診断・技術学Ⅰ	小神野雅子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11201

科目の概要

妊娠の生理とフィジカルアセスメントの視点を教授し、妊娠期の助産診断ができる能力を養う。また、妊婦への身体的ケア及び心理的なケアの具体的な内容や方法を教授する。

到達目標

- ・妊娠各期の助産診断ができる。
- ・妊婦と家族への支援内容や援助技術について理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産診断とマタニティ診断
第2回	妊娠期の助産診断
第3回・AL	妊娠期の援助技術
第4回・AL	妊娠初期の助産診断
第5回・AL	妊娠初期の助産計画
第6回・AL	妊娠中期の助産診断と助産計画
第7回・AL	妊娠後期の助産診断と助産計画
第8回	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	課題評価：30% 筆記試験：70%
教科書	助産診断・技術学Ⅱ 医学書院 マタニティ診断第3版 医学書院
参考文献	今日の助産 第3版南江堂
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	
備考	助産過程の展開を事例を用いて行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
助産診断・技術学Ⅱ	小神野雅子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11202

科目の概要

正常分娩、ハイリスク分娩の生理とフィジカル・アセスメントの視点を教授し、分娩期の助産診断ができる能力を養う。また、正常産婦とハイリスク産婦への身体的ケア及び心理的ケアの具体的な内容や方法を教授する。

到達目標

- ・分娩各期の助産診断ができる。
- ・産婦と家族への支援内容や援助技術について理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	分娩の生理と心理社会的変化
第2回	分娩期の助産診断の特徴と診断類型
第3回	分娩期の経過診断 フィジカル・アセスメント
第4回	正常経過の助産診断(1)
第5回・AL	正常経過の助産診断(2)
第6回・AL	分娩期の助産計画
第7回	分娩期の異常と偶発疾患
第8回・AL	GBS陽性産婦の助産診断と助産計画
第9回・AL	前期破水の助産診断と助産計画
第10回・AL	分娩1期遷延の助産診断
第11回・AL	遷延分娩の助産計画
第12回・AL	遷延分娩の助産計画(促進分娩)
第13回・AL	分娩時異常出血の助産診断
第14回・AL	分娩時異常出血の際の助産計画
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験 70% 課題レポート 30%
教科書	助産診断・技術学Ⅱ 医学書院 マタニティ診断第3版 医学書院
参考文献	今日の助産 第3版南江堂
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	
備考	助産過程の展開を事例を用いて行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅲ	松田 佳子	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	15	JSP11203

科目の概要

正常な過程を有した褥婦とハイリスク褥婦のフィジカルアセスメントの視点を教授するとともに、正常産褥期における基本的な助産診断・助産計画の立案を考える。また、安全で根拠に基づいた褥婦への身体的ケアおよび心理的なケアの具体的な内容や方法・援助技術を教授する。

到達目標

正常に経過するための産褥期における支援内容や援助技術の理解を習得し、退院後の生活に向けてセルフケア能力を高めるための保健指導のあり方について考える。
また母児一貫したケアの重要性を認識し、正常産褥における助産診断ならびに基本的な助産計画の立案ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	産褥期の生理と心理社会的変化
第 2 回	家庭・社会生活復帰への支援(退院・沐浴指導)
第 3 回	産褥期の異常とその支援
第 4 回	乳房管理
第 5 回・AL	助産診断類型とフィジカルアセスメント
	産褥期の助産診断①
第 6 回・AL	産褥期の助産診断②
第 7 回・AL	産褥期の助産計画①
第 8 回・AL	産褥期の助産計画②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験
教科書	助産診断・技術学Ⅱ [2]、分娩期・産褥期 医学書院、マタニティー診断第 3 版 医学書院 母乳育児支援スタンダード 医学書院
参考文献	今日の助産 第 3 版南江堂
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	自己の時間を用いて授業内容に基づいた事前・事後学習を随時行って下さい。
備考	事例を用いた助産過程の展開ならびに標準的な助産計画の立案を行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
助産診断・技術学Ⅳ	松田 佳子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11204

科目の概要

正常新生児の出生後の適応過程ならびに生理的変化とフィジカルアセスメントの視点を教授するとともに、正常新生児の基本的な助産診断。助産計画の立案を考える。また、出生後の女性と家族が子どもを育てていく上で必要な新生児と乳幼児の生理、かかり易い疾患と病態、健康診査に関する基礎的な知識、家庭生活への適応に関するケアの具体的な内容や方法を教授する。

到達目標

新生児期の助産診断ができる能力を養い、専門家として養育者への支援を行う能力を養う。
また母児一貫したケアの重要性を認識し、助産診断ならびに基本的な助産計画の立案ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新生児の生理学的適応過程
第2回	新生児のフィジカルアセスメント
第3回	出生時・出生後の早期新生児ケア
第4回	家庭生活へのフォローアップおよび乳幼児の健康診査
第5回・AL	新生児の助産診断①
第6回・AL	新生児の助産診断②
第7回・AL	新生児の助産計画①
第8回・AL	新生児の助産計画②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験
教科書	助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 医学書院、新生児学入門 医学書院
参考文献	新生児・周産期ナースの疾患別ケア メディカ出版
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	自己の時間を用いて授業内容に基づいた事前・事後学習を随時行って下さい。
備考	事例を用いた助産過程の展開ならびに標準的な助産計画の立案を行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅰ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	演習	1 年次 前期	必修	2	60	JSP11301

科目の概要

助産師に求められる実践能力として、女性の性と生殖にかかわる健康問題をはじめ、周産期（妊娠期～産褥 1 か月）における妊産褥婦および胎児・新生児の健康診断・健康生活診断に必要な基礎的診断技術や支援技術を教授する。

到達目標

対象となる妊婦およびその家族が安全・安楽で満足度の高い妊娠・出産・育児を経験できるように具体的な援助方法を学ぶ。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	妊婦の健康診査と保健指導 ①
第 2 回・AL	妊婦の健康診査と保健指導 ②
第 3 回・AL	妊婦の健康診査と保健指導 ③
第 4 回・AL	分娩介助技術 ①
第 5 回・AL	分娩介助技術 ②
第 6 回・AL	妊婦の診断技術
第 7 回・AL	産婦の診断技術
第 8 回・AL	産褥の診断技術
第 9 回・AL	新生児の診断技術
第10回	胎児の発育・健康状態のアセスメントに必要な超音波診断法
第11回・AL	産褥の援助技術
第12回・AL	分娩介助技術 ③
第13回・AL	分娩介助技術 ④
第14回・AL	母乳育児支援 ①
第15回・AL	母乳育児支援 ②
第16回・AL	分娩介助技術 ⑤
第17回・AL	分娩介助技術 ⑥
第18回・AL	フリースタイル分娩
第19回・AL	分娩介助技術 ⑦
第20回・AL	分娩介助技術チェック
第21回・AL	分娩介助技術チェック
第22回・AL	分娩介助技術チェック
第23回・AL	分娩介助技術チェック
第24回・AL	分娩介助技術チェック
第25回	母乳育児支援 ③
第26回・AL	母乳育児支援 ④
第27回・AL	新生児蘇生法 ①
第28回・AL	新生児蘇生法 ②
第29回・AL	新生児蘇生法 ③
第30回・AL	新生児蘇生法 ④

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	演習評価 50% 分娩介助技術評価 50%
教科書	助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 [2] 分娩期・産褥期 [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院 母乳育児支援スタンダード 医学書院 新生児蘇生法テキスト MEDICAL VIEW
参考文献	助産師のフィジカルイグザミネーション 医学書院
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	沐浴技術、妊産褥婦・新生児のフィジカルイグザミネーション、分娩介助技術の習得
備考	退院・沐浴指導のロールプレイおよび助産技術に関する技術テストを行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅱ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	30	JSP11205

科目の概要

女性のライフサイクル各期における健康教育の在り方および必要性について解説する。また性と生殖にかかわる専門家として、家族計画を实践するために様々な知識と技術を教授する。

到達目標

母子保健に関連する健康課題における健康教育の計画・立案・実施・評価のプロセスについて実践することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	援助としての相談・教育活動と健康教育
第 2 回	両親学級について
第 3 回・AL	健康教育の企画 ①
第 4 回	女性の健康問題と援助 ①
第 5 回・AL	健康教育の企画 ②
第 6 回・AL	健康教育の企画 ③
第 7 回・AL	健康教育の企画 ④
第 8 回	女性の健康問題と援助 ②
第 9 回	女性の健康問題と援助 ③
第10回	家族計画指導について
第11回・AL	健康教育の企画 ⑤
第12回・AL	健康教育の実際 ①
第13回・AL	健康教育の実際 ②
第14回・AL	受胎調節に必要な基本的技術 ①
第15回・AL	受胎調節に必要な基本的技術 ②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	演習評価
教科書	助産診断・技術学Ⅰ 医学書院、助産診断技術学Ⅱ 医学書院、新受胎調節指導用テキスト
参考文献	授業内で適宜指導します。
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	自己時間を用いて保健指導案の作成。
備考	受胎調節および両親学級のロールプレイを行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健論	徳永 羊子	講義	1 年次 前期	必修	1	15	JSP11105

科目の概要

母子を取り巻く情勢をまなび、地域の中で母子が置かれている状況をしり、また、統計から現状を読み解く。
母子保健活動の実際を知り、どのような制度があり、関わっている職種との連携のあり方を模索し、地域の中で助産師としての役割を考える。

到達目標

- ・地域で生活する母子の状況が理解できる。
- ・母子に関する法律や制度を理解する。
- ・医療の場・行政の場等で活躍できる助産師を目指す。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	地域母子保健の意義
第 2 回	母子保健の現状と動向
第 3 回	地域母子保健行政の体系
第 4 回	地域母子保健活動の展開①
第 5 回	地域母子保健活動の展開②
第 6 回	地域母子保健活動の展開③
第 7 回	国際母子保健①
第 8 回	国際母子保健②

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート 80% 小テスト 20%
教科書	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健
参考文献	国民衛生の動向
オフィスアワー	授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産管理学	小神野雅子	講義	1 年次 後期	必修	2	30	JSP11106

科目の概要

助産管理の基本的な知識及び、産科病棟・院内助産システム・助産所など実践場所ごとの管理の特徴や課題、リスクマネジメントの方法などを学習する。

到達目標

- ・助産業務の範囲と法的責任を理解し、倫理的観点を踏まえた助産業務管理に必要な知識を学ぶ
- ・助産業務を効果的・効率的に遂行できる基本的能力および危機管理能力を養う。
- ・開業助産所や院内助産所の開設と運営方法について理解し、周産期の医療連携の観点から助産師の役割について学ぶ。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	授業ガイダンス 看護管理・助産管理の基本 助産管理の概念
第 2 回	助産と医療経済 助産業務と関連法規 助産師の法的責任と義務
第 3 回	周産期の医療事故とリスクマネジメント①
第 4 回	周産期の医療事故とリスクマネジメント②
第 5 回	病院における助産業務管理過程 助産業務管理方法
第 6 回	病院における助産業務管理
第 7 回	周産期管理システム （新生児集中治療室）
第 8 回	周産期管理システム （母体搬送システム オープンシステム）
第 9 回	院内助産システムについて
第10回	災害時の助産管理 助産師活動
第11回	助産師として考える倫理
第12回	望ましい助産ケアと助産管理
第13回	開業助産所における助産管理①
第14回	開業助産所における助産管理②
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	筆記試験
教科書	助産学講座 10、医学書院
参考文献	助産師業務要覧 I・II、日本看護協会出版会、他適宜提示する
オフィスアワー	講義終了後 30 分
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：教科書の該当箇所を読んで講義に参加すること 事後学習：各自、講義内容を復習のこと
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
助産学実習Ⅰ	小神野雅子 松田 桂子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	3	135	JSP11401

科目の概要

助産診断・技術学の学びを基に、妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う。また、外来における妊婦管理、病棟における産婦管理、母児管理の実際を見学し、施設における助産管理の実際や助産業務の範囲について理解を促す。

到達目標

- ・妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開できる。
- ・妊娠各期における必要な保健指導案を作成し、実施できる。
- ・病棟、外来における助産業務の管理・運用を見学し、助産管理の実際や助産業務の管理について理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	実習の詳細については事前オリエンテーションを行う

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	実習態度 実習記録 実習評価表より評価する
教 科 書	なし
参 考 文 献	適宜提示する
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：助産診断・技術学の講義内および事前オリエンテーション時に提示する
備 考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅱ	小神野雅子 松田 桂子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	6	270	JSP11402

科目の概要

分娩期、産褥期、新生児期にある母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う。本実習では10例程度の正常分娩の直接介助を行う。分娩直接介助を通じて、正常な分娩経過を理解し診断する能力、安全・安楽な分娩に導くための援助方法を習得する。

到達目標

分娩期、産褥期、新生児期（帝王切開を含む）の対象者とその家族に対して助産過程を展開できる。
 ・分娩期、産褥期、新生児期の経過診断、健康生活診断に必要な情報を収集しアセスメント、診断、予測を行うことができる。
 ・産婦、褥婦、新生児への身体的援助及び心理的援助の具体的方法や内容が理解でき助産計画を立案、実施できる。
 ・受け持ち対象者と家族に必要な保健指導が実施できる。
 ・正常な経過をたどる産婦、褥婦、新生児に対して必要な援助（分娩介助を含む）を実施できる。
 ・産婦および褥婦、新生児の人権を尊重し擁護できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	実習の詳細については事前オリエンテーションを行う

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	実習態度 実習記録 実習評価表より評価する
教科書	なし
参考文献	適宜提示する
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：助産診断・技術学の講義内、および事前オリエンテーションで提示する
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅲ	小神野雅子 松田 桂子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	2	90	JSP11403

科目の概要

1名の対象者を妊娠中期から受け持ち、妊婦健康診査、保健指導の実施、分娩介助、産褥1か月健診等を通して、アセスメント能力を養うと共に、対象者の個別性を考慮した継続的な支援を行う能力を養う。

到達目標

- ・妊娠期から産褥・新生児期（乳児期）までを継続して受け持ち、退院後の生活を考慮しながら家族を含めた助産過程を展開し、助産診断能力、助産実践能力を習得する。
- ・継続して支援することで、生活圏における母子を支援する他職種、関連機関との連携の在り方を理解する。
- ・継続受け持ちを通して、助産師としての責任や専門性を認識し、職業アイデンティティを形成する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	実習の詳細については事前オリエンテーションを行う

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	実習態度 実習記録 実習評価表より評価する
教科書	なし
参考文献	適宜提示する
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：実習オリエンテーション時に提示する
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
地域母子保健実習	小神野雅子 松田 桂子 中尾 幹子	実習	1 年次 後期	必修	1	45	JSP11404

科目の概要

母子保健活動としての褥婦、新生児の訪問指導や地域組織活動、地域子育て支援の実際を経験する。それぞれの地域での課題をアセスメントすることで、地域的な視点からの母子保健活動の基礎的な能力を養う。

到達目標

各種母子保健事業に参加し、地域母子保健の実際を体験することで以下の目標を達成する。

- ・大阪市の各地域における母子保健上の課題について情報収集を行い、考察する。
- ・各地域における母子保健上のニーズを明らかにするための情報収集を行い、考察する。
- ・大阪市内における母子保健上の課題と母子保健ニーズについてまとめる。
- ・助産院における助産師活動の実際を学び、地域の役割について考察する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	実習の詳細については事前オリエンテーションを行う

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	実習態度 実習記録 実習評価表より評価する
教 科 書	なし
参 考 文 献	適宜提示する
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事前学習：実習オリエンテーション時に提示する 事後学習：課題レポート
備 考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学研究	松田 佳子 小神野雅子	講義	1 年次 後期	必修	1	30	JSP11107

科目の概要

助産専門職としての助産学における研究の意義や重要性を認識し、研究に取り組む姿勢を養うことができる。また研究的視点に立ち、エビデンスに基づくケアの利益について、母親・新生児を含めた家族や助産師、そして社会の観点から、研究計画を立案・論文の作成を行うことで、助産の実践に必要な援助の方法を探索することができる。

到達目標

- ・助産学研究の意義や重要性、倫理的配慮について理解することができる。
- ・研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークを通して論理的推論の技能を発展させながら研究活動を展開することができる。
- ・事例研究として対象に実施した助産ケアを振り返り、エビデンスに基づくケアの利益について分析・考察することができる。
- ・事例研究の成果を発表し、活発的な質疑応答を行うことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回	イントロダクション:助産学研究とは
第 2 回	研究のアプローチ:量的研究・質的研究・事例研究とは
第 3 回	倫理的配慮とは・文献探索
第 4 回	文献クリティーク
第 5 回・AL	文献クリティーク
第 6 回・AL	文献検索
第 7 回・AL	研究計画書の立案・個別指導
第 8 回・AL	研究計画書提出(研究テーマの設定・文献探索、文献整理)・個別指導
第 9 回・AL	事例研究・個別指導
第10回・AL	事例研究・個別指導
第11回・AL	事例研究・個別指導(論文の作成)
第12回・AL	事例研究・個別指導(論文の作成及び発表原稿・パワーポイントの作成)
第13回・AL	研究プレゼンテーション「口演発表」(1グループ:2月)
第14回・AL	研究プレゼンテーション「口演発表」(2グループ:2月)
第15回	まとめ・提出(集団指導作成資料も含む)

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	グループ討議の参加度 論文提出 (事例研究発表資料も含む)
教科書	特になし
参考文献	必要に応じて資料を配付
オフィスアワー	随時相談に応じる
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	基礎教育での学びを大切に講義に望むこと。(テキスト・資料やまとめた論文に目を通し授業に参加すること)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	講義	1 年次 後期	必修	1	15	JSP11108

科目の概要

思春期青年期の健康課題として、性感染症・HIV/AIDS といった性に関わること、違法ドラッグ・危険ドラッグなどの薬物に関することや児童虐待やメンタルヘルスなど、都市部在住の若年層に集中的に観測される健康課題・社会的課題がある。講義では多領域の知見と理論、実証データや事例を通じて、これらについて解説する。

到達目標

社会的にマージナルな存在に追い込まれてしまうことが多い健康課題・社会的課題について、疫学的視点を持って理解することを目指す。講義では実証研究によって示されるエビデンスに加えて、アクションリサーチなどの介入研究によって示される知見を通じて、理解を深めることを目標とする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第 1 回・AL	イントロダクション
第 2 回・AL	都市部の若者における薬物使用の現状
第 3 回・AL	わが国の性教育の変遷と都市部におけるHIV感染リスク行動の現状
第 4 回・AL	滞日外国人における医療の現状と課題
第 5 回・AL	虐待・性暴力被害の現状と支援(1)
第 6 回・AL	虐待・性暴力被害の現状と支援(2)
第 7 回・AL	格差・不平等・健康課題(1)
第 8 回・AL	講義のまとめと振り返り

AL はアクティブラーニングの略

成 績 評 価 方 法	定期試験によって評価する。
教 科 書	適宜配付資料を用意します。
参 考 文 献	適宜紹介します。
オ フィ ス ア ワ ー	水曜日 12:30～13:30
事前学習(内容・時間) 事後学習(内容・時間)	事前学習：第1回イントロダクションおよび講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること。 事後学習：随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること。
備 考	講義中の私語・携帯電話の使用等は厳禁とします。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アートとグリーフケア	坂下 裕子	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	15	JSP12201

科目の概要

周産期は、妊娠の喜びと出産・育児への期待に満ち溢れるさなかで、深刻な告知がなされたり、思いがけない別れが訪れたりする時期でもある。そのとき、当事者のやり場のないグリーフにどう寄り添うことができるか。患者さんやご家族へのグリーフケアのあり方を、解説とディスカッションを交えて考える。母親自ら行うグリーフワークや、医療者自身のグリーフケアについても検討する。

到達目標

- ・当事者のさまざまな思いを受けとめるために必要な知識を習得する。
- ・当事者の心の揺れに寄り添うために必要な技術を習得する。
- ・正解を導き出すことが難しい問いに対し、熟考し、自分の言葉で表現する感性を養う。
- ・圧倒的なグリーフを前にしたとき、どう行動するか、独自の考えを形成する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	グリーフとは グリーフケアとは
第2回	さまざまなグリーフ 深刻な告知・複雑性悲嘆・子どものグリーフなど
第3回	グリーフケアにおける日本語のもつはたらき
第4回	グリーフケアにおける非言語によるコミュニケーション
第5回・AL	グリーフケアの基本「きく」ということ
第6回	周産期のグリーフとグリーフケア その特徴
第7回	遺族の手記「天国のお友だち」の登場人物への洞察
第8回	周産期の死別体験者の「語り」の解釈
第9回	子どもの遺族が描き出したグリーフプロセス
第10回・AL	医療者自身のグリーフ体験と向き合う
第11回・AL	産科における非言語的ケア「おかあさんと縫う産着」
第12回	ピアサポートの成り立ちと有効性
第13回・AL	産科における死別体験者の「わかちあい」の実践
第14回・AL	産科における死別体験者との意見交換
第15回・AL	グリーフワークを推察する 「ともに生きるりんごの木」

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	平常点（課題への取り組み方、発言や発表の質）50%、期末試験 50%
教科書	坂下ひろこ：天国のお友だち、コモンズ（2001）
参考文献	橋本洋子：NICU ところのケア 家族のころによりそって、メディカ出版（2011）
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	教科書にある4つの実話を読み込み、グリーフに影響を与えると思われる箇所を特定しておく 授業終了時に出す課題について考えをまとめる
備考	答えが出にくい課題に取り組んでいきます。考える姿勢と、積極的な発言に期待します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12202

科目の概要

本科目は妊娠期から子育て初期段階の親子を支援するために、ヨガの呼吸法やポーズを取り入れながら、アタッチメントを育む方法とその背景となる知識を教授する。発達心理学の知識と共にカウンセリングの基礎も学び、実践的な技能を習得する。科目終了時には、アタッチメントヨガ for マタニティ＆ベビーのインストラクター資格の取得に必要な知識とスキル、技能を習得し、資格を取得することが可能となる。

到達目標

・アタッチメントヨガのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント理論
第3回	マタニティ アタッチメント
第4回	ベビー アタッチメント
第5回	アタッチメントヨガ 理論
第6回・AL	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ
第7回・AL	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ
第8回	カウンセリング & 対人援助
第9回・AL	アタッチメントヨガ 実技 ベビー
第10回・AL	アタッチメントヨガ 実技 ベビー
第11回	教室運営
第12回	ヨガ 概論
第13回・AL	企画作りワーク
第14回・AL	インストラクション演習
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	実技テスト 40%、記述テスト 40%、出席および授業態度 20%
教科書	「アタッチメント・ヨガ」テキスト 「アタッチメント・ヨガ概論」DVD
参考文献	なし
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事後：講義内容の復習、事後レポートの提出有
備考	講義終了後、実技テスト、記述テストに合格したのち日本アタッチメント育児協会の認定資格が申請できます。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバ－
アタッチメント・ベビーマッサ－ジ	松田 佳子 小神野雅子	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	30	JSP12203

科目の概要

ベビーマッサ－ジは「触れる」という行為により、母親と子どもの非言語的コミュニケーションツールとなる。ベビーマッサ－ジを受けることにより、子どもの感情がなだめる、また母親の不安を取り除くなどの効用があり、母子相関係の形成に相互的に役立つ。育児支援の場で役に立つ知識、スキル、技能を習得するとともに、ベビーマッサ－ジの意義、効用、基本的な手技について学び、必要な単位修得後インストラクターの資格を取得する。

到達目標

・アタッチメント・ベビーマッサ－ジのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント育児Ⅰ
第3回	アタッチメント育児Ⅱ
第4回	育児に役立つ発達心理学Ⅰ
第5回	育児に役立つ発達心理学Ⅱ
第6回・AL	「アタッチメント・発達心理」ワーク
第7回	自己心理学
第8回・AL	コフートワーク 振り返りとワークの意義
第9回・AL	育児現場における自己対象体験カンセリング
第10回	ベビーマッサ－ジ理論
第11回・AL	アタッチメントベビーマッサ－ジ インストラクションⅠ
第12回・AL	アタッチメントベビーマッサ－ジ インストラクションⅡ
第13回・AL	インストラクション演習
第14回・AL	インストラクション演習
第15回	まとめ

AL はアクティブラーニングの略

成績評価方法	実技テスト、筆記試験
教科書	「アタッチメント・ベビーマッサ－ジ」テキスト
参考文献	なし
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間） 事後学習（内容・時間）	事後：各自講義内容を復習のこと、事後レポートの提出有
備考	講義終了後、実技テスト、記述テストに合格したのち日本アタッチメント育児協会の認定資格が申請できます。

2016年度 シラバス（授業計画）

編集・発行 宝塚大学 大阪梅田キャンパス
〒530-0012
大阪市北区芝田一丁目13番16号
TEL 06-6376-0853
FAX 06-6373-4829

発行日 2016年（平成28年）4月1日